



System i

プログラミング
i5/OS コマンド
RETURN (戻り) ~

バージョン 6 リリース 1





System i

プログラミング

i5/OS コマンド

RETURN (戻り) ~

バージョン 6 リリース 1

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、335 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM i5/OS (プロダクト番号 5761-SS1) のバージョン 6、リリース 1、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションにも適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

IBM 発行のマニュアルに関する情報のページ

<http://www.ibm.com/jp/manuals/>

こちらから、日本語版および英語版のオンライン・ライブラリーをご利用いただけます。また、マニュアルに関するご意見やご感想を、上記ページよりお送りください。今後の参考にさせていただきます。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： System i
Programming
i5/OS commands
Starting with INZPCS (Initialize Client Access/400)
Version 6 Release 1

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2008.2

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2008. All rights reserved.

目次

戻り (RETURN)	1	オブジェクトのファイル・システム (OBJMFS)	23
パラメーター	1	例	23
例	1	エラー・メッセージ	24
エラー・メッセージ	2		
文書ライブラリー・オブジェクト再編成 (RGZDLO)	3	ジョブ解放 (RLSJJOB)	25
パラメーター	3	パラメーター	25
文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)	4	ジョブ名 (JOB)	26
フォルダー (FLR)	4	重複ジョブ・オプション (DUPIJOB OPT)	26
システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)	4	例	26
最後の参照以降の日数 (DAYS)	5	エラー・メッセージ	27
未ファイル・メールの再編成 (MAIL)	5		
例	5	ジョブ待ち行列解放 (RLSJJOBQ)	29
エラー・メッセージ	6	パラメーター	29
		ジョブ待ち行列 (JOBQ)	29
		例	29
		エラー・メッセージ	30
物理ファイル・メンバー再編成 (RGZPFM) 7		ジョブ・スケジュール項目解放 (RLSJJOBSCDE)	31
パラメーター	8	パラメーター	31
データベース・ファイル (FILE)	8	ジョブ名 (JOB)	31
メンバー (MBR)	9	項目番号 (ENTRYNBR)	32
キー・ファイル (KEYFILE)	9	例	32
アクセス・パスの再作成 (RBDACCP TH)	10	エラー・メッセージ	32
取り消しの許可 (ALWCANCEL)	10		
ロック状態 (LOCK)	10	出力待ち行列解放 (RLSOUTQ)	35
ソース更新オプション (SRCOPT)	11	パラメーター	35
ソース・ステートメントの順序番号付け (SRCSEQ)	12	出力待ち行列 (OUTQ)	35
レコード様式 (RCDFMT)	12	例	35
例	12	エラー・メッセージ	36
エラー・メッセージ	13		
通信装置解放 (RLSCMNDEV)	15	読み取りプログラム解放 (RLSRDR)	37
パラメーター	15	パラメーター	37
装置 (DEV)	15	読み取りプログラム (RDR)	37
例	16	例	37
エラー・メッセージ	16	エラー・メッセージ	37
配布待ち行列の解放 (RLSDSTQ)	17	リモート・フェーズの解放 (RLSRMTPHS)	39
パラメーター	17	パラメーター	39
配布待ち行列 (DSTQ)	17	フェーズ (PHASE)	40
優先順位 (PTY)	18	計画 (PLAN)	40
例	18	適用業務識別コード (APPID)	40
エラー・メッセージ	18	リモート・フェーズの解放 (RMTLOCNAME)	40
		装置記述 (DEV)	40
		例	41
		エラー・メッセージ	41
ファイル・システム・ロックの解除 (RLSIFSLCK)	21	スプール・ファイル解放 (RLSSPLF)	43
パラメーター	21	パラメーター	43
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	21		
オブジェクト (OBJ)	22		
NFSサーバー・ロック (NFSSVRLCK)	23		
ローカル・バイト範囲ロック (LCLBRNGLCK)	23		

スプール・ファイル (FILE)	44
ジョブ名 (JOB)	44
スプール・ファイル番号 (SPLNBR)	44
ジョブ・システム名 (JOBSYSNAME)	45
作成されたスプール・ファイル (CRTDATE)	45
ファイル選択 (SELECT)	46
ASP装置 (ASPDEV)	47
例	47
エラー・メッセージ	48
書き出しプログラム解放 (RLSWTR)	51
パラメーター	51
書き出しプログラム (WTR)	51
書き出し再開位置 (OPTION)	51
開始ページ (PAGE)	52
例	52
エラー・メッセージ	53
ディレクトリーの除去 (RMDIR)	55
パラメーター	56
ディレクトリー (DIR)	56
ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)	57
リンクの除去 (RMVLNK)	57
例	58
エラー・メッセージ	59
アクセス・コード除去 (RMVACC)	61
パラメーター	61
文書アクセス・コード (ACC)	61
例	61
エラー・メッセージ	62
自動開始ジョブ項目除去 (RMVAJE)	63
パラメーター	63
サブシステム記述 (SBSD)	63
ジョブ名 (JOB)	64
例	64
エラー・メッセージ	64
警報記述の除去 (RMVALRD)	65
パラメーター	65
メッセージ識別コード (MSGID)	65
警報テーブル (ALRTBL)	65
例	66
エラー・メッセージ	66
権限リスト項目除去 (RMVAUTLE)	69
パラメーター	69
権限リスト (AUTL)	69
ユーザー (USER)	70
例	70
エラー・メッセージ	70
停止点除去 (RMVBKP)	71
パラメーター	71
ステートメント識別コード (STMT)	71

プログラム (PGM)	72
例	72
エラー・メッセージ	72
バインド・ディレクトリー項目の除去 (RMVBNDIRE)	73
パラメーター	73
ディレクトリーのバインド (BNDDIR)	73
オブジェクトの仕様 (OBJ)	74
例	75
エラー・メッセージ	75
構成リスト項目除去 (RMVCFGLE)	77
パラメーター	77
構成リスト・タイプ (TYPE)	78
APPN ローカル・ロケーション項目 (APPNLCL)	79
APPN リモート・ロケーション項目 (APPNRMTE)	79
構成リスト (CFGL)	79
非同期ネットワーク・アドレス項目 (ASYNCADRE)	80
非同期リモート・ロケーション項目 (ASYNCCLOCE)	80
小売業パススルー項目 (RTLPASTHRE)	80
フィルター 処理制御点名 (FTRCPNAME)	81
フィルター 処理CP ネットワークID (FTRCPNETID)	81
ローカル・ロケーション名 (LCLLOCNAME)	81
SNAパススルー項目 (SNAPASTHRE)	82
例	82
エラー・メッセージ	82
鍵ストア・ファイル項目の除去 (RMVCKMKSFE)	83
パラメーター	83
鍵ストア・ファイル (KEYSTORE)	83
レコード・ラベル (RCDLBL)	84
例	84
エラー・メッセージ	84
通信項目除去 (RMVCMNE)	87
パラメーター	87
サブシステム記述 (SBSD)	87
装置 (DEV)	88
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	89
モード (MODE)	89
例	89
エラー・メッセージ	89
SNMP用コミュニティの除去 (RMVCOMSNMP)	91
パラメーター	91
コミュニティ名 (COM)	91
コミュニティ名の変換 (ASCIICOM)	91
例	92
エラー・メッセージ	92
遅延IDの除去 (RMVDFRID)	93
パラメーター	93

遅延ID (DFRID)	93
例	94
エラー・メッセージ	94

ディレクトリーの除去 (RMVDIR)	95
パラメーター	96
ディレクトリー (DIR)	96
ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)	97
リンクの除去 (RMVLNK)	97
例	98
エラー・メッセージ	99

ディレクトリー項目除去 (RMVDIRE)	101
パラメーター	101
ユーザー識別コード (USRID)	101
ユーザー記述 (USRD)	102
コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	102
例	103
エラー・メッセージ	103

ディレクトリー・シャドー・システムの除去 (RMVDIRSHD)	105
パラメーター	105
システム名 (SYSNAME)	105
データの除去 (RMVDTA)	105
例	106
エラー・メッセージ	106

DLO権限の除去 (RMVDLOAUT)	107
パラメーター	107
文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)	107
フォルダー (FLR)	108
ユーザー・プロファイル (USER)	108
権限リスト (AUTL)	108
文書アクセス・コード (ACC)	108
システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)	109
例	109
エラー・メッセージ	109

配布リスト項目除去 (RMVDSTLE)	111
パラメーター	111
リスト識別コード (LSTID)	111
ユーザー識別コード (USRID)	112
コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	112
例	113
エラー・メッセージ	113

配布待ち行列の除去 (RMVDSTQ)	115
パラメーター	115
配布待ち行列 (DSTQ)	116
例	116
エラー・メッセージ	116

配布経路の除去 (RMVDSTRTE)	119
パラメーター	119
システム名 (SYSNAME)	119

例	120
エラー・メッセージ	120

2次システム名の除去 (RMVDSTSYSN)	121
パラメーター	121
2次システム名 (SYSNAME)	121
例	121
エラー・メッセージ	122

ディスク・ウォッチャー定義の除去 (RMVDWDFN)	123
パラメーター	123
定義 (DFN)	123
例	124
エラー・メッセージ	124

構成項目除去 (RMVEMLCFGE)	125
パラメーター	125
構成項目 (EMLCFGE)	125
例	125
エラー・メッセージ	125

環境変数の除去 (RMVENVVAR)	127
パラメーター	127
環境変数 (ENVVAR)	127
レベル (LEVEL)	127
例	128
エラー・メッセージ	128

EWCバーコード項目の除去 (RMVEWCBCDE)	129
パラメーター	129
バーコード・グループ (BCDGRP)	129
初期設定ソース・メンバー (INZMBR)	129
初期設定ソース・ファイル (INZFILE)	129
例	130
エラー・メッセージ	130

EWC PTC項目の除去 (RMVEWCPTCE)	131
パラメーター	131
PTCグループ (PTCGRP)	131
初期設定ソース・メンバー (INZMBR)	131
初期設定ソース・ファイル (INZFILE)	131
例	132
エラー・メッセージ	132

出口プログラムの除去 (RMVEXITPGM)	133
パラメーター	133
出口点 (EXITPNT)	133
出口点形式 (FORMAT)	133
プログラム番号 (PGMNBR)	133
例	134
エラー・メッセージ	134

フォント・テーブル項目の除去 (RMVFNTTBLE)	135
--	------------

パラメーター	136
フォント・テーブル (FNTTBL)	136
印刷装置からホスト・フォントへ (PHFCS)	137
印刷装置からホスト・コード・ページ (PHCP)	138
ホストから印刷装置フォントへ (HPFCS)	139
ホストから印刷装置コード・ページ (HPCP)	140
印刷装置相互間フォント (PPFCS)	140
例	141
エラー・メッセージ	141

フィルター処置項目の除去

(RMVFTRACNE) 143

パラメーター	143
フィルター (FILTER)	143
グループ (GROUP)	143
例	144
エラー・メッセージ	144

フィルター選択項目の除去

(RMVFRSLTE) 145

パラメーター	145
フィルター (FILTER)	145
順序番号 (SEQNBR)	145
例	146
エラー・メッセージ	146

ICF装置項目除去 (RMVICFDEVE) 147

パラメーター	147
ICF通信ファイル (FILE)	147
プログラム装置 (PGMDEV)	148
例	148
エラー・メッセージ	148

イメージ・カタログ項目の除去

(RMVIMGCLGE) 149

パラメーター	149
イメージ・カタログ (IMGCLG)	149
イメージ・カタログ索引 (IMGCLGIDX)	150
イメージ・カタログ・ボリューム (VOL)	150
イメージ・ファイルの保持 (KEEP)	150
例	150
エラー・メッセージ	151

IP OVER SNA インターフェースの除去

(RMVIPSIFC) 153

パラメーター	153
IPアドレス (INTNETADR)	153
例	154
エラー・メッセージ	154

IP OVER SNA ロケーションの除去

(RMVIPSLOC) 155

パラメーター	155
リモート宛先 (RMTDEST)	155
サブネット・マスク (SUBNETMASK)	155

例	156
エラー・メッセージ	156

IP OVER SNA経路の除去

(RMVIPSRT) 157

パラメーター	157
経路宛先 (RTEDEST)	157
サブネット・マスク (SUBNETMASK)	157
ネクスト・ホップ (NEXTHOP)	158
例	158
エラー・メッセージ	158

ジョブ待ち行列項目除去 (RMVJOBQE) 159

パラメーター	159
サブシステム記述 (SBSD)	159
ジョブ待行列 (JOBQ)	160
例	160
エラー・メッセージ	160

ジョブ・スケジュール項目除去

(RMVJOBSCDE) 163

パラメーター	163
ジョブ名 (JOB)	163
項目番号 (ENTRYNBR)	164
例	164
エラー・メッセージ	164

ジャーナル処理済み変更除去

(RMVJRNCHG) 167

パラメーター	168
ジャーナル (JRN)	170
ジャーナル・ファイル識別 (FILE)	170
オブジェクト (OBJ)	171
ジャーナル・レシーバーの範囲 (RCVRNG)	172
大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)	173
大きい終了順序番号 (TOENTLRG)	174
完全に修飾されたジョブ名 (TOJOB)	175
コミットメント境界 (CMTBDY)	175
オプション (OPTION)	176
オブジェクト・エラー・オプション (OBJERROPT)	176
出力 (OUTPUT)	177
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	177
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	177
出力情報のタイプ (DETAIL)	178
開始順序番号 (FROMENT)	178
終了順序番号 (TOENT)	179
例	180
エラー・メッセージ	180

ジョブ・ウォッチャー定義の除去

(RMVJWDFN) 185

パラメーター	185
定義 (DFN)	185
例	186
エラー・メッセージ	186

Kerberosキータブ項目の除去 (RMVKRBKTE)	187
パラメーター	187
プリンシパル (PRINCIPAL)	187
キータブ・ファイル (KEYTABFILE)	188
例	188
エラー・メッセージ	189
LANアダプター情報の除去 (RMVLANADPI)	191
パラメーター	191
アダプター (ADPTNAME)	191
アダプターアドレス (ADPTADR)	191
例	191
エラー・メッセージ	192
LANアダプターの除去 (RMVLANADPT)	193
パラメーター	193
回線記述 (LINE)	193
アダプター (ADPTNAME)	193
アダプターアドレス (ADPTADR)	194
例	194
エラー・メッセージ	194
ライブラリー・リスト項目除去 (RMVLIBLE)	197
パラメーター	197
ライブラリー (LIB)	197
例	197
エラー・メッセージ	197
ライセンス・キー情報の除去 (RMVLICKEY)	199
パラメーター	199
ライセンス・キー入力 (LICKEYINP)	199
プロダクト識別コード (PRDID)	200
ライセンス条件 (LICTRM)	200
機能 (FEATURE)	200
システム製造番号 (SERIAL)	200
ライセンス・キー・ファイル (LICKEYFILE)	201
ライセンス・キー・メンバー (LICKEYMBR)	201
例	202
エラー・メッセージ	202
リンクの除去 (RMVLNK)	203
パラメーター	204
オブジェクト・リンク (OBJLNK)	204
例	205
エラー・メッセージ	205
メンバー除去 (RMVM)	207
パラメーター	207
データベース・ファイル (FILE)	207
メンバー (MBR)	208
例	208

エラー・メッセージ	208
マウントFSの除去 (RMVMFS)	211
パラメーター	211
ファイル・システムのタイプ (TYPE)	211
マウントされたディレクトリー (MNTOVRDIR)	212
マウント・ファイル・システム (MFS)	212
例	212
エラー・メッセージ	213
メッセージ除去 (RMVMSG)	215
パラメーター	215
呼出スタック項目メッセージ待行列 (PGMQ)	216
MSG 待ち行列 (MSGQ)	218
メッセージ・キー (MSGKEY)	218
消去 (CLEAR)	218
未処理例外の除去 (RMVEXCP)	219
省略時応答の拒否 (RJTDFTRPY)	219
例	219
エラー・メッセージ	220
メッセージ記述除去 (RMVMSGD)	223
パラメーター	223
メッセージ識別コード (MSGID)	223
メッセージ・ファイル (MSGF)	223
例	224
エラー・メッセージ	224
ニックネームの除去 (RMVNCK)	225
パラメーター	225
ニックネーム (NCK)	225
例	226
エラー・メッセージ	226
ネットワーク・ジョブ項目除去 (RMVNETJOBE)	227
パラメーター	227
ユーザー識別コード (FROMUSRID)	228
例	228
エラー・メッセージ	228
ネットワーク・テーブル項目の除去 (RMVNETTBLE)	229
パラメーター	229
ネットワーク (NETWORK)	229
IPアドレス (INTNETADR)	229
例	229
エラー・メッセージ	230
ノード・リスト項目の除去 (RMVNODLE)	231
パラメーター	231
ノード・リスト (NODL)	231
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	232
SNAノード名 (CPNAME)	232

例	233
エラー・メッセージ	233
サーバー記憶域リンクの除去 (RMVNWSSTGL)	235
パラメーター	235
ネットワーク・サーバー記憶スペース (NWSSTG)	235
ネットワーク・サーバー 記述 (NWS)	235
リンクの番号付け直し (RENUMBER)	236
例	236
エラー・メッセージ	236
光ディスク・カートリッジ除去 (RMVOPTCTG)	237
パラメーター	237
ボリューム識別コード (VOL)	237
ボリューム記述オプション (VOLOPT)	238
媒体の位置 (MEDLOC)	238
除去されたカートリッジの位置 (RMVCTGLOC)	239
光媒体ライブラリー (MLB)	239
光ディスク装置 (DEV)	239
例	239
エラー・メッセージ	240
光ディスク・サーバー除去 (RMVOPTSVR)	243
パラメーター	243
サイド情報 (CSI)	243
ボリューム記述オプション (VOLOPT)	243
例	244
エラー・メッセージ	244
OSPF領域の除去 (RMVOSPFARA)	245
パラメーター	245
領域ID (AREA)	245
IPバージョン (IPVERSION)	245
例	246
エラー・メッセージ	246
OSPFインターフェースの除去 (RMVOSPFIFC)	247
パラメーター	247
インターフェースID (IFC)	247
接続プロファイル (PPCCNNPRF)	248
例	248
エラー・メッセージ	248
OSPF仮想リンクの除去 (RMVOSPFLNK)	249
パラメーター	249
近隣ルーター (NGHRTR)	249
リンク伝送領域 (LNKTMSARA)	249
例	250
エラー・メッセージ	250

OSPF範囲の除去 (RMVOSPFRNG)	251
パラメーター	251
領域ID (AREA)	251
IPアドレスの範囲 (IPADRRNG)	251
例	252
エラー・メッセージ	252
プロトコル・テーブル項目除去 (RMVPCLTBLE)	253
パラメーター	253
プロトコル (PROTOCOL)	253
例	253
エラー・メッセージ	253
PEX定義の除去 (RMVPEXDFN)	255
パラメーター	255
定義 (DFN)	255
例	256
エラー・メッセージ	256
PEXフィルター除去 (RMVPEXFTR)	257
パラメーター	257
フィルター (FTR)	257
例	258
エラー・メッセージ	258
PF制約の除去 (RMVPFCST)	259
パラメーター	259
ファイル (FILE)	259
制約名 (CST)	260
制約タイプ (TYPE)	260
制約の除去 (RMVCST)	261
例	262
エラー・メッセージ	262
物理ファイル・トリガーの除去 (RMVPFTRG)	263
パラメーター	263
物理ファイル (FILE)	264
トリガー時間 (TRGTIME)	264
トリガー・イベント (TRGEVENT)	264
トリガー (TRG)	265
トリガー・ライブラリー (TRGLIB)	265
例	265
エラー・メッセージ	266
プログラム除去 (RMVPGM)	267
パラメーター	267
プログラム (PGM)	267
例	268
エラー・メッセージ	268
事前開始ジョブ項目の除去 (RMVPJE)	269
パラメーター	269
サブシステム記述 (SBS)	269

プログラム (PGM)	270
例	270
エラー・メッセージ	270

プログラム一時修正除去 (RMVPTF) . . . 273

パラメーター	273
プロダクト (LICPGM)	273
リリース (RLS)	274
選択するPTF番号 (SELECT)	274
除外するPTF番号 (OMIT)	274
エクステント変更 (RMV)	275
遅延PTF (DELAYED)	275
不在時IPLの除去 (IPLRMV)	275
関連PTFの除去 (RMVDEP)	275
例	276
エラー・メッセージ	276

RDBディレクトリー項目の除去 (RMVRDBDIRE) 279

パラメーター	279
項目 (RDB)	279
例	279
エラー・メッセージ	280

REXXバッファの除去 (RMVREXBUF) 281

パラメーター	281
バッファ (BUFFER)	281
例	281
エラー・メッセージ	282

リモート定義の除去 (RMVRMTDFN) 283

パラメーター	283
システム名 (SYSTEM)	283
例	284
エラー・メッセージ	284

リモート・ジャーナルの除去 (RMVRMTJRN) 285

パラメーター	285
リレーショナル・データベース (RDB)	286
ソース・ジャーナル (SRCJRN)	286
ターゲット・ジャーナル (TGTJRN)	287
例	287
エラー・メッセージ	287

システム応答リスト項目除去 (RMVRPYLE) 289

パラメーター	289
順序番号 (SEQNBR)	289
例	290
エラー・メッセージ	290

経路指定項目除去 (RMVRTGE) 291

パラメーター	291
サブシステム記述 (SBSD)	291

経路指定項目の順序番号 (SEQNBR)	292
例	292
エラー・メッセージ	292

検索見出し項目の除去 (RMVSCHIDX) 293

パラメーター	293
検索見出し (SCHIDX)	293
パネル・グループ (PNLGRP)	294
例	294
エラー・メッセージ	294

制御の範囲項目の除去 (RMVSOCE) . . . 295

パラメーター	295
項目 (ENTRY)	295
例	295
エラー・メッセージ	296

サービス・テーブル項目の除去 (RMVSRVTBLE) 297

パラメーター	297
サービス (SERVICE)	297
ポート (PORT)	297
プロトコル (PROTOCOL)	297
例	298
エラー・メッセージ	298

サーバー認証項目の除去 (RMVSVRAUTE) 299

パラメーター	299
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	299
サーバー (SERVER)	299
例	300
エラー・メッセージ	300

テープ・カートリッジの除去 (RMVTAPCTG) 301

パラメーター	301
ライブラリー装置 (DEV)	301
カートリッジID (CTG)	301
カテゴリー (CGY)	302
端末 (STATION)	303
例	303
エラー・メッセージ	304

TCP/IP ホスト・テーブル項目の除去 (RMVTCPHTE) 305

パラメーター	305
IPアドレス (INTNETADR)	305
例	306
エラー・メッセージ	306

TCP/IPインターフェースの除去 (RMVTCPIFC) 309

パラメーター	309
IPアドレス (INTNETADR)	309

別名 (ALIASNAME)	310
回線記述 (LIND)	310
例	310
エラー・メッセージ	311

**TCP/IPポート制約事項の除去
(RMVTCPPORT) 313**

パラメーター	313
ポートの値の範囲 (PORT)	313
プロトコル (PROTOCOL)	314
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	314
例	314
エラー・メッセージ	315

**POINT-TO-POINT プロファイルの除去
(RMVTCPPPTP) 317**

パラメーター	317
プロファイルの構成 (CFGPRF)	317
通信構成の削除 (DLTCMNCFG)	317
例	318
エラー・メッセージ	318

**TCP/IP リモート・システムの除去
(RMVTCPRSI) 319**

パラメーター	319
IPアドレス (INTNETADR)	319
例	319
エラー・メッセージ	319

TCP/IP経路の除去 (RMVTCPRTE) . . . 321

パラメーター	321
経路宛先 (RTEDEST)	322
サブネット・マスク (SUBNETMASK)	323

TYPE OF SERVICE (TOS)	324
ネクスト・ホップ (NEXTHOP)	324
アドレス接頭部の長さ (ADRPFXLEN)	325
優先バインド・インターフェース (BINDIFC)	325
回線記述のバインド (BINDLIND)	325
例	325
エラー・メッセージ	326

TCP/IPサーバーの除去 (RMVTCPSVR) 327

パラメーター	327
サーバー特殊値 (SVRSPCVL)	327
例	327
エラー・メッセージ	327

TCP/IPテーブルの除去 (RMVTCPTBL) 329

パラメーター	329
テーブル (TBL)	329
例	330
エラー・メッセージ	330

トレース除去 (RMVTRC) 331

パラメーター	331
除去するトレース・ステートメント (STMT)	332
プログラム (PGM)	332
例	332
エラー・メッセージ	333

付録. 特記事項 335

プログラミング・インターフェース情報	336
商標	337
使用条件	338
コードに関するライセンス情報および特記事項	338

戻り (RETURN)

実行可能場所:

- 対話式ジョブ (*INTERACT)
- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)
- 対話式 REXX プロシージャ (*IREXX)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

戻り (RETURN)コマンドは、制御権を呼び出しスタック中の次位の呼び出しスタック項目またはジョブを制御するサブシステム・モニターに戻します。

このコマンドは、CLプログラムの外部で使用すると、F3キーと同じ機能を実行します。つまり、QCMD（システムに対するCLコマンドを解釈して処理する、IBM提供の制御言語処理プログラム）の最新の呼び出しから外部のプログラム・マネージャーに制御権に戻します。このコマンドは、CLプログラムの内部で使用すると、戻りプログラムを呼び出した時点で、呼び出し側プログラム内の次のコマンドまたは高水準言語ステートメントに制御権に戻します。このコマンドをルーティング・ステップ（解釈CLコマンド処理プログラムであるQCMDプログラム、またはCLプログラム）内の最高呼び出しレベルで使用すると、ルーティング・ステップは終了されます。

注: サブシステムが次のコマンドから結果する制御付き終了をこうむっている時に、最高反復レベルから対話式にRETURNコマンドを入力すると、

- サブシステム終了 (ENDSBS)コマンド
- システム終了 (ENDSYS)コマンド
- システム電源遮断 (PWRDWN SYS)コマンド

照会メッセージを受け取らず、またコマンド入力画面に戻りたいと指示しなければ、ジョブ終了処理が実行されます。

このコマンドには、パラメーターはありません。

上

パラメーター

なし

上

例

RETURN

このコマンドは、CLプログラム内で使用されると、最後の呼び出し側プログラム内の、このプログラムが呼び出された点の直後にあるCLコマンドまたは高水準言語ステートメントに制御権を戻します。このコマンドは、対話式ジョブで使用されると、QCMDの次の上位レベルに制御権を戻します。RETURNコマンドがルーティング・ステップ内の最高呼び出しレベルのプログラム(QCMD)で実行されると、照会メッセージが送られ、ユーザーはコマンド入力画面に戻るオプションを選択することができます。そうでない場合は、ルーティング・ステップが通常どおり終了します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

なし。

上

文書ライブラリー・オブジェクト再編成 (RGZDLO)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリー・オブジェクト再編成(RGZDLO)コマンドによって、次を再編成することができます。

- すべての文書ライブラリー・オブジェクト (未ファイル・メール文書を任意に入れる)
- フォルダーに入っていないすべてのファイル済み文書
- 指定されたフォルダー内のすべての文書ライブラリー・オブジェクト
- すべての未ファイル・メール文書
- フォルダー名、文書名、またはシステム・オブジェクト名によって指定される個別の文書ライブラリー・オブジェクト

文書が再編成される時に、未使用の記憶域が除去されます。

制約事項:

- FLR(*ANY)またはFLR(*NONE)のいずれかと一緒にDLO(*ALL)を指定するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)またはセキュリティー管理者(*SECADM)特殊権限が必要です。
- 文書またはフォルダーを再編成するには、*ALLOBJまたは*SECADMの特殊権限があるか、あるいはその文書またはフォルダーに対して少なくとも*CHANGE権限が必要であり、さらにシステム・ディレクトリに登録されていなければなりません。
- 文書またはフォルダーを再編成するためには、排他アクセスが必要です。
- 未ファイル・メール文書を再編成するためには、システムのすべての文書およびフォルダー活動を停止しなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DLO	文書ライブラリー・オブジェクト	文字値, *ALL, *SYSOBJNAM	必須, 定位置 1
FLR	フォルダー	文字値, *NONE, *ANY	オプション, 定位置 2
SYSOBJNAM	システム・オブジェクト名	名前	オプション
DAYS	最後の参照以降の日数	0-999, 0	オプション
MAIL	未ファイル・メールの再編成	*NO, *YES, *ONLY	オプション

上

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)

再編成中のオブジェクトの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

***ALL** すべての文書ライブラリー・オブジェクトが再編成されます。このパラメーターと一緒に **FLR(*NONE)**が指定された場合には、すべてのフォルダー外文書が再編成されます。このパラメーターと一緒に**FLR(*ANY)**が指定された場合には、すべてのファイル済み文書およびフォルダーが再編成されます。このパラメーターと一緒に**MAIL(*YES)**が指定された場合には、すべてのファイル済み文書およびフォルダーだけでなく、すべてのファイルされていないメール文書も再編成されます。このパラメーターと一緒に**MAIL(*ONLY)**が指定された場合には、ファイルされていないメール文書のみが再編成されます。このパラメーターと一緒に**FLR(NAME)**が指定された場合には、すべてのフォルダーとフォルダー内の文書が再編成されます。

***SYSOBJNAM**

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)パラメーターに指定されたシステム・オブジェクト名は、再編成中の文書またはフォルダーの識別に使用されます。

名前 再編成する文書またはフォルダーの名前を指定してください。また、次の再編成を指定することによって、**フォルダー (FLR)**パラメーターを使用して文書を再編成することもできます。

- 再編成する文書が入っているフォルダー
- 再編成する文書が入っているネストされたフォルダーが入っているフォルダー

上

フォルダー (FLR)

文書またはフォルダーが入っているフォルダーを指定します。文書またはフォルダーがフォルダー内に存在しない場合には、***NONE**が指定されます。

***NONE**

文書またはフォルダーはフォルダー中に入っていません。**DLO(*ALL)**が指定された場合には、これは、フォルダー内に入っていないすべての文書を示します。**DLO(NAME)**が指定された場合には、これは第1レベルのフォルダーを示します。

***ANY** すべての文書ライブラリー・オブジェクトが、フォルダー内に入っていないものも含めて再編成されます。このパラメーターが有効なのは、**DLO(*ALL)**が指定された場合だけです。

名前 文書またはフォルダーを入れるフォルダーの名前を指定してください。

上

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)

再編成中の個別のフォルダーまたは文書のシステム・オブジェクト名を指定します。

上

最後の参照以降の日数 (DAYS)

文書ライブラリー・オブジェクトを再編成する前に、これが最後に参照されてから経過する必要がある日数を指定します。

0 要求されたすべてのオブジェクトが再編成されます。

1から999

文書ライブラリー・オブジェクトを再編成する前に、これが参照されてから経過する必要がある日数を指定します。

上

未ファイル・メールの再編成 (MAIL)

再編成されるオブジェクトを組み込むか、除去するか、あるいは未ファイルのメール文書に制限するかを指定します。

***NO** 未ファイルのメール文書は再編成されません。

***YES** 未ファイルのメール文書は再編成されます。この値が有効なのは、DLO(*ALL)およびFLR(*ANY)が指定された時だけです。

*ONLY

未ファイルのメール文書だけが再編成されます。この値が有効なのは、DLO(*ALL)およびFLR(*ANY)が指定された場合だけです。

上

例

例1:フォルダーおよび文書の再編成

```
RGZDLO DLO(*ALL) FLR(*ANY)
```

このコマンドは、システム上に存在しているファイルされたフォルダーおよび文書のすべてを再編成します。

例2:フォルダー、文書、および未ファイル・メールの再編成

```
RGZDLO DLO(*ALL) FLR(*ANY) MAIL(*YES)
```

このコマンドは、すべてのファイルされたフォルダー、文書、およびシステム上に存在しているすべて未ファイルのメール文書を再編成します。

例3:未ファイル・メールの再編成

```
RGZDLO DLO(*ALL) FLR(*ANY) MAIL(*ONLY)
```

このコマンドは、システム上に存在している未ファイルのメール文書のすべてを再編成します。

例4:無フォルダー文書の再編成

```
RGZDLO DLO(*ALL) FLR(*NONE)
```

このコマンドは、システム上に存在している無フォルダー文書のすべてを再編成します。

例5:フォルダー内の文書の再編成

```
RGZDLO DLO(*ALL) FLR(FLRA)
```

このコマンドは、フォルダーFLRAに入っているフォルダー内の文書のすべてを再編成してから、フォルダーFLRA内のフォルダーが再編成されます。

例6:個々の文書またはフォルダーの再編成

```
RGZDLO DLO(*SYSOBJNAM) SYSOBJNAM(DCN1371951)
```

このコマンドは、SYSOBJNAMオブジェクトで識別された個々の文書またはフォルダーを再編成します。

例7:文書の再編成

```
RGZDLO DLO(DOC1) FLR(FLRA)
```

このコマンドはフォルダーFLRA内のDOC1という名前の文書を再編成します。

例8:未参照文書の再編成

```
RGZDLO DLO(*ALL) FLR(*ANY) DAYS(30)
```

このコマンドは、過去30日間に参照されているファイルされた文書およびフォルダーを再編成します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8AB1

&1オブジェクトが再編成されたが、&2オブジェクトは再編成されなかった。

CPF8AB2

RGZDLOコマンドが正しく実行されなかった。

上

物理ファイル・メンバー再編成 (RGZPFM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

物理ファイル・メンバー再編成(RGZPFM)コマンドは、データベース内の物理ファイルの1メンバーから削除済みレコードを除去（メンバーを圧縮）し、必要ならばそのメンバーを再編成します。

キー・ファイル(KEYFILE)パラメーターにキー順ファイルが示されている場合には、システムは、記憶域中のレコードの物理順序を物理ファイル・メンバーのアクセス・パスのキー順に合うように変更するか、あるいは物理ファイルの上に定義されている論理ファイル・メンバーのアクセス・パスに合うように変更することによって、メンバーを再編成します。再編成によって、プログラムがキー順物理ファイルまたはキー順論理ファイルを順序に読み取る時のファイル処理時間を短縮することができます。

メンバーが再編成されて、KEYFILE(*NONE)が指定されていないと、レコードが実際に記憶される順序が変更され、削除されたレコードはすべてファイルから除去されます。KEYFILE(*NONE)が指定された場合、あるいは省略時の値として使用される場合には、レコードの順序は変更されませんが、削除されたレコードはメンバーから除去されます。任意選択として、新しい順序番号とゼロの日付フィールドがレコードのソース・フィールドに入れられます。これらのフィールドは、メンバーが圧縮または再編成された後で変更されます。

注:

- このコマンドを取り消すと、システムは、再編成時に保守されないすべてのアクセス・パスを再作成します。ALWCANCEL(*NO)を指定した場合には、固有のアクセス・パスをもつ物理ファイル・メンバーに対する更新は、アクセス・パスが完全に再作成されるまでは防止されます。
- このコマンドを取り消した時に、ALWCANCEL(*YES)が指定されていた場合には、再編成が部分的に完了します。以後、同じパラメーターで別の再編成を行う場合には、最後の再編成が終了した個所から続行できます。
- RGZPFMコマンドは、ジョブに対して現在有効となっているすべてのファイル一時変更を無視します。FILEおよびKEYFILEパラメーターに指定されているファイル名は、存在している可能性のあるこれらのファイルの一時変更に関係なく、再編成操作で実際に使用されるファイルを識別します。

制約事項:

- 物理メンバーの再編成時には、再編成中のファイルはロックされています。物理ファイル・メンバーに対して可能な並行アクセスの量を示すには、**ロック状態(LOCK)**パラメーターを指定できます。
- ユーザーは、再編成されるメンバーが含まれている物理ファイルに対するオブジェクト操作権、オブジェクト管理または変更権、すべてのデータ権限、およびそのライブラリーに対する実行権限をもっていなければなりません。また、KEYFILEパラメーターで指定されたファイルに対するオブジェクト操作権限およびそのライブラリーに対する実行権限も必要です。
- マルチスレッド・ジョブではこのコマンドは分散ファイルに対してスレッド・セーフではなく、タイプ *SNAのリレーショナル・データベースを使用する分散ファイルに対して正常に実行されません。また、このコマンドは*SNAタイプの分散データ管理機能(DDM)ファイルに対してもスレッド・セーフではなく、正常に実行されません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FILE	データベース・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: データベース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	名前, *FIRST, *LAST	オプション, 定位置 2
KEYFILE	キー・ファイル	単一値: *NONE, *FILE, *RPLDLTRCD その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 論理ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 論理ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: メンバー	名前	
RBDACCPH	アクセス・パスの再作成	*YES, *OPTIMIZE, *NO	オプション
ALWCANCEL	取り消しの許可	*NO, *YES	オプション
LOCK	ロック状態	*EXCL, *EXCLRD, *SHRUPD	オプション
SRCOPT	ソース更新オプション	単一値: *SAME その他の値 (最大 2 回の繰り返し): *SEQNBR, *DATE	オプション
SRCSEQ	ソース・ステートメントの順序番号付け	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始順序番号	0.01-9999.99, <u>1.00</u>	
	要素 2: 増分番号	0.01-9999.99, <u>1.00</u>	
RCDFMT	レコード様式	名前, *ONLY	オプション

上

データベース・ファイル (FILE)

再編成されるメンバーが入っている物理ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: データベース・ファイル

名前 物理ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

メンバー (MBR)

再編成されるメンバーを指定します。

*FIRST

ファイル内の最初のメンバーまたは唯一のメンバーが再編成されます。

*LAST

ファイル内の最後のメンバーまたは唯一のメンバーが再編成されます。

名前 再編成するファイル・メンバーの名前を指定してください。

上

キー・ファイル (KEYFILE)

物理ファイル・メンバーの到着順序をキー順に一致するように変更するか、物理ファイル・メンバーを論理ファイル・メンバーの順序に再編成するか、あるいは再編成しないか、そのいずれかを指定します。このパラメーターに複数様式の論理ファイルおよびメンバーを指定した場合には、**レコード様式(RCDFMT)**パラメーターも指定しなければなりません。

注: 結合論理ファイル、あるいはWHERE節を使用したSQL索引をキー・ファイルとして指定することはできません。また、このパラメーターの論理ファイルに選択/除外アクセス・パスを指定することはできません。

単一値

*NONE

メンバーは再編成されません。削除済みレコードを取り除くことにより圧縮されるだけです。

*RPLDLTRCD

メンバーは、ファイルの先頭にある削除済みレコードをファイルの終わりにある有効なレコードで置き換えることによって再編成されます。行が正確に現行到着順と一致しなければならない場合には、*RPLDLTRCDを使用しないでください。

***FILE** キー順アクセス・パスをもつ物理ファイル・メンバーの場合には、メンバー内のレコードの到着順序がキー順に一致するように変更されます。

要素1: 論理ファイル

物理ファイル・メンバーと関連した論理ファイルの名前およびライブラリーを指定してください。

修飾子1: 論理ファイル

ファイル名

キー・ファイルとして使用する論理ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: メンバー

名前 物理ファイル・メンバーの再編成に使用する順序をもつ論理ファイルのメンバーを指定してください。

上

アクセス・パスの再作成 (RBDACCPH)

メンバーに関する有効なアクセス・パス(KEYFILEとして指定されたアクセス・パスまたはMAINT(*REBLD)アクセス・パス以外)を再作成または保守するかどうかを指定します。

***YES** アクセス・パスは、再編成操作の終わりに同期的に再作成されます。

*OPTIMIZE

アクセス・パスが再編成操作の終わりで非同期的に再作成されるか、再編成時に保守されるかのいずれかですが、それは最も早くアクセス・パスを作成することになるメソッドに基づいています。

***NO** アクセス・パスは再編成時に保守されます。

*NOを指定した場合には、ALWCANCEL(*YES)も指定しなければなりません。

上

取り消しの許可 (ALWCANCEL)

再編成を取り消せるようにするかどうかを指定します。

***NO** 再編成は取り消すことができません。ジョブが終了し、データの再編成が完了しない場合には、障害が起こった時点までの変更は廃棄されます。

*NOを指定した場合には、KEYFILE(*RPLDLTRCD)およびRDBACCPH(*NO)は指定してはならず、LOCK(*EXCL)も指定しなければなりません。

***YES** 再編成は取り消すことができます。再編成が完了前に取り消された場合には、同じパラメーターでの後続の再編成は、一般的に終了した個所から続行されます。再編成が取り消されてから行われた変更の数が多すぎる場合には、再編成は続行するのではなく、再開できます。

上

ロック状態 (LOCK)

物理ファイル・メンバーに対して獲得するロックを指定します。ロック状態は、再編成中に他のジョブで可能な並行アクセスの量を決定します。

***EXCL**

排他ロックが獲得されます。別のジョブからの物理ファイル・メンバーへの並行アクセスは許されません。

***EXCLRD**

排他的読み取り可能ロックが獲得されます。別のジョブからの物理ファイル・メンバーへの並行読み取りアクセスは許可されます。

*EXCLRDを指定した場合には、ALWCANCEL(*YES)も指定しなければなりません。

***SHRUPD**

共用更新ロックが獲得されます。別のジョブからの物理ファイル・メンバーへの並行更新、削除、および挿入アクセスは許可されます。

*SHRUPDを選択した場合には、行の結果の順序はKEYFILEキーワードで要求されたものと正確に一致しない場合があります。行は指定された順序に最も近い順序で再編成されますが、並行した更新、削除、および挿入操作では一部の行が再編成されない場合があります。行が正確に到着順(*NONE)またはキー順ファイルの順序と一致しなければならない場合には、*SHRUPDを使用しないでください。

*SHRUPDを指定した場合には、ALWCANCEL(*YES)も指定しなければなりません。

注: ロック状態の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションを参照してください。

上

ソース更新オプション (SRCOPT)

物理ソース・ファイルの場合に限り、メンバーが順序番号フィールドに新しい番号を入れるか、日付フィールドにゼロを入れるか、あるいはこの両方のフィールドを変更するか、そのいずれかを指定します。変更はレコードの圧縮または再編成が済んだ後で行われます。

単一値

***SAME**

レコードの順序番号フィールドおよび日付フィールドは変更されません。

その他の値

***SEQNBR**

レコードの順序番号フィールドに新しい順序番号が入れられます。SRCSEQパラメーターは、開始値および追加される値を指定します。

***DATE**

レコードの日付フィールドに空の日付(000000)が入れられます。

上

ソース・ステートメントの順序番号付け (SRCSEQ)

SRCOPTパラメーターに*SEQNBRも指定した時に限り、ソース・ファイル・メンバーの最初のレコードに与える順序番号、およびそのメンバーの他のすべてのレコードの番号を付け直すために使用する増分値を指定します。このパラメーターを指定しないで、メンバーに番号の付け直しが行なわれる場合には、順序番号および増分値はともに1.00とみなされます。

要素1: 開始順序番号

1.00 メンバーの最初のソース・レコードが、順序番号0001.00になります。

0.01から9999.99

メンバーの最初のソース・レコードの順序番号を指定してください。最大4桁の整数または最大2桁の小数部を指定することができます。開始値に小数部を含める場合には、小数点を使用しなければなりません。

要素2: 増分番号

1.00 メンバー内のソース・レコードの順序番号は、整数の増分値1を用いて付け直されます（例えば、1.00, 2.00, 3.00...など）。。

0.01から9999.99

最初のレコードの後にあるすべてのソース・レコードの番号を付け直すための増分値を指定してください。4桁を越えない整数または2桁を越えない小数部を指定することができます。増分値に小数部を含める場合には、小数点を使用しなければなりません。

例えば、SRCSEQ(5000 10)を指定した場合には、再編成されるメンバーの中の最初のレコードの番号は5000.00となり、2番目は5010.00、3番目は5020.00などとなります。SRCSEQ(*N .25)を指定した場合には、レコードの番号は1.00, 1.25, 1.50, 1.75, 2.00,などとなります。開始値を.01として増分値を.01と指定した場合には、使用可能な固有の順序番号が999,999個あることとなります。最大順序番号9999.99に達した場合には、残りのレコードにも順序番号9999.99が割り当てられます。

上

レコード様式 (RCDFMT)

複数様式論理ファイルの順序に従って物理ファイル・メンバーを再編成する場合には、レコード様式名を指定します。

*ONLY

キー・ファイル (KEYFILE)パラメーターによって指定されている論理ファイルにはレコード様式が1つしかありません。その様式が、物理ファイル・メンバーの再編成のために使用されます。

名前 複数様式論理ファイルの場合に、物理ファイル・メンバーの再編成に使用するレコード様式を1つ選んで、その名前を指定してください。

上

例

例1:レコードの削除による再編成

RGZPFM FILE(PAYROLL) MBR(MBR1)

このコマンドは、PAYROLLファイルのメンバーMBR1を、そのファイル・メンバーから削除済みレコードを除去して圧縮します。

例2:削除済みレコードの置き換えによる再編成

```
RGZPFM FILE(PAYROLL) MBR(MBR1) KEYFILE(*RPLDLTRCD)
        ALWCANCEL(*YES) LOCK(*EXCLRD)
```

このコマンドは、PAYROLLファイルのメンバーMBR1を、そのファイルの先頭にある削除済みレコードをファイルの終わりにある有効なレコードで置き換えることによって圧縮します。再編成の進行中にコマンドを取り消し、他のジョブがPAYROLLファイルからデータを読み取れるようにすることができます。

例3:キー順での再編成

```
RGZPFM FILE(QCLSRC) MBR(CLMBR2) SRCOPT(*SEQNBR *DATE)
        KEYFILE(*FILE) SRCSEQ(1.00 .25)
```

このコマンドは、CLソース・ファイルQCLSRCのメンバーCLMBR2を、順序番号フィールドをキーとして使用し、キー順で再編成します。元のメンバーが再編成されると、再編成されたメンバーは新しい順序番号(1.00から始まり、.25ずつ増える)をもち、すべてのレコードにヌルの日付(000000)が入れられます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2981

&2のファイル&1のメンバー&3は再編成されなかった。

CPF3135

メンバー&2のアクセス・パスはすでに使用中である。

CPF32B8

分散ファイル・エラー。理由コードは&3です。

CPF32CF

分散ファイル・エラー。理由コードは&3です。

CPF32C3

分散ファイル・エラー、レベルIDが一致していない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

*NOTIFY メッセージ

CPF2985

ソースの順序番号が許可された最大値を超えた。(G C)

通信装置解放 (RLSCMNDEV)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

通信装置解放(RLSCMNDEV)コマンドは、通信装置保留(HLDCMNDEV)コマンドで保留された特定の装置の通信機能を復元します。

制約事項: このコマンドは、*EXCLUDEの共通認可で出荷され、QPGMR, QSYSOPR, QSRV,およびQSRVBASユーザー・プロファイルには、このコマンドを使用する私用認可があります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DEV	装置	名前	必須, 定位置 1

上

装置 (DEV)

保留後に通信を解放する装置の名前を指定します。装置の名前を指定してください。HLDCMNDEVコマンドによって通信を保留することができる装置は、次の通りです。

DEV値

装置

- 3180 表示装置
- 3277 表示装置
- 3278 表示装置
- 3279 表示装置
- 3287 印刷装置 (ワークステーション)
- 5219 印刷装置 (ワークステーション)
- 5224 印刷装置 (ワークステーション)
- 5225 印刷装置 (ワークステーション)
- 5251 表示装置
- 5252 表示装置
- 5256 印刷装置 (ワークステーション)
- 5291 表示装置
- 5292 表示装置

PLU1 1次論理装置, タイプ1 (SNA用)

BSC 2進データ同期装置 (基本およびRJE)

BSCT この&SYS.システムはBSCマルチポイント従属端末です。

APPC 拡張プログラム間通信機能ネットワーク内の論理装置

これは必須パラメーターです。

上

例

RLSCMNDEV DEV(WSPR05)

このコマンドは、現在保留されている装置WSPR05の通信能力を復元します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF5920

装置&1がオフに構成変更されているか、あるいは診断モードになっている。

CPF5921

装置&1は通信装置でない。

CPF5935

コマンドの処理中にエラーが起こった。

CPF5984

機能の実行が認可されていない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

上

配布待ち行列の解放 (RLSDSTQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布待ち行列解放(RLSDSTQ)コマンドは、保留状況の配布待ち行列を解放して、送信できるようにします。

配布待ち行列名は、ジョブのコード化文字セットID(CCSID)を使用して、図形文字セットおよびコード・ページ930 500に変換されます。

制約事項:

- このコマンドは*EXCLUDEの共通認可とともに出荷され、QPGMRおよびQSYSOPR ユーザー・プロファイルには、このコマンドを使用するための私用認可があります。
- 配布待ち行列についてエラーを報告するメッセージは、システムの内部変換のために、その配布待ち行列名用に入力されたものと異なる文字で表示または印刷されることがあります。同様に、(ワークステーションに使用される言語によって) 配布待ち行列名の内部値が、配布待ち行列処理(WRKDSTQ)コマンドの場合に表示される文字と異なることがあります。 **配布待ち行列プロンプト (DSTQパラメーター)** に指定された文字ストリング値が内部配布待ち行列値の規則と一致しない場合、あるいは定義されたどの配布待ち行列の内部値とも一致しない (大/小文字の相違を無視して) 場合には、エラーが報告される場合があります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DSTQ	配布待ち行列	文字値	必須, 定位置 1
PTY	優先順位	*NORMAL, *HIGH	必須, 定位置 2

上

配布待ち行列 (DSTQ)

解放される配布待ち行列の名前を指定します。この待ち行列は、前に、配布サービス構成(CFGDSTSRV)コマンドまたは配布待ち行列追加(ADDDSTQ)コマンドを使用して構成されているものでなければなりません。

これは必須パラメーターです。

上

優先順位 (PTY)

指定された待ち行列の通常優先順位部分が解放されるか、高優先順位部分が解放されるかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*NORMAL

通常優先順位待ち行列は、サービス・レベルがデータ低の配布用です。

*HIGH

高優先順位待ち行列は、サービス・レベルが高速、状況、またはデータ高の配布用です。

注: この値は、SYSTEMVIEW配布サービス(SVDS)タイプの配布待ち行列には正しくありません。

これは必須パラメーターです。

上

例

例1: 待ち行列の通常の優先順位部分の解除

```
RLSDSTQ DSTQ(CHICAGO) PTY(*NORMAL)
```

このコマンドは、CHICAGO配布待ち行列の通常の優先順位部分を解除します。

例2: 待ち行列の高優先順位部分の解除

```
RLSDSTQ DSTQ(ATLANTA) PTY(*HIGH)
```

このコマンドは、ATLANTA配布待ち行列の優先順位の高い部分を解除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF8802

配布待ち行列&1が見つからなかった。

CPF8805

システム名/グループの特殊値が許されていないか、あるいは正しく使用されていない。

CPF8806

システム名またはシステム・グループに値&1が正しくない。

CPF881C

*SVDS配布待ち行列&1に高優先順位待ち行列を使用することはできない。

CPF8812

配布待ち行列の処理中にエラーが起こった。

CPF8816

QSNADS通信サブシステムが活動していない。

CPF8817

配布待ち行列が保留中である。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

上

ファイル・システム・ロックの解除 (RLSIFSLCK)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ファイル・システム・ロックの解除 (RLSIFSLCK)コマンドを使用して次のことができます。

- 指定されたNFSクライアントによって保留されているすべてのネットワーク・ファイル・システム(NFS)のバイト範囲のロックを解除する。
- 指定されたオブジェクトによって保留されているすべてのバイト範囲のロック (すべてのタイプ) を解除する。
- 全ファイル・システムのNFSサーバーによって保留されているすべてのバイト範囲のロックおよびNFSバージョン4の状態を解除する。

このコマンドを使用する必要があるのは、通常的手段を用いて開放することができない資源を解放するためだけです。

バイト範囲のロックの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれるAPIトピック・コレクション またはi5/OS Network File System Support Book (SC41-5714)のFCNTL APIを参照してください。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、入出力(I/O)システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。
- ディレクトリーのパス名接頭部に対する実行(*X)権限が必要です。
- ロックを解除するオブジェクトに対する読み取り(*R) 権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	文字値	オプションル, 定位置 1
OBJ	オブジェクト	パス名	オプションル, 定位置 2
NFSSVRLCK	NFSサーバー・ロック	*NO, *YES	オプションル
LCLBRNGLCK	ローカル・バイト範囲ロック	*NO, *YES	オプションル
OBJMFS	オブジェクトのファイル・システム	*NO, *YES	オプションル

上

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

ローカル・ファイルに対するNFS関連ロックを解除するリモート・システムのホスト名またはIPアドレスを指定します。

正常に完了するには、リモート・システム名が有効になっていなければなりません。TCP/IPメニュー構成 (CFGTCP) コマンドでTCP/IPホスト・テーブル項目処理オプションを使用して、ホスト名をIPアドレスに割り当てることができます。また、リモート・ネーム・サーバーは、リモート・システム名をIPアドレスにマップするために使用することもできます。リモート・ネーム・サーバーを指定するには、CFGTCPメニューのリモート・ネーム・サーバー変更オプションを使用します。

ホスト名は次の規則に従わなければなりません。

- 最初の文字はAからZまたは0から9でなければなりません。
- 最後の文字はAからZまたは0から9のいずれかでなければなりません。
- 大文字および小文字を使用できますが、区別はされません。
- ブランク()は使用できません。
- 特殊文字のピリオド(.)およびマイナス(-)を使用することができます。
- ピリオド(.)で区切られた名前の各部分の長さは63桁を超えることができません。
- 名前の長さは1から255桁の範囲内でなければなりません。

‘リモート・ロケーション名’

ローカル・ファイルに対するNFS関連ロックを解除するリモート・システムのホスト名またはIPアドレスを指定します。

注: RMTLOCNAMEまたはオブジェクト (OBJ)パラメーターのいずれか (両方でなく) を指定する必要があります。

上

オブジェクト (OBJ)

ロックを解除するオブジェクトまたはオブジェクトのファイル・システムのパス名を指定します。NFSサーバー・ロック (NFSSVRLCK) およびローカル・バイト範囲ロック (LCLBRNGLCK) パラメーターでどのロックを解除するか指定します。オブジェクトのファイル・システム (OBJMFS) パラメーターでOBJパラメーターが実際のオブジェクトを表しているのかまたは実際のオブジェクトのファイル・システムを表しているのかを指定します。

‘パス名’

ロックを解除するオブジェクトのパス名を指定します。

注: リモート・ロケーション (RMTLOCNAME) またはOBJパラメーターのいずれか (両方でなく) を指定する必要があります。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>) の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語 (CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>) の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語 (CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

上

NFSサーバー・ロック (NFSSVRLCK)

指定したオブジェクトのすべてのNFSバージョン4ロックおよび状態を解除するかどうかを指定します。RMTLOCNAMパラメーターが指定された場合は、このパラメーターは無視されます。

***YES** NFSサーバーによって保留されているすべてのNFSバージョン4ロックおよび状態を解除します。

***NO** NFSサーバーによって保留されているすべてのNFSバージョン4ロックおよび状態を解除しません。

上

ローカル・バイト範囲ロック (LCLBRNGLCK)

指定したオブジェクトのすべてのローカル・バイト範囲のロックを解除するかどうかを指定します。これは、ロックのタイプまたはそれが処理中のプロセスのタイプとは無関係に、そのオブジェクトに対するすべてのロックを解除します。RMTLOCNAMパラメーターが指定された場合は、このパラメーターは無視されます。

注: LCLBRNGLCKパラメーターかオブジェクトのファイル・システム (OBJMFS)パラメーターのいずれかを指定できますが、両方を指定することはできません。

***YES** 指定したオブジェクトのすべてのローカル・バイト範囲のロックを解除します。

***NO** 指定したオブジェクトのローカル・バイト範囲のロックを解除しません。

上

オブジェクトのファイル・システム (OBJMFS)

指定したオブジェクトが入っているマウント・ファイル・システムのすべてのNFSバージョン4ロックおよび状態を解除するかどうかを指定します。RMTLOCNAMパラメーターが指定された場合は、このパラメーターは無視されます。

注: OBJMFSパラメーターかローカル・バイト範囲ロック (LCLBRNGLCK)パラメーターのいずれかを指定できますが、両方を指定することはできません。

***NO** 指定したオブジェクトが入っているファイル・システムのNFSバージョン4ロックおよび状態を解除しません。

***YES** 指定したオブジェクトが入っているすべてのファイル・システムのNFSバージョン4ロックおよび状態を解除します。

上

例

例1: リモート・システムのロックの解除

```
RLSIFSLCK RMTLOCNAME('RAINBOW1')
```

このコマンドは、**RAINBOW1**という名前のシステムによってローカル・ファイルの保持されたNFS関連ロックを解除します。

例2: ローカル・オブジェクトのロックの解除

```
RLSIFSLCK OBJ('/CUSTACCOUNTS/MAY')
```

このコマンドは、オブジェクト/**CUSTACCOUNTS/MAY**に保持されたすべてのバイト範囲のロックを解除します。

例3:ファイル・システムのロックの解除

```
RLSIFSLCK OBJ('/CustAccounts/April') NFSSVRLCK(*YES)  
LCLBRNGLCK(*NO) OBJMFS(*YES)
```

このコマンドは、/**CustAccounts/April**を含むファイル・システムのすべてのNFSバージョン4ロックおよび状態を解除します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA1B6

ロック解除できません。理由コードは&1です。オブジェクトは&3です。

CPFA1B8

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

上

ジョブ解放 (RLSJOB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ解放 (RLSJOB)コマンドは、ジョブ保留 (HLDJOB)コマンドによってジョブが処理を保留された後で、あるいはバッチ・ジョブ (BCHJOB)コマンドまたはジョブ投入 (SBMJOB)コマンドによって保留ジョブとしてジョブがシステムに投入された場合に、処理に適格なジョブにします。解放されるジョブは、保留時にジョブ待ち行列上にあるか、出力待ち行列上にあるか、またはサブシステムで活動状態になっている（システム資源を競合している）場合があります。ジョブを解放すると、そのジョブ中のすべてのスレッドも解放されることとなります。また、ジョブ保留 (HLDJOB)コマンドの**スプール・ファイルの保留 (SPLFILE)**パラメーターに*YESが指定されているために、保留されているスプール出力ファイルも解放されます。このコマンド(RLSJOB)を出すスレッドのライブラリー名スペース内の出力待ち行列にあるスプール出力ファイルのみが解放されます。**スプール・ファイル・アクション (SPLFACN)**ジョブ属性が*DETACHで、スプール・ファイルの保留中にジョブが終了された場合は、RLSJOBコマンドを使用してそのスプール・ファイルを解放することはできません。ジョブをシステムから除去した後にスプール・ファイルを解放するには、スプール・ファイル解放 (RLSSPLF)コマンドを使用してください。

制約事項: コマンド発行側は、解放されるジョブのジョブ・ユーザー識別と同じユーザー・プロファイルで実行しなければなりません。また、コマンド発行側はジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限をもつユーザー・プロファイルで実行しなければなりません。

ジョブ・ユーザー識別はユーザー・プロファイルの名前であり、これによってジョブは他のジョブに認識されます。これについては、WORK MANAGEMENTに詳細な説明があります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
JOB	ジョブ名	修飾ジョブ名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
DUPJOB OPT	重複ジョブ・オプション	*SELECT, *MSG	オプション

上

ジョブ名 (JOB)

解放するジョブの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジョブ名

名前 解放するジョブの名前を指定します。

修飾子2: ユーザー

名前 そのもとでジョブが開始されるユーザー・プロファイルを識別するユーザー名を指定してください。

修飾子3: 番号

000000から999999

システム割り当てジョブ番号を指定してください。

注: ユーザー名またはジョブ番号を指定しないと、システムに現在あるすべてのジョブのジョブ名が検索されます。指定した名前が複数個見つかった場合は、修飾ジョブ名は明示的に、または選択表示を介して提供する必要があります。詳細については、**重複ジョブ・オプション (DUPJOB OPT)**パラメーターを参照してください。

上

重複ジョブ・オプション (DUPJOB OPT)

このコマンドで重複ジョブが見つかった時に取られる処置を指定します。

***SELECT**

対話式セッション中に重複しているジョブが見つかった時には、選択画面が表示されます。そうでない場合には、メッセージが出されます。

***MSG** 重複しているジョブが見つかった時には、メッセージが出されます。

上

例

例1:処理のためにジョブを保留解除する

```
RLSJOB JOB(PAYROLL)
```

このコマンドは、ジョブPAYROLLを処理のために保留解除します。対応するHLDJOBコマンドがSPLFILE(*YES)を指定していた場合は、ジョブPAYROLLのスパール・ファイルも保留解除されます。

例2:処理のためにジョブを保留解除する

```
RLSJOB JOB(DEPTXYZ/PAYROLL)
```

このコマンドは、ユーザー・プロファイルDEPTXYZを介してユーザーによって投入され、後で保留された、ジョブ名PAYROLLを保留解除します。システム内に重複名をもつジョブが存在する時は、ジョブ名の修飾形式が使用されます。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1317

ジョブ&3/&2/&1に対して、サブシステムから応答がない。

CPF1321

ジョブ&1ユーザー&2ジョブ番号&3が見つからない。

CPF1332

重複したジョブ名の終わり。

CPF1340

ジョブ制御機能は実行されなかった。

CPF1341

読み取りプログラムまたは書き出しプログラム&3/&2/&1は、ジョブ名として使用できない。

CPF1343

ジョブ&3/&2/&1は、この機能に対して正しくないジョブ・タイプである。

CPF1344

ジョブ&3/&2/&1を制御する権限がない。

CPF1349

ジョブ&3/&2/&1は開放されなかった。このジョブは保留されていません。

CPF1351

ジョブ&3/&2/&1のサブシステムで機能チェックが起こった。

CPF1352

この機能は実行されなかった。&3/&2/&1は移行状態である。

ジョブ待ち行列解放 (RLSJOBQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ待ち行列解放(RLSJOBQ)コマンドは、指定されたジョブ待ち行列上でHLDJOBQ（ジョブ待ち行列保留）コマンドによって前に保留されているジョブをさらに処理できるように解放します。ジョブがHLDJOBQコマンド以外のものによって保留されていた場合には、そのジョブは解放されません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
JOBQ	ジョブ待ち行列	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

上

ジョブ待ち行列 (JOBQ)

さらに処理できるように解放するジョブ待ち行列を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジョブ待ち行列

名前 解放したいジョブ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

例

RLSJOBQ JOBQ(QBATCH)

HLDJOBQコマンドによって保留されていたジョブ待ち行列QBATCH上のジョブが、保留中に待ち行列に入れられたジョブも含めて、処理に適格となります。 HLDJOBコマンドによって保留されていたか、あるいは保留状態のジョブ待ち行列に入れられた特定のジョブは解放されません。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF3307

ジョブ待ち行列&1が&2に見つからなかった。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3423

ライブラリー&2のジョブ待ち行列&1は解放されなかった。ジョブ待ち行列は保留されています。

上

ジョブ・スケジュール項目解放 (RLSJOBSCDE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジュール項目解放 (RLSJOBSCDE)コマンドによって、ジョブ・スケジュール内の項目、すべての項目、または項目のセットを解放することができます。各ジョブ・スケジュール項目には、ジョブを一度、または定期的なスケジュール間隔で自動的に投入するために必要な情報が入っています。

ジョブ・スケジュール項目を解放する場合には、項目の保留中にジョブの投入がスケジュールされた日付および時刻を過ぎても、ジョブは直ちに投入されません。ジョブは、投入がスケジュールされた将来の日付で投入されます。

制約事項:

1. 項目を解放するには、ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限が必要です。これがない場合は、解放できるのは追加した項目だけです。
2. このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - ライブラリーQUSRSYS中のオブジェクトQDFTJOBSCD,タイプ*JOBSCDに対する使用(*USE)権限, およびライブラリーQUSRSYSに対する実行(*EXECUTE)権限。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
JOB	ジョブ名	総称名, 名前, *ALL	必須, 定位置 1
ENTRYNBR	項目番号	000001-999999, <u>*ONLY</u> , *ALL	オプション

上

ジョブ名 (JOB)

ジョブ・スケジュール項目の名前を指定します。

***ALL** ユーザーに権限があるすべてのジョブ・スケジュール項目が解放されます。JOB(*ALL)が指定された場合には、ENTRYNBR(*ALL)も指定しなければなりません。

総称名 ジョブ・スケジュール項目を検索するために使用される総称名を指定します。総称名は1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (例えば, ABC*)です。総称名を指定した場合には、その総称名で始まる名前のすべての項目 (ユーザーに権限がある場合) が解放されます。総称名を指定した場合には、ENTRYNBR(*ALL)も指定しなければなりません。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムは完全なジョブ名と見なします。

名前 解放したいジョブ・スケジュール項目の名前を指定します。

項目番号 (ENTRYNBR)

解放したいジョブ・スケジュール項目の番号を指定します。項目が正常に追加された時に送信されるメッセージには、この項目番号が入っています。また、ジョブ・スケジュール項目処理 (WRKJOBSCDE) コマンドを使用して項目番号を判別することもできます。選択した項目の項目番号を表示するには、WRKJOBSCDE画面でF11キーを押してください。

*ONLY

ジョブ・スケジュールの1つの項目だけがJOBパラメーターに指定されたジョブ名を持ちます。

*ONLYが指定され、複数の項目が指定されたジョブ名を持つ場合には、項目は解放されずに、エラー・メッセージも送信されません。

*ALL 指定されたジョブ名を持つすべての項目が解放されます。

000001から999999

解放したいジョブ・スケジュール項目の番号を指定します。

例

例1:すべてのジョブ・スケジュール項目の解放

```
RLSJOBSCDE JOB(*ALL) ENTRYNBR(*ALL)
```

このコマンドは、すべてのジョブ・スケジュール項目を解放します。

例2:個々のジョブ・スケジュール項目の解放

```
RLSJOBSCDE JOB(PAYROLL) ENTRYNBR(*ONLY)
```

このコマンドは、ジョブ・スケジュール内の項目PAYROLLを解放します。

例3:総称ジョブ・スケジュール項目の解放

```
RLSJOBSCDE JOB(PAY*) ENTRYNBR(*ALL)
```

このコマンドは、ジョブ・スケジュール内の、名前に接頭部PAYを持つすべての項目を解放します。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1628

ジョブ・スケジュール項目&3,番号&4が見つからなかった。

CPF1629

ジョブ・スケジュール&1に対して認可されていない。

CPF1630

ジョブ・スケジュール項目&3,番号&4に対して認可されていない。

CPF1632

ジョブ・スケジュール項目&3,番号&4に損傷がある。

CPF1636

指定されたジョブ名の項目が複数検出された。

CPF1637

ライブラリー&2のジョブ・スケジュール&1は使用中。

CPF1638

ジョブ・スケジュール項目&3番号&4は使用中。

CPF1640

ライブラリー&2のジョブ・スケジュール&1は存在していません。

CPF1641

ライブラリー&2のジョブ・スケジュール&1に損傷がある。

CPF1645

指定された名前のジョブ・スケジュール項目が見つからない。

CPF1646

総称名が指定された時には項目番号は*ALLでなければならない。

CPF1648

&3項目が正常に解放された。&4個の項目が解放されていない。

CPF1649

項目番号は*ALLでなければならない。

上

出力待ち行列解放 (RLSOUTQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

出力待ち行列解放(RLSOUTQ)コマンドは、指定された出力待ち行列上のスプール・ファイルを解放します。ファイルが、スプール・ファイル保留(HLDSPLF)コマンドによって保留されているか、あるいは保留状態で作成された場合には、解放されません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OUTQ	出力待ち行列	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

上

出力待ち行列 (OUTQ)

この待ち行列上のファイルをここで処理できるように、解放する出力待ち行列を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 出力待ち行列

名前 解放したい出力待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

出力待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

名前 出力待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

例

RLSOUTQ OUTQ(PRINTER)

PRINTERという名前の出力待ち行列上で、HLDOUTQコマンドによって保留されていたスプール・ファイルが将来の処理のために解放されます。これには、保留中に待ち行列に入れられたスプール・ファイルが含まれますが、HLDSPLFコマンドによって保留されていたかまたは保留状態の待ち行列に入れられた特定のファイルは除きます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3357

ライブラリー&2に出力待ち行列&1が見つからない。

CPF3424

ライブラリー&2の出力待ち行列&1は解放されなかった。出力待ち行列は保留されていません。

上

読み取りプログラム解放 (RLSRDR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

読み取りプログラム解放(RLSRDR)コマンドは、ジョブ待ち行列のジョブの処理を続行できるように、指定されたスプール読み取りプログラムを解放します。指定された読み取りプログラムは直前のHLDRDR（読み取りプログラム保留）コマンドによって保留されているものです。この読み取りプログラムが保留された時には、データは失われません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
RDR	読み取りプログラム	名前	必須, 定位置 1

上

読み取りプログラム (RDR)

解放するスプール読み取りプログラムを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 解放する読み取りプログラムの名前を指定します。

上

例

RLSRDR RDR(DISKETTE)

このコマンドは、DISKETTEという名前のディスク読み取りプログラムを追加処理のために解放します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF1317

ジョブ&3/&2/&1に対して、サブシステムから応答がない。

CPF1340

ジョブ制御機能は実行されなかった。

CPF1351

ジョブ&3/&2/&1のサブシステムで機能チェックが起こった。

CPF1352

この機能は実行されなかった。&3/&2/&1は移行状態である。

CPF3312

読み取りプログラム&1は、活動状態でなく、またジョブ待ち行列上にもない。

CPF3315

読み取りプログラム&3/&2/&1は解放されなかった。読み取りプログラムは保留されていません。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3490

指定した読み取りプログラムに対して権限がない。

上

リモート・フェーズの解放 (RLSRMTPHS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

リモート・フェーズ解放(RLSRMTPHS)コマンドは、IBM System iとシステム/370 NETVIEW配布管理機能(NDM)ホスト・システム間のセッションを開始します。NDMによってフェーズが解放される（またはその解放が正常に行なわれない）と、セッションは終了します。

このコマンドを実行する時には、次の考慮事項が適用されます。

- PLANパラメーターで指定されたNDMの計画が存在していて、APPIDパラメーターで指定されたNDMホスト・アプリケーションにすでに投入されていなければならない。
- PHASEパラメーターで指定されたNDMフェーズが存在していて、PLANパラメーターで指定されたNDMの計画の一部でなければならない。
- PHASEパラメーターで指定されたNDMフェーズは、ホスト・システムでHELDの状態になっていなければならない。
- DEVパラメーターで指定された装置はSNUF装置でなければならない、プログラム開始要求(PSR)可能でなければならない。
- このコマンドは、NDMホスト・システムに対するホスト・インターフェース・ノードとして現在機能中のノードでだけ実行しますが、解放は、このコマンドを出しているノードが宛先のNDMフェーズだけに制約されてはいません。このホスト・インターフェース・ノードを共有するすべてのノードに任意のフェーズを解放することができます。

制約事項: このコマンドを使用するためには、ユーザーはQPGMRまたはQSYSOPRとしてサインオンするか、あるいは*ALLOBJ権限を持っていないとなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PHASE	フェーズ	通信名	必須, 定位置 1
PLAN	計画	通信名	必須, 定位置 2
APPID	適用業務識別コード	名前	必須, 定位置 3
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名	必須, 定位置 4
DEV	装置	名前	必須, 定位置 5

上

フェーズ (PHASE)

NETVIEW配布管理機能の解放するフェーズの名前を指定します。このフェーズは、PLAN パラメーターで指定された計画の一部としてNDMホスト・システムに存在していて、HELDの状態になっていなければなりません。

これは必須パラメーターです。

上

計画 (PLAN)

解放するフェーズが入っているNETVIEW配布管理機能計画の名前を指定します。この計画は、NDMホストに存在していなければなりません。

これは必須パラメーターです。

上

適用業務識別コード (APPID)

PHASEパラメーターによって指定されたフェーズ名が投入されたNETVIEW配布管理機能アプリケーション・プログラムの名前を指定します。これは、生成された時にMVSに認識されたNDMと同じ名前です。

これは必須パラメーターです。

上

リモート・フェーズの解放 (RMTLOCNAME)

この装置が通信しているリモート・ロケーションの名前を指定します。これは、DEVパラメーターによって指定された装置のRMTLOCNAMEパラメーターに入力した名前と同じ名前であればなりません。

これは必須パラメーターです。

上

装置記述 (DEV)

このコマンドの結果として開始される通信セッションに使用されるIBM System i装置の装置名を指定します。この装置はSNUF装置で、PSR可能でなければなりません。

これは必須パラメーターです。

上

例

```
RLSRMTPHS  PHASE(MESSAGE) PLAN(ALEXPLAN) APPID(DSXNDM)
            RMTLOCNAME(A083187) DEV(SNUFDEV)
```

このコマンドは、リモート・ロケーション名A083187で装置SNUFDEVを使用してセッションを開始し、SYSTEM/370 NETVIEW DISTRIBUTION MANAGERのホスト・アプリケーション・プログラムDSXNDMと接続します。セッション接続が行なわれると、フェーズMESSAGE（計画ALEXPLANの一部として）が解放を試行します。解放が正常終了した場合には、メッセージCPC8889 (NETVIEW DISTRIBUTION MANAGERによって解放されたフェーズMESSAGE)が送信されます。解放が正常終了しなかった場合には、メッセージCPF8880 (NETVIEW DISTRIBUTION MANAGERによって解放されなかったフェーズMESSAGE)が送信されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8880

NETVIEW配布管理機能によってフェーズ&1が解放されなかった。

上

スプール・ファイル解放 (RLSSPLF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

スプール・ファイル解放(RLSSPLF)コマンドは、出力待ち行列に指定されたファイルを解放します。解放されるファイルは、常にファイルの先頭から行われます。RLSSPLFコマンドは、次によって保留されたスプール・ファイルを開放することができます。

- HLDSPLFコマンド
- 装置ファイルで、または一時変更コマンドでHOLD(*YES)が指定されている
- 装置ファイルで、または一時変更コマンドで、あるいはCHGSPLFAコマンドでSAVE(*YES)が指定されている
- CHGSPLFAコマンドでSAVE(*IMMED)が指定されている
- OPTION(*BYPASS)が指定されたHLDWTRコマンドおよびRLSWTRコマンド
- 用紙を印刷装置に入れるために、操作員がシステム要求を取り消した

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FILE	スプール・ファイル	名前, *SELECT	必須, 定位置 1
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
SPLNBR	スプール・ファイル番号	1-999999, *ONLY, *LAST, *ANY	オプション, 定位置 3
JOBSYSNAME	ジョブ・システム名	名前, *ONLY, *CURRENT, *ANY	オプション
CRTDATE	作成されたスプール・ファイル	単一値: *ONLY, *LAST その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 作成日	日付	
	要素 2: 作成時刻	時刻, *ONLY, *LAST	
SELECT	ファイル選択	要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー	名前, *CURRENT, *ALL	
	要素 2: 印刷装置	名前, *ALL, *OUTQ	
	要素 3: 用紙タイプ	文字値, *ALL, *STD	
	要素 4: ユーザー・データ	文字値, *ALL	
	要素 5: ASP	1-32, *ALL, *ASPDEV	
ASPDEV	ASP装置	名前, *, *SYSBAS, *CURASPGRP	オプション

上

スプール・ファイル (FILE)

ここで印刷装置やディスクなどの出力装置に書き出すことができるように、解放されるスプール・ファイルの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

*SELECT

ファイル選択 (SELECT)パラメーターに指定された選択値を満たすすべてのスプール・ファイルが解放されます。この値は、ジョブ名 (JOB)パラメーター、スプール・ファイル番号 (SPLNBR)パラメーター、ジョブ・システム名 (JOBSYSNAME)パラメーター、または作成されたスプール・ファイル (CRTDATE)パラメーターに指定される値と相互に排他的です。

名前 解放するスプール・ファイルの名前を指定してください。

上

ジョブ名 (JOB)

さらに処理用に解放しているスプール・ファイルを作成したジョブを指定します。

単一値

*
- このスプール・ファイル解放(RLSSPLF)コマンドを出したジョブが、スプール・ファイルを作成したジョブと同じです。

修飾子1: ジョブ名

名前 解放したいファイルを作成したジョブの名前を指定します。

修飾子2: ユーザー

名前 そのもとでジョブが実行されるユーザー・プロファイルを識別するユーザー名を指定してください。

修飾子3: 番号

000000から999999

解放しているスプール・ファイルを作成したジョブのシステム割り当てジョブ番号を指定してください。

上

スプール・ファイル番号 (SPLNBR)

解放したいスプール・ファイルの番号を指定します。

*ONLY

ジョブ内の1つのスプール・ファイルだけが指定されたファイル名をもっています。したがって、スプール・ファイルの番号は不要です。

*LAST

指定されたファイル名の最高の番号を持つスプール・ファイルが、解放されるファイルになります。

***ANY** 使用するスプール・ファイルを決断するのに、スプール・ファイル番号は使用されません。スプール・ファイルの選択時に、スプール・ファイル番号よりジョブ・システム名パラメーターまたはスプール・ファイル作成日時パラメーターが優先されるようにする時には、この値を使用してください。

1から999999

指定されたファイル名を持つ、解放するスプール・ファイルの番号を指定してください。

上

ジョブ・システム名 (JOBSYSNAME)

スプール・ファイルを作成したジョブ(JOBパラメーター) が実行されたシステムの名前を指定します。このパラメーターは、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、およびスプール・ファイル番号のパラメーター要件が一致した後に考慮されます。

***ONLY**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびスプール・ファイル作成日時を持つスプール・ファイルは、1つです。

***CURRENT**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、および作成日時を持つ現行システム上で作成されたスプール・ファイルが使用されます。

***ANY** 使用するスプール・ファイルを決断するのに、ジョブ・システム名は使用されません。スプール・ファイルの選択時に、ジョブ・システム名よりスプール・ファイル作成日時パラメーターが優先されるようにする時には、この値を使用してください。

名前 スプール・ファイルを作成したジョブが実行されたシステムの名前を指定します。

上

作成されたスプール・ファイル (CRTDATE)

スプール・ファイルが作成された日時を指定します。このパラメーターは、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名のパラメーター要件が一致した後に考慮されます。

単一値

***ONLY**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名を持つスプール・ファイルは、1つです。

***LAST**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名の最後の作成日時を持つスプール・ファイルが使用されます。

要素1: 作成日

日付 スプール・ファイルが作成された日付を指定します。

要素2: 作成時刻

*ONLY

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、およびスプール・ファイル作成日を持つスプール・ファイルは、1つです。

*LAST

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、およびスプール・ファイル作成日の最後の作成時刻を持つスプール・ファイルが使用されます。

時刻 スプール・ファイルが作成された時刻を指定します。

上

ファイル選択 (SELECT)

どのファイルのグループを解放するために選択する必要があるかを指定します。次の定位置値を使用して、ファイルを選択することができます。すなわち、ファイルを作成したユーザー、ファイルが待機している装置、指定された用紙タイプ、ファイルと関連したユーザー・データ・タグ、またはファイルが入っている補助記憶域プールです。各値と一致するファイルだけが選択されます。

要素1: ユーザー

*CURRENT

このコマンドを実行中のユーザーによって作成されたファイルだけが選択されます。

***ALL** すべてのユーザーによって作成されたファイルが選択されます。

名前 ユーザー名を指定してください。そのユーザー名によって作成されたファイルだけを選択します。

要素2: 印刷装置

***ALL** 装置作成またはユーザー作成の出力待ち行列上にあるファイルが選択されます。

*OUTQ

ユーザー作成の出力待ち行列のすべてのファイルが選択されます。ユーザー作成の出力待ち行列とは、装置によって自動的に作成されない出力待ち行列です。ユーザー作成の出力待ち行列は通常は装置と同じ名前にはなりません。同じ名前の場合には、それはライブラリーQUSRSYS内にはありません。

名前 装置名を指定してください。その装置の装置作成の出力待ち行列に入れられたファイルだけが選択されます。装置作成の出力待ち行列は装置と同じ名前を持ち、QUSRSYSライブラリーにあります。この出力待ち行列がすでに存在していなければ、装置の作成時にシステムによって自動的に作成されます。装置作成の出力待ち行列を削除することはできません。

要素3: 用紙タイプ

***ALL** すべての用紙タイプのファイルが選択されます。

***STD** 標準用紙タイプを指定するファイルだけが選択されます。

用紙タイプ

ファイルを選択する用紙タイプを指定してください。

要素4: ユーザー・データ

***ALL** ユーザー・データ・タグが指定されているファイルがどれも選択されます。

ユーザー・データ

ファイルを選択するためのユーザー・データ・タグを指定してください。

要素5: ASP

***ALL** 補助記憶域プール装置(ASPDEV)パラメーターに指定された通りにすべてのファイルが選択されます。

*ASPDEV

補助記憶域プール装置(ASPDEV)パラメーターに指定されたファイルが選択されます。

1から32

選択するファイルの補助記憶域プール(ASP)を指定してください。

上

ASP装置 (ASPDEV)

選択されるスプール・ファイルが入っている補助記憶域プール装置名を指定します。このパラメーターが有効なのは、選択パラメーターのASP番号(ASP)要素が*ALLまたは*ASPDEVである場合だけです。

*
- 現在スレッドのライブラリー名スペースの一部となっているASPで見つかったファイルが選択されます。これには、システムASP (ASP 1),すべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)が含まれ、また、スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループ内の1次および2次ASPが含まれます。

*SYSBAS

システムASP (ASP 1)およびすべての定義済みユーザーASP (ASP 2から32)で見つかったファイルが選択されます。

*CURASGRP

スレッドのASPグループの1次および2次ASPで見つかったファイルが選択されます。スレッドと関連したASPグループがない場合には、エラーが出されます。

名前 補助記憶域プール装置記述の名前を指定してください。指定された1次または2次ASPで見つかったファイルが選択されます。スレッドのASPグループ内にある1次または2次ASPのみを指定することができます。スレッドと関連したASPグループがない場合には、エラーが出されます。

上

例

```
RLSSPLF FILE(STOCK14) JOB(000047/SMITH/MASTER)
```

このコマンドは、MASTERという名前のジョブで作成されたSTOCK14という名前のスプール・ファイルを解放します。ファイルは、スプーリング書き出しプログラムによる処理のために選択できるようになります。ジョブは、SMITHという名前のユーザー・プロファイルの下で実行されていて、システムによりジョブ番号000047が割り当てられています。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF337E

ASP装置&1がスレッドの現行ASPグループにありません。

CPF337F

ASP番号&2ではASP装置&1は使用できません。

CPF33D0

印刷装置&1が存在していない。

CPF33D1

ユーザー&1が存在していない。

CPF3303

ファイル&1はジョブ&5/&4/&3に見つからなかった。

CPF3304

ファイル&1番号&8を解放することができない。

CPF3309

&1という名前のファイルは活動状態でない。

CPF3322

ファイル&1番号&8は解放されなかった。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3340

指定された名前のファイルが、ジョブ&5/&4/&3で複数個見つかった。

CPF3342

ジョブ&5/&4/&3が見つからない。

CPF3343

重複したジョブ名が見つかった。

CPF3344

ファイル&1番号&8はもはやシステムにない。

CPF3357

ライブラリー&2に出力待ち行列&1が見つからない。

CPF3362

QTEMPのオブジェクトは、パラメーター値には正しくない。

CPF3492

スプール・ファイルに対しては許可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9833

*CURASPGRPまたは*ASPGRPPRIが指定されていて、スレッドにASPグループがない。

CPF8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

書き出しプログラム解放 (RLSWTR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

書き出しプログラム解放(RLSWTR)コマンドは、ここで出力待ち行列上のファイル进行处理できるように、保留中の書き出しプログラムを解放します。保留時点で書き出しプログラムがファイルを書き出し中であった場合には、この同じファイルの書き出しを再開するため、あるいは次のファイルの書き出しを開始するために、書き出しプログラムを解放することができます。どのような場合にも、書き出しプログラム保留 (HLDWTR)コマンドが出された時に書き出し中であったファイルのデータは失われていません。

注: 書き出し再開位置 (OPTION)パラメーターか開始ページ (PAGE)パラメーターのいずれかに値を指定しなければなりません。両方を指定することはできません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
WTR	書き出しプログラム	名前	必須, 定位置 1
OPTION	書き出し再開位置	-32766-32766, *CURRENT, *BEGIN, *BYPASS	オプション
PAGE	開始ページ	整数	オプション

上

書き出しプログラム (WTR)

解放するスプール書き出しプログラムを指定します。書き出しプログラムの解放後に、出力待ち行列のファイル进行处理することができます (出力待ち行列が保留中でない場合)。

これは必須パラメーターです。

名前 解放したい書き出しプログラムの名前を指定します。

上

書き出し再開位置 (OPTION)

書き出しプログラムを開始したいファイル中の位置を指定します。書き出しプログラムがファイルを書き出し中でない場合には、最初のオプション*CURRENTしか指定することができません。最後の3つのオプション (*BYPASS, +数字, および-数字) を指定できるのは、書き出しプログラムがこのファイルの書き出し中に保留された場合だけです。また、ディスク書き出しプログラムで有効なオプションは*CURRENTだけです。

***CURRENT**

書き出しプログラムは、書き出しプログラム保留(HLDWTR)コマンドによって保留された位置で解放されます。

***BEGIN**

書き出しプログラムは、現行ファイルの先頭で解放されます。

***BYPASS**

書き出しプログラムは次のファイルの始めで解放されます。現行ファイルは暗黙に待ち行列に保留されます。

+数字 書き出しプログラムは、保留された位置のNページ後で解放されます。

-数字 書き出しプログラムは、保留された位置のNページ前で解放されます。

上

開始ページ (PAGE)

書き出しプログラムが印刷を開始するページを指定します。このパラメーターは、書き出し再開位置(OPTION)パラメーターと一緒に使用することはできず、印刷装置書出プログラムの場合にだけ有効です。このパラメーターは、このファイルの作成中に書き出しプログラムが保留された場合にだけ指定することができます。

整数 書き出しプログラムで印刷を開始したいこのファイルのページ番号を指定します。

上

例

例1:ファイルの先頭での書き出しプログラムの解放

```
RLSWTR WTR(PRINTER) OPTION(*BEGIN)
```

このコマンドは、書き出しプログラムPRINTERを解放し、現在のファイルの作成をその先頭で開始します。

例2:指定された点での書き出しプログラムの解放

```
RLSWTR WTR(PRTR) OPTION(-3)
```

このコマンドは、書き出しプログラムPRTRを解放し、書き出しプログラムが保留された点より3ページ前で印刷を再び開始します。すなわち、前に印刷された最後の3ページが、この時点で印刷される最初の3ページとなります。

例3:ページ10での印刷の開始

```
RLSWTR WTR(PRTR) PAGE(10)
```

このコマンドは、書き出しプログラムPRTRを解放し、ページ10で印刷を再び開始します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1317

ジョブ&3/&2/&1に対して、サブシステムから応答がない。

CPF1340

ジョブ制御機能は実行されなかった。

CPF1352

この機能は実行されなかった。&3/&2/&1は移行状態である。

CPF3313

書き出しプログラム&1は、活動状態でなく、またジョブ待ち行列上にもない。

CPF3314

PAGEパラメーターは印刷書き出しプログラムの場合にだけ使用することができる。

CPF3316

保留されていないので書き出しプログラム&3/&2/&1は解放されなかった。

CPF3317

ディスク書き出しプログラムにOPTIONパラメーター値が使用できません。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3331

書き出しプログラム&3/&2/&1の制御は認可されていない。

CPF3334

書き出しプログラム&3/&2/&1に対する前の保留は未処理である。

上

ディレクトリーの除去 (RMDIR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリーの除去 (RMDIR)コマンドは、ディレクトリー内のすべてのオブジェクトがリンク解除され、ディレクトリーが以後使用されないときに、指定されたディレクトリーをシステムから除去します。除去するディレクトリーにオブジェクトが入っている場合には、このコマンドは任意指定ですべてのオブジェクトをリンク解除してからディレクトリーを削除します。ディレクトリーのすべてのオブジェクトをリンク解除する権限がユーザーにない場合には、そのユーザーが権限をもっているオブジェクトだけをリンク解除します。オブジェクトをリンク解除できない場合には、リンク解除できないディレクトリーおよびディレクトリー内のすべてのオブジェクトは除去されません。

このコマンドは、指定されたディレクトリーの場所、その内容、およびそのすべてのサブディレクトリーの内容が除去されるディレクトリー・ツリーの除去にも使用することができます。SUBTREE(*ALL)またはRMVLNK(*YES)が指定されている場合には、コマンドは、サブツリー内の可能な限りのオブジェクトを除去しようとします。除去できない各オブジェクトに対して、診断メッセージが送信されます。すべてのオブジェクトの処理が行われた時、エラーがあった場合にエスケープ・メッセージが送信されます。すべてのオブジェクトがエラーなしで除去された場合には、完了メッセージが送信されます。

ディレクトリー (DIR)パラメーターで指定されたか、あるいはサブツリーの処理中に見つかったシンボリック・リンク・オブジェクトを見つけた場合には、そのシンボリック・リンクをたどることはできません。

注: コマンド上でSUBTREE(*ALL)が指定されていた場合は、シンボリック・リンクが除去されます。

このコマンドはディレクトリーの除去 (RMVDIR)コマンドの別名で、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- RD
- RMVDIR

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「統合ファイル・システム」トピック・コレクションを参照してください。

制約事項:

- "ルート" (/), QOPENSYS, およびユーザー定義ファイル・システムでは、指定されたディレクトリーに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限とその中のすべてのオブジェクトに対する*OBJEXIST権限が必要です。ディレクトリー内の1つ以上のオブジェクトに対する*OBJEXIST権限がない場合には、それらのオブジェクトはリンク解除されずディレクトリーは除去されません。
- "ルート" (/), QOpenSys, およびユーザー定義ファイル・システムでは、除去するためには、親ディレクトリーも含め、空の状態でないすべてのディレクトリーに対する書き込み、実行(*WX)権限が必要です。
- QDLSファイル・システムでは、ディレクトリーに対する全(*ALL)権限とその親ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- 接頭部ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- その他のファイル・システムの権限要件については、System i機密保護解説書(SD88-5027)を参照してください。

- 次の1つ以上が真でない場合には、「制限された名前変更およびリンク解除」属性（この属性はS_ISVTXモード・ビットと同じ）がオンに設定されている"ルート" (/), QOPENSYS,またはユーザー定義ファイル・システム内のオブジェクト・リンクの名前を除去することはできません。
 - ユーザーが、除去するオブジェクト・リンクの所有者である。
 - ユーザーが、除去するディレクトリーの親オブジェクト・リンクの所有者である。
 - ユーザーが全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持っている。
- ディレクトリーがジョブの現行ディレクトリーである場合には、それを除去することはできません。
- このコマンドを使用して、予約されているディレクトリーまたはライブラリーを削除することはできません。
- オブジェクトがQSYS.LIB,独立ASP QSYS.LIB,またはQDLS内でオープンされている場合には、そのオブジェクトをリンク解除することはできません。オブジェクトがQOpenSysまたは"ルート" (/)ファイル・システム内でオープンされている場合には、オブジェクトは正常にリンク解除されて、オブジェクトがクローズされたときに削除されます。
- サブツリー処理の実行時には、パス名およびそのパス内のすべてのサブディレクトリーに対する読み取り(*R)および実行(*X)権限が必要です。
- SUBTREE(*ALL)が指定されている場合には、リンクの除去 (RMVLNK)コマンド用にリストされた制約事項およびファイル・システムの差異は、このコマンドの使用方法にも適用されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DIR	ディレクトリー	パス名	必須, 定位置 1
SUBTREE	ディレクトリーのサブツリー	*NONE, *ALL	オプション
RMVLNK	リンクの除去	*NO, *YES	オプション

上

ディレクトリー (DIR)

ディレクトリーのパス名, あるいは除去するディレクトリーの1つまたは複数のパス名を突き合わせるパターンを指定します。

オブジェクト・パス名は, 単純名, またはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前とすることができます。パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ, 疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか, あるいはパターンを含んでいる場合には, パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。

パス名を指定するときの詳細については, i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは, i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)

ディレクトリー (DIR)パラメーターで指定されたオブジェクトがディレクトリーの場合に、サブツリー内のすべてのオブジェクト・リンクを除去するかどうかを指定します。

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)パラメーターまたはリンクの除去 (RMVLNK)パラメーターのいずれかを指定できますが、両方を指定することはできません。

*NONE

DIRで指定されたディレクトリーは、それが空の場合にのみ除去されます。ディレクトリーには、ディレクトリー(.)および親ディレクトリー(..)の項目が含まれていることがありますが、それでも空のディレクトリーとして扱われます。

***ALL** DIRによって指定されたディレクトリー内にあるオブジェクト・リンクが除去されます。ディレクトリーの内容は、すべてのサブディレクトリーの内容と同様に除去されます。

注: DIRパラメーターからのパターン・マッチングだけが第1レベルのオブジェクトに適用されます。第1レベルのオブジェクトがディレクトリーの場合には、そのパターン・マッチングは、その内容またはすべてのそのサブディレクトリーの内容に適用されません。

コマンドが特定のディレクトリー・サブツリーをいったん処理し始めると、検出、処理されるオブジェクトは、指定されたディレクトリー・ツリー内でのオブジェクトの編成を更新する操作の影響を受ける可能性があります。影響には次のようなものがありますが、これらに限定されるわけではありません。

- オブジェクト・リンクの追加、除去、または名前変更
- ファイル・システムのマウントまたはマウント解除
- コマンドを呼び出すプロセスの有効ルート・ディレクトリーの更新
- シンボリック・リンクの内容の更新

ディレクトリー・サブツリーを処理するために、システム・コードは、処理の対象として処理中に開いておくことのできるファイル記述子の最大数を増やすことができます。これは、コマンドが記述子の不足のために失敗しないようにするために行われます。この処理対象最大値は、コマンド完了時にリセットされません。

リンクの除去 (RMVLNK)

ディレクトリー内のすべてのオブジェクトをリンク解除するか、あるいはディレクトリーにオブジェクトが含まれていた場合にそのディレクトリーを削除できないようにするかを指定します。

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)パラメーターまたはリンクの除去 (RMVLNK)パラメーターのいずれかを指定できますが、両方を指定することはできません。

***NO** 空のディレクトリーだけが除去されます。ディレクトリーには、ディレクトリー(.)および親ディレクトリー(..)の項目が含まれていることがありますが、それでも空のディレクトリーとして扱われます。

***YES** 指定されたディレクトリー内のすべてのオブジェクトが除去されます。ディレクトリーが入ってい

るファイル・システムがディレクトリー内のリンクおよびオブジェクト・リンクを含むディレクトリーの除去をサポートしていない場合には、エラー・メッセージCPFA0AC "ディレクトリーにオブジェクトが入っています。ディレクトリーは&1です。"が送られます。

注: QDLS, QSYS.LIBおよび独立ASP QSYS.LIBファイル・システムは、このパラメーター仕様を使用したリンクの除去をサポートします。その他のファイル・システムについては、SUBTREE(*ALL)パラメーター仕様を使用してください。

注: DIRパラメーターからのパターン・マッチングだけが第1レベルのオブジェクトに適用されます。第1レベルのオブジェクトがディレクトリーの場合には、そのパターン・マッチングは、その内容またはすべてのそのサブディレクトリーの内容に適用されません。

上

例

RMDIRの代替コマンド名はRMVDIRです。次の例では代替コマンド名を使用していますが、RMDIRはそれらのすべてで直接RMVDIRに置き換えることができます。

例1:ディレクトリーおよびそのオブジェクトの除去

```
RMVDIR DIR('/QSYS.LIB/JULIO.LIB') RMVLNK(*YES)
```

このコマンドは、そのすべてのオブジェクトがリンク解除された後でディレクトリー/QSYS.LIB/JULIO.LIBを除去します。ディレクトリー/QSYS.LIB/JULIO.LIBにオブジェクトがある場合は、すべてのオブジェクトのリンクが解除されてから、ディレクトリー/QSYS.LIB/JULIO.LIBが除去されます。

例2:空のディレクトリーの除去

```
RMVDIR DIR('/QSYS.LIB/EMPTY.LIB') RMVLNK(*NO)
```

このコマンドは、空のディレクトリー/QSYS.LIB/EMPTY.LIBを除去します。

後続の例は、以下のディレクトリー構造を前提としています。

```
      ---- dir2
      /
/--dir1 ----- dir3
      $ $          $
      $ $          -- obj1
      $ $
      $ -- dir4 -- dir5 -- dir6
      $          $
      -- obj3          -- obj2
      obj4
```

例3:サブツリー処理を使用したディレクトリーおよびそのオブジェクトの除去

```
RMVDIR DIR('/dir1/dir4') SUBTREE(*ALL)
```

このコマンドは、**dir4**ディレクトリー・ツリーを除去します。これには、**obj2,dir6,dir5**、および**dir4**オブジェクトの除去が含まれます。

例4:サブツリー処理なしでのディレクトリーの除去

```
RMVDIR DIR('/dir1/dir2') SUBTREE(*NONE)
```

このコマンドは、ディレクトリー/**dir1/dir2**が空のために除去します。

例5:パターン・マッチングおよびサブツリー処理を使用したディレクトリーのグループの除去

```
RMVDIR DIR('/dir1/d*') SUBTREE(*ALL)
```

オブジェクトobj1 and obj2,およびディレクトリーdir2, dir3, dir5, dir6,およびdir4が除去されます。オブジェクトobj3およびobj4は、指定された名前パターンに一致しないため、および名前パターンに一致するディレクトリーにないため、除去されません。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA093

パターンに一致する名前が見つからなかった。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA09D

プログラム&1でエラーが起こった。

CPFA09E

オブジェクトが使用中。オブジェクトは&1です。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A3

パス名分析解決によりループしている。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0AA

スペースを獲得しようとしている時にエラーが起こった。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

CPFA0AC

ディレクトリーにオブジェクトが入っています。ディレクトリーは&1です。

CPFA0AD

機能がファイル・システムによってサポートされていない。

CPFA0B1

要求された操作は使用できない。アクセスの問題です。

CPFA0B2

要求を満たすオブジェクトはない。

CPFA0B7

&3個のオブジェクト・リンクが除去されました。&4個のオブジェクト・リンクは除去されませんでした。

上

アクセス・コード除去 (RMVACC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

アクセス・コード除去(RMVACC)コマンドにより、アクセス・コード追加(ADDACC) コマンドによって前に定義されたアクセス・コードをシステムから除去することができます。

注:

- このコマンドは、除去するアクセス・コードが割り当てられている文書ライブラリー中の各オブジェクトを更新しなければならないので、実行時間が長くなることがあります。
- このコマンドは、アクセス・コードを、すべてのファイル済み文書、そのアクセス・コードに対して認可されているすべてのユーザー、およびシステムから除去します。

制約事項:

このコマンドを使用するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
ACC	文書アクセス・コード	値 (最大 300 回の繰り返し): 1-2047	必須, 定位置 1

上

文書アクセス・コード (ACC)

システムから除去するアクセス・コード（複数の場合もある）を指定します。指定されたアクセス・コードがシステム上で定義されていない場合には、診断メッセージが送られ、指定された他のアクセス・コードが処理されます。

1から2047

システムから除去されるアクセス・コードを指定します。

これは必須パラメーターです。

上

例

RMVACC ACC(300)

このコマンドは、アクセス・コード300をシステムから除去します。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF90A5

アクセス・コードを除去することができなかった。

CPF9009

システムには&2のファイル&1のジャーナルが必要である。

CPF9011

&1アクセス・コードは除去されたが、&2は除去されなかった。

CPF9024

システムが操作を終了する正しいレコードを獲得することができない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

自動開始ジョブ項目除去 (RMVAJE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

自動開始ジョブ項目除去 (RMVAJE)コマンドは、指定されたサブシステム記述から自動始動ジョブ項目を除去します。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - 指定されたサブシステム記述に対するオブジェクト操作(*OBJOPR),オブジェクト管理(*OBJMGT),および読み取り(*READ)権限と、そのサブシステム記述が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SBSD	サブシステム記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サブシステム記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
JOB	ジョブ名	名前	必須, 定位置 2

上

サブシステム記述 (SBSD)

除去する自動始動ジョブ項目が入っているサブシステム記述の名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: サブシステム記述

名前 自動始動ジョブ項目が除去されるサブシステム記述の名前を指定します。

注:IBM提供オブジェクトQSYSSBSDはこのパラメーターには正しくありません。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 サブシステム記述が入っているライブラリーを指定します。

上

ジョブ名 (JOB)

この自動始動ジョブ項目から開始されるジョブの単純名を指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 この自動始動ジョブ項目から開始されるジョブの単純名を指定します。

上

例

RMVAJE SBS(D(MYLIB/PAYROLL) JOB(INITIAL)

このコマンドは、自動始動されるINITIALという名前のジョブ項目をライブラリーMYLIBのPAYROLLサブシステム記述から除去します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF1619

ライブラリー&2のサブシステム記述&1に損傷がある。

CPF1697

サブシステム記述&1は変更されなかった。

上

警報記述の除去 (RMVALRD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

警報記述除去(RMVALRD)コマンドは、警報記述追加(ADDALRD)コマンドによって前に追加された警報記述を除去することができます。警報の詳細については、AS/400 ALERT SUPPORT (SC41-5413)を参照してください。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
MSGID	メッセージ識別コード	名前	必須, 定位置 1
ALRTBL	警報テーブル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: 警報テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

上

メッセージ識別コード (MSGID)

除去される警報記述のメッセージIDを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 メッセージIDを指定してください。

上

警報テーブル (ALRTBL)

除去される警報記述が入っている警報テーブルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 警報テーブル

名前 使用される警報テーブルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

警報テーブルを見つけるために、現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 警報テーブルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

例

```
RMVALRD MSGID(USR1234) ALRTBL(USER/USRMSG)
```

このコマンドは、メッセージID USR1234の警報記述を除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF1A04

警報コード&1が警報テーブル&2に見つからない。

CPF1A05

&2の警報テーブル&1に損傷がある。

CPF2499

メッセージ識別コード&1が正しくない。

CPF7BB1

警報記述が見つからない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9811

ライブラリー&2でプログラム&1が見つからない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9821

ライブラリー&2のプログラム&1は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9831

装置&1を割り当てることができない。

上

権限リスト項目除去 (RMVAUTLE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

権限リスト項目除去(RMVAUTLE)コマンドは、権限リストからユーザー項目を除去します。権限リストはすでに存在していなければなりません。

制約事項:

- このコマンドを使用できるのは、権限リストの所有者、権限リストに権限リスト管理権限(*AUTLMGT)を持っているユーザー、または全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持っているユーザーだけです。
- *AUTLMGT権限をもつユーザーが少なくとも除去されるユーザーと同じ特定権限を持っている場合には、*AUTLMGT権限をもつユーザーだけがそのユーザーを除去することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
AUTL	権限リスト	総称名, 名前	必須, 定位置 1
USER	ユーザー	値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 2

上

権限リスト (AUTL)

ユーザー名を除去する権限リストを指定します。RMVAUTLEを実行する時には、権限リストが存在していなければなりません。

これは必須パラメーターです。

総称名 変更する権限リストの総称名を指定してください。

総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリングです。例えば、ABC*など。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが入っていないと、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

名前 変更する権限リストの名前を指定してください。

上

ユーザー (USER)

権限リストから除去する1つ以上のユーザー名を指定します。最大50のユーザー名を指定することができます。

これは必須パラメーターです。

上

例

```
RMVAUTLE  AUTL(PAYROLL)  USER(TOM JULIE KAREN)
```

このコマンドは、ユーザーTOM, JULIE,およびKARENを権限リストPAYROLLから除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2253

ライブラリー&2に&1のオブジェクトが見つからなかった。

CPF2281

指定したユーザーはシステム上に存在しない。

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF2284

権限リスト&1の変更は認可されていない。

CPF2285

ユーザーの除去時に&1個のエラーが起こり、&2個の権限リストが処理された。

CPF2288

権限リストから*PUBLICを除去することはできない。

CPF2289

権限リスト&1を割り振ることができない。

上

停止点除去 (RMVBKP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

停止点除去(RMVBKP)コマンドは、指定されたデバッグ中のプログラムから1つまたは複数の停止点を除去します。また、デバッグ・モードにあるすべてのプログラムからすべての停止点を除去することもできます。

制約事項:

- このコマンドを使用できるのは、デバッグ・モードの時だけです。デバッグ・モードを開始するためには、デバッグ開始(STRDBG)コマンドを参照してください。
- 別のジョブをサービス中で、そのジョブがジョブ待ち行列上にあるか、あるいは保留、延期、または終了中の場合には、このコマンドを使用することはできません。
- このコマンドを使用して、バインド済みプログラムから停止点を除去することはできません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
STMT	ステートメント識別コード	単一値: *, *ALL その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 文字値	オプション、定位置 1
PGM	プログラム	名前, *DFTPGM, *ALL	オプション、定位置 2

上

ステートメント識別コード (STMT)

プログラム中で停止点が除去されるHLL（高水準言語）ステートメントまたは機械語命令を指定します。指定されたプログラム、プログラム (PGM)パラメーターに指定されたプログラム、または停止点に達した最新のプログラム（すなわち、STMTパラメーターに*の値が指定されている場合）から停止点を除去することができます。プログラムが指定されている場合には、1つまたは複数のステートメントIDまたはすべての停止点を指定することができます。STMTパラメーターに*の値が指定されている場合には、一番最近に停止されたプログラムが達した停止点が除去されます。さらにデバッグ・モードのすべてのプログラムからすべての停止点を除去することができます。

単一値

* プログラムが現在停止している最新の停止点が除去されます。

*ALL 指定したプログラムの中のすべての停止点が除去されます。

その他の値（最大10個指定可能）

文字値 PGMパラメーターで指定したプログラムの除去するステートメントIDを指定してください。指定できるIDの数は10個までです。

上

プログラム (PGM)

指定した停止点をどのプログラムから除去するかを指定します。このパラメーターを指定できるのは、*の値がステートメント識別コード (STMT)パラメーターに指定されていない場合だけです。

***DFTPGM**

省略時のプログラムから停止点が除去されます。

***ALL** 現在デバッグ・モードになっているすべてのプログラムから停止点が除去されます。この値は、STMTパラメーターに値が指定されていない場合にのみ指定することができます。

名前 指定した停止点を除去したいプログラムの名前を指定してください。

上

例

RMVBKP STMT(100)

このコマンドは、ステートメント100にある停止点を省略時のプログラムから除去します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF1999

コマンドでエラーが起こった。

上

バインド・ディレクトリー項目の除去 (RMVBNDDIRE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

バインド・ディレクトリー項目の除去(RMVBNDDIRE)コマンドは、バインド・ディレクトリーから項目を除去します。

制約事項:

- 更新しているバインド・ディレクトリーが入っているライブラリーに対して、読み取り(*READ)権限およびオブジェクト操作(*OBJOPR)権限が必要です。
- バインド・ディレクトリーに対する*OBJOPRおよび削除(*DLT)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
BNDDIR	ディレクトリーのバインド	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ディレクトリーのバインド	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL	
OBJ	オブジェクトの仕様	値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	*SRVPGM, *MODULE	

上

ディレクトリーのバインド (BNDDIR)

項目を除去するバインド・ディレクトリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ディレクトリーのバインド

名前 更新するバインド・ディレクトリーの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

*USRLIBL

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

オブジェクトの仕様 (OBJ)

バインド・ディレクトリーから除去する1つ以上のオブジェクト名を指定します。

このパラメーターには50個の値を指定することができます。

要素1: オブジェクト

修飾子1: オブジェクト

***ALL** 指定されたタイプのすべてのオブジェクトが指定されたディレクトリーから除去されます。

総称名 除去するオブジェクトの総称名を指定してください。総称名は1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (例えば, ABC*)です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、名前が総称接頭部で始まる、ユーザーが権限を持っているすべてのオブジェクトを指定します。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが入っていないと、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。完全なオブジェクト名が指定されて、複数のライブラリーが検索される場合には、その名前に*ALLまたは*ALLUSRライブラリー値を指定できる場合にかぎり、複数のオブジェクトを除去することができます。

名前 除去するオブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: オブジェクト・タイプ

*SRVPGM

除去しようとするオブジェクトがサービス・プログラムであることを指示します。

*MODULE

除去しているオブジェクトがモジュールであることを示します。

例

RMVBNDIRE BNDDIR(SOURCE) OBJ(LIST)

このコマンドによって、バインド・ディレクトリーSOURCEからオブジェクトLISTを除去することができます。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF5D01

ライブラリー&2のバインド・ディレクトリー&1は使用不能である。

CPF5D09

ライブラリー&5のバインド・ディレクトリー&4にオブジェクト&2/&1 タイプ&3が見つかりません。

CPF980F

ライブラリー&2にバインド・ディレクトリー&1が見つからない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

構成リスト項目除去 (RMVCFGLE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

構成リスト項目除去(RMVCFGLE)コマンドにより、構成リストから項目が除去されます。

注: ユーザーは、構成リスト変更(CHGCFGL)コマンドの全画面の入力画面を使用して、構成リストTYPE(*SNAPASTHR)を除く既存のリストの項目を追加、除去、または変更することもできます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
TYPE	構成リスト・タイプ	*APPNDIR, *APPNLCL, *APPNRMT, *APPNSSN, *ASYNCADR, *ASYNCLC, *RTLPASTR, *SNAPASTHR	必須, 定位置 1
APPNLCL	APPN ローカル・ロケーション項目 要素 1: ローカル・ロケーション名	値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト 通信名	オプション
APPNRMTE	APPN リモート・ロケーション項目 要素 1: リモート ロケーション名 要素 2: リモート・ネットワーク 識別コード 要素 3: ローカル・ロケーション名	値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト 総称名, 名前, *ANY 通信名, *NETATR, *NONE 通信名, *NETATR	オプション
CFGL	構成リスト	名前	オプション
ASYNCADRE	非同期ネットワーク・アドレス項目 要素 1: ネットワーク・アドレス	値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト 文字値	オプション
ASYNCLC	非同期リモート・ロケーション項目 要素 1: リモート ロケーション名	値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト 名前	オプション
RTLPASTR	小売業パススルー項目 要素 1: 小売業装置	値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト 名前	オプション
FTRCPNAME	フィルター 処理 制御点名	総称名, 名前, *ANY	オプション
FTRCPNETID	フィルター 処理CP ネットワークID	通信名, *NETATR	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション名	総称名, 名前, *ANY	オプション
SNAPASTHRE	SNAパススルー項目	値 (最大 254 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: SNAパススルー・グループ名	通信名	

上

構成リスト・タイプ (TYPE)

使用できる構成リスト・タイプの1つを指定します。

これは必須パラメーターです。

*APPNDIR

拡張対等通信ネットワーク機能(APPN)ディレクトリー検索フィルター構成リストが使用されます。ユーザーは、この構成リスト中に1つのAPPNディレクトリー検索フィルター項目を指定することができます。

*APPNLCL

APPNローカル・ロケーション・リストが使用されます。構成リストには、最高476個までのAPPNローカル・ロケーション項目を指定することができます。

*APPNRMT

APPNリモート・ロケーション・リストが使用されます。構成リストには、最高1898個までのAPPNリモート・ロケーション項目を指定することができます。

*APPNSSN

APPNセッション・エンドポイント・フィルター構成リストが使用されます。ユーザーは、この構成リスト中に1つのAPPNセッション項目を指定することができます。

*ASYNCADR

非同期ネットワーク・アドレス・リストが使用されます。構成リストには、最高294個までの非同期ネットワーク・アドレス項目を指定することができます。

*ASYNCLC

非同期リモート・ロケーション・リストが使用されます。ユーザーは構成リストに最大で32000個の非同期リモート・ロケーション項目を指定することができます。

*RTLPASTR

小売業パススルー・リストが使用されます。構成リストには、最高450個までの小売業パススルー項目を入力することができます。

*SNAPASTHR

SNAパススルー・リストが使用されます。構成リストには、1つのSNAパススルー項目を入力することができます。

上

APPN ローカル・ロケーション項目 (APPNLCL)

APPNローカル・ロケーション項目を指定します。構成リスト・タイププロンプト(TYPEパラメーター)に*APPNLCLが指定されている場合には、この値の入力は必須です。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

このパラメーターに、最大50個の記入項目を直接指定することができます。項目は次の要素のそれぞれからの値から成っています。

ローカル・ロケーション名

構成リストから除去したい項目のローカル・ロケーションを指定します。

上

APPN リモート・ロケーション項目 (APPNRMTE)

APPNリモート・ロケーション項目を指定します。構成リスト・タイププロンプト(TYPEパラメーター)に*APPNRMTが指定されている場合には、この値の入力は必須です。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

このパラメーターに、最大50個の記入項目を直接指定することができます。項目は次の要素のそれぞれからの値から成っています。

リモート・ロケーション名

構成リストから除去したい項目のリモート・ロケーションを指定します。

リモート・ネットワークID

構成リストから除去したい項目のリモート・ネットワークIDを指定します。

ローカル・ロケーション名

構成リストから除去したい項目のローカル・ロケーションを指定します。

上

構成リスト (CFGL)

構成リストの名前を指定します。この値は、必要ですが、構成リストが非同期ネットワーク・アドレス・リスト (構成リスト・タイプ (TYPE)パラメーターに*ASYNCADRが指定された) の時にだけ有効です。リスト・タイプにはシステム提供の名前、QAPPNLCL, QAPPNRMT, QASYNCADR, QASYNCLC, QRTLPASTR,およびQSNAPASSTRがあります。

これは必須パラメーターです。

上

非同期ネットワーク・アドレス項目 (ASYNCADRE)

非同期ネットワーク・アドレス項目を指定します。構成リスト・タイププロンプト(TYPEパラメーター)に*ASYNCADRが指定されている場合には、この値の入力は必須です。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

このパラメーターに、最大50個の記入項目を直接指定することができます。項目は次の要素のそれぞれからの値から成っています。

ネットワーク・アドレス

構成リストから除去したい項目のネットワーク・アドレスを指定します。

注: ユーザーが指定するものと同じネットワーク・アドレスをもつすべての記入項目は、構成リストから除去されます。

上

非同期リモート・ロケーション項目 (ASYNCLOCE)

非同期リモート・ロケーション項目を指定します。構成リスト・タイププロンプト(TYPEパラメーター)に*ASYNCLOCが指定されている場合には、この値の入力は必須です。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

このパラメーターに、最大50個の記入項目を直接指定することができます。項目は次の要素のそれぞれからの値から成っています。

リモート・ロケーション名

構成リストから除去したい項目のリモート・ロケーションを指定します。

上

小売業パススルー項目 (RTLPASTRHRE)

小売業パススルー項目を指定してください。この値は、構成リスト・タイププロンプト(TYPEパラメーター)に*RTLPASTRHを指定した場合に必要です。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

このパラメーターに、最大50個の記入項目を直接指定することができます。項目は次の要素のそれぞれからの値から成っています。

小売業装置名

構成リストから除去される項目の小売業装置名を指定してください。

上

フィルター 処理制御点名 (FTRCPNAME)

ディレクトリー検索要求が行なわれる時に、ローカル・システムによってフィルター操作される隣接制御点の制御点名を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*APPNDIR)が指定された場合だけです。

***ANY** すべての制御点名がフィルター操作されます。

総称*フィルター操作CP名

フィルター操作される隣接制御点の総称制御点名（名前の一部にアスタリスクが続いたもの）を指定してください。総称制御点名によって、単一のネットワーク中で、アスタリスク(*)の前の文字と一致する名前をもつすべての制御点に対して1つのディレクトリー項目を定義することができます。

フィルター操作CP名

フィルター操作される隣接制御点の制御点名を指定してください。

上

フィルター 処理CP ネットワークID (FTRCPNETID)

ディレクトリー検索要求が行なわれる時に、ローカル・システムによってフィルター操作される隣接制御点の制御点ネットワークIDを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*APPNDIR)が指定された場合だけです。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLNETID値が使用されます。

フィルター操作CPネットワークID

ローカル・システムによってフィルター操作される隣接制御点の制御点ネットワークIDを指定してください。

上

ローカル・ロケーション名 (LCLLOCNAME)

ローカル・システムによってフィルター操作される呼び出し元が提供するローカル・ロケーション名を指定します。ローカル・システムがセッションを開始しているときには、これは使用されているローカル・ロケーション名です。別のシステムからバインドを受け取るときには、これは使用されている2次論理装置(SLU)名です。

注: このパラメーターは、TYPE(*APPNSSN)が指定されている場合にのみ有効です。

***ANY** すべてのローカル・ロケーション名がローカル・システムによってフィルター操作されます。

総称*ローカル・ロケーション名

フィルター操作されるローカル・ロケーションの総称ローカル・ロケーション名（名前的一部分にアスタリスクが続いたもの）を指定します。総称ローカル・ロケーション名によって、システム上で*の前の文字と一致する名前をもつすべてのローカル・ロケーション名に対して1つの項目を定義できます。

ローカル・ロケーション名

ローカル・システムによってフィルター操作されるローカル・ロケーション名を指定してください。

上

SNAパススルー項目 (SNAPASTHRE)

SNAパススルー項目を指定します。TYPE(*SNAPASTHR)を指定した場合には、この値が必要です。このパラメーターには、1つのグループ項目を指定することができます。

上

例

```
RMVCFGLE TYPE(*ASYNCLC) ASYNCLC(RMTLOC1)
```

このコマンドは、構成リスト項目RMTLOC1を非同期リモート・ロケーション・リストQASYNCLCから除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF260F

構成リスト&1は見つからなかった。

CPF261C

構成リスト&1の索引は変更されなかった。

CPF261D

構成リスト&1の索引は変更されなかった。

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF263A

CFGLタイプ&1が既存のタイプ&2と一致していない。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF2663

構成リスト&1は前に削除されている。

CPF2666

構成リスト&1からすべての項目を除去することはできない。

上

鍵ストア・ファイル項目の除去 (RMVCKMKSFE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

鍵ストア・ファイル項目の除去 (RMVCKMKSFE)コマンドは、鍵ストア・ファイル項目を鍵ストア・ファイルから除去します。

鍵ストアの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれるAPIトピック・コレクションの暗号サービス・セクションの暗号サービス鍵ストアに関する部分を参照してください。

制約事項:

- 鍵ストア・ファイルのオブジェクト操作(*OBJOPR)および削除(*DLT)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
KEYSTORE	鍵ストア・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 鍵ストア・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
RCDLBL	レコード・ラベル	文字値	必須, 定位置 2

上

鍵ストア・ファイル (KEYSTORE)

使用する鍵ストア・ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 鍵ストア・ファイル

名前 鍵ストア・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 ファイルを検索するライブラリーの名前を指定してください。

レコード・ラベル (RCDLBL)

指定された鍵ストア・ファイルでキー・レコードのラベルを指定します。

これは必須パラメーターです。

文字値 キー・レコード・ラベルを指定してください。ラベルは最大32文字とし、任意の英数字を含めることができます。

例

```
RMVCKMKSFE  KEYSTORE(MYLIB/MYKEYSTORE)  RCDLBL('Byllesby')
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBにある鍵ストア・ファイルMYKEYSTOREで、ラベルがByllesbyの鍵ストア・ファイル項目を除去します。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF3CF2

&1 APIの実行中にエラーが起こった。

CPF9872

ライブラリー&2のプログラムまたはサービス・プログラム&1が終了した。理由コードは&3です。

CPF9D88

出口プログラムの後処理中にエラーが起こりました。

CPF9D89

出口プログラムの前処理中にエラーが起こりました。

CPF9D8F

出口プログラムが取り消されたために、鍵ストア・レコードが削除されなかった。

CPF9D9F

ユーザーには鍵ストア・ファイルが認可されていません。

CPF9DA0

鍵ストア・ファイルのオープン中にエラー。

CPF9DA1

鍵レコードが見つかりません。

CPF9DA5

鍵ストア・ファイルが見つかりません。

CPF9DB3

修飾鍵ストア・ファイル名が無効です。

CPF9DB6

レコード・ラベルが無効です。

CPF9DB9

鍵ストアからのレコードの削除中にエラーが起きました。

上

通信項目除去 (RMVCMNE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

通信項目除去 (RMVCMNE)コマンドは、既存のサブシステム記述から通信項目を除去します。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - 指定されたサブシステム記述に対するオブジェクト操作(*OBJOPR),オブジェクト管理(*OBJMGT),および読み取り(*READ)権限と、そのサブシステム記述が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。
- このコマンドを実行する前に、除去中の通信項目を通じて活動状態のすべてのジョブを終了しなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
SBSD	サブシステム記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サブシステム記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
DEV	装置	総称名, 名前, *ALL, *APPC, *ASYNC, *BSCCL, *INTRA, *RETAIL, *FINANCE, *SNUF	オプション, 定位置 2
RTMLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名	オプション
MODE	モード	名前, *ANY	オプション

上

サブシステム記述 (SBSD)

除去する通信項目が入っているサブシステム記述の名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: サブシステム記述

名前 通信項目が除去されるサブシステムの名前を指定します。

注:IBM提供オブジェクトQSYSSBSDはこのパラメーターには正しくありません。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されま
す。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ラ
イブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されま
す。

名前 通信項目が除去されるサブシステム記述のライブラリーの名前を指定します。

上

装置 (DEV)

通信項目が除去される装置記述の名前、または装置のタイプを指定します。

注: このパラメーターから**リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)**パラメーターのいずれかに値を指定し
なければなりません、両方に指定することはできません。

***ALL** *ALL通信項目が除去されます。

***APPC**

*APPC通信項目が除去されます。

***ASYNC**

*ASYNC通信項目が除去されます。この値が有効なのは、**モード (MODE)**パラメーターに*ANYが
指定された場合だけです。

***BSCCL**

*BSCCL通信項目が除去されます。この値が有効なのは、**モード (MODE)**パラメーターに*ANYが
指定された場合だけです。

***FINANCE**

*FINANCE通信項目が除去されます。この値が有効なのは、**モード (MODE)**パラメーターに*ANY
が指定された場合だけです。

***INTRA**

*INTRA通信項目が除去されます。この値が有効なのは、**モード (MODE)**パラメーターに*ANYが
指定された場合だけです。

***RETAIL**

*RETAIL通信項目が除去されます。この値が有効なのは、**モード (MODE)**パラメーターに*ANYが
指定された場合だけです。

***SNUF**

*SNUF通信項目が除去されます。この値が有効なのは、**モード (MODE)**パラメーターに*ANYが指
定された場合だけです。

総称名 除去する総称通信項目の名前を指定します。

名前 通信項目が除去される装置記述の名前を指定します。

上

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

通信項目が除去されるリモート・ロケーションの名前を指定します。

注: このパラメーターか装置 (DEV)パラメーターのいずれかを指定しなければなりません、両方を指定することはできません。

通信名 この通信項目で使用されるリモート・ロケーションの名前を指定します。

上

モード (MODE)

装置 (DEV)パラメーターに指定された装置のモードの名前、あるいは通信項目が除去されるリモート・ロケーション (RMTLOCNAME)パラメーターに指定されたリモート・ロケーションを指定します。

***ANY** モード名*ANYの通信装置またはリモート・ロケーション名が除去されることになります。

名前 通信項目が除去される通信装置またはリモート・ロケーション名のモード項目の名前を指定してください。

上

例

```
RMVCMNE  SBS(LIB2/SBS1)  DEV(COMDEV)
```

このコマンドは、装置COMDEVの通信装置項目をライブラリーLIB2のサブシステム記述SBS1から除去します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF1619

ライブラリー&2のサブシステム記述&1に損傷がある。

CPF1691

活動サブシステム記述は変更されることも変更されないこともある。

CPF1697

サブシステム記述&1は変更されなかった。

上

SNMP用コミュニティの除去 (RMVCOMSNMP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

SNMP用コミュニティ除去(RMVCOMSNMP)コマンドは、SNMPエージェント・コミュニティ・リストからシンプル・ネットワーク管理プロトコル(SNMP)コミュニティ・プロファイルを除去するために使用します。コミュニティ・プロファイルは、コミュニティ名、オブジェクト・アクセスの仕様、およびそのコミュニティの一部であるSNMP管理機能のリストから構成されています。コミュニティ名は、ASCIIコミュニティ(ASCII.COM)パラメーターと結合されて、コミュニティを定義します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
COM	コミュニティ名	文字値	必須, 定位置 1
ASCII.COM	コミュニティ名の変換	*YES, *NO	オプション

上

コミュニティ名 (COM)

除去しているSNMPコミュニティの名前を指定します。このコミュニティは、SNMPエージェント・コミュニティ・リスト中にすでに存在していなければなりません。

考えられる値は、次の通りです。

コミュニティ名

除去しているSNMPコミュニティの名前を指定してください。この名前には、表示できない文字を含めることができます。

上

コミュニティ名の変換 (ASCII.COM)

コミュニティ名がSNMP管理機能からの要求の中に指定されているコミュニティ名と比較される前に、そのコミュニティ名がASCII文字に変換されるかどうかを指定します。このパラメーターは、除去されるコミュニティを判別するために、コミュニティ名と組み合わせて使用されます。

考えられる値は、次の通りです。

***YES** コミュニティ名は、SNMP管理機能によって指定されたコミュニティ名と比較される前に、ASCII文字に変換されます。

***NO** コミュニティー名は、SNMP管理機能によって指定されたコミュニティ名と比較される前には、ASCII文字に変換されません。

上

例

RMVCOMSNMP COM(ROCHESTER)

このコマンドは、SNMPエージェント・コミュニティ・リストからコミュニティROCHESTER を除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP4001

SNMP構成情報のアクセス中にエラーが起こった。

TCP4009

コミュニティが存在していない。

TCP8050

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

上

遅延IDの除去 (RMVDFRID)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

遅延IDの除去(RMVDFRID)コマンドは、指定された**遅延ID (DFRID)**に関連したすべての遅延オブジェクト情報を除去します。

DFRIDが指定され、オブジェクトがまだ使用できない他のオブジェクトに依存している場合に、オブジェクトは復元操作によって遅延されます。遅延オブジェクトは、論理ファイルまたはSQL具体化QUERY表(MQT)にすることができます。遅延論理ファイルは、復元が完了するまで作成されません。遅延MQTは作成されますが、復元が完了するまで基礎ファイルにアクセスする必要があるすべての機能は失敗します。このコマンドは遅延オブジェクト情報を除去しますが、遅延MQTファイルは削除しません。

詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「バックアップおよび回復」トピック・コレクションを参照してください。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、システム保管(*SAVSYS)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DFRID	遅延ID	名前, *ALL	必須, 定位置 1

上

遅延ID (DFRID)

保管操作の**遅延ID (DFRID)**パラメーターで使用された名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

***ALL** 復元操作時に遅延した依存オブジェクトのすべての情報が除去されます。

名前 保管操作の**遅延ID (DFRID)**パラメーターで使用された名前を指定します。

上

例

例1:すべての遅延オブジェクト情報の除去

```
RMVDFRID DFRID(*ALL)
```

このコマンドは、復元操作中に遅延したすべてのオブジェクトの情報を除去します。

例2:遅延IDの除去

```
RMVDFRID DFRID(ABC)
```

このコマンドは、DFRID (ABC)が保管操作時に指定された場合に、保管操作中に遅延したすべてのオブジェクトの情報を除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF222E

&1特殊権限が必要である。

CPF32C8

据え置きファイルが除去されなかった。

上

ディレクトリーの除去 (RMVDIR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリーの除去 (RMVDIR) コマンドは、ディレクトリー内のすべてのオブジェクトがリンク解除され、ディレクトリーが以後使用されないときに、指定されたディレクトリーを除去します。除去するディレクトリーにオブジェクトが入っている場合には、このコマンドは任意指定ですべてのオブジェクトをリンク解除してからディレクトリーを削除します。ディレクトリーのすべてのオブジェクトをリンク解除する権限がユーザーにない場合には、そのユーザーが権限をもっているオブジェクトだけをリンク解除します。オブジェクトをリンク解除できない場合には、リンク解除できないディレクトリーおよびディレクトリー内のすべてのオブジェクトは除去されません。

このコマンドは、指定されたディレクトリーの場所、その内容、およびそのすべてのサブディレクトリーの内容が除去されるディレクトリー・ツリーの除去にも使用することができます。SUBTREE(*ALL)またはRMVLNK(*YES)が指定されている場合には、コマンドは、サブツリー内の可能な限りのオブジェクトを除去しようとします。除去できない各オブジェクトに対して、診断メッセージが送信されます。すべてのオブジェクトの処理が行われた時、エラーがあった場合にエスケープ・メッセージが送信されます。すべてのオブジェクトがエラーなしで除去された場合には、完了メッセージが送信されます。

ディレクトリー (DIR) パラメーターで指定されたか、あるいはサブツリーの処理中に見つかったシンボリック・リンク・オブジェクトを見つけた場合には、そのシンボリック・リンクをたどることはできません。

注: コマンド上でSUBTREE(*ALL)が指定されていた場合は、シンボリック・リンクが除去されます。

このコマンドは、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- RD
- RMDIR

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「統合ファイル・システム」トピック・コレクションを参照してください。

制約事項:

- "ルート" (/), QOPENSYS, およびユーザー定義ファイル・システムでは、指定されたディレクトリーに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限とその中のすべてのオブジェクトに対する*OBJEXIST権限が必要です。ディレクトリー内の1つ以上のオブジェクトに対する*OBJEXIST権限がない場合には、それらのオブジェクトはリンク解除されずディレクトリーは除去されません。
- "ルート" (/), QOpenSys, およびユーザー定義ファイル・システムでは、除去するためには、親ディレクトリーも含め、空の状態でないすべてのディレクトリーに対する書き込み、実行(*WX)権限が必要です。
- QDLSファイル・システムでは、ディレクトリーに対する全(*ALL)権限とその親ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- 接頭部ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- その他のファイル・システムの権限要件については、System i機密保護解説書(SD88-5027)を参照してください。

- 次の1つ以上が真でない場合には、「制限された名前変更およびリンク解除」属性（この属性はS_ISVTXモード・ビットと同じ）がオンに設定されている"ルート" (/), QOPENSYS,またはユーザー定義ファイル・システム内のオブジェクト・リンクの名前を除去することはできません。
 - ユーザーが、除去するオブジェクト・リンクの所有者である。
 - ユーザーが、除去するディレクトリーの親オブジェクト・リンクの所有者である。
 - ユーザーが全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持っている。
- ディレクトリーがジョブの現行ディレクトリーである場合には、それを除去することはできません。
- このコマンドを使用して、予約されているディレクトリーまたはライブラリーを削除することはできません。
- オブジェクトがQSYS.LIB,独立ASP QSYS.LIB,またはQDLS内でオープンされている場合には、そのオブジェクトをリンク解除することはできません。オブジェクトがQOpenSysまたは"ルート" (/)ファイル・システム内でオープンされている場合には、オブジェクトは正常にリンク解除されて、オブジェクトがクローズされたときに削除されます。
- サブツリー処理の実行時には、パス名およびそのパス内のすべてのサブディレクトリーに対する読み取り(*R)および実行(*X)権限が必要です。
- SUBTREE(*ALL)が指定されている場合には、リンクの除去 (RMVLNK)コマンド用にリストされた制約事項およびファイル・システムの差異は、このコマンドの使用方法にも適用されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DIR	ディレクトリー	パス名	必須, 定位置 1
SUBTREE	ディレクトリーのサブツリー	*NONE, *ALL	オプション
RMVLNK	リンクの除去	*NO, *YES	オプション

上

ディレクトリー (DIR)

ディレクトリーのパス名, あるいは除去するディレクトリーの1つまたは複数のパス名を突き合わせるパターンを指定します。

オブジェクト・パス名は, 単純名, またはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前とすることができます。パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ, 疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか, あるいはパターンを含んでいる場合には, パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。

パス名を指定するときの詳細については, i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは, i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)

ディレクトリー (DIR)パラメーターで指定されたオブジェクトがディレクトリーの場合に、サブツリー内のすべてのオブジェクト・リンクを除去するかどうかを指定します。

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)パラメーターまたはリンクの除去 (RMVLNK)パラメーターのいずれかを指定できますが、両方を指定することはできません。

*NONE

DIRで指定されたディレクトリーは、それが空の場合にのみ除去されます。ディレクトリーには、ディレクトリー(.)および親ディレクトリー(..)の項目が含まれていることがありますが、それでも空のディレクトリーとして扱われます。

***ALL** DIRによって指定されたディレクトリー内にあるオブジェクト・リンクが除去されます。ディレクトリーの内容は、すべてのサブディレクトリーの内容と同様に除去されます。

注: DIRパラメーターからのパターン・マッチングだけが第1レベルのオブジェクトに適用されます。第1レベルのオブジェクトがディレクトリーの場合には、そのパターン・マッチングは、その内容またはすべてのそのサブディレクトリーの内容に適用されません。

コマンドが特定のディレクトリー・サブツリーをいったん処理し始めると、検出、処理されるオブジェクトは、指定されたディレクトリー・ツリー内でのオブジェクトの編成を更新する操作の影響を受ける可能性があります。影響には次のようなものがありますが、これらに限定されるわけではありません。

- オブジェクト・リンクの追加、除去、または名前変更
- ファイル・システムのマウントまたはマウント解除
- コマンドを呼び出すプロセスの有効ルート・ディレクトリーの更新
- シンボリック・リンクの内容の更新

ディレクトリー・サブツリーを処理するために、システム・コードは、処理の対象として処理中に開いておくことのできるファイル記述子の最大数を増やすことができます。これは、コマンドが記述子の不足のために失敗しないようにするために行われます。この処理対象最大値は、コマンド完了時にリセットされません。

リンクの除去 (RMVLNK)

ディレクトリー内のすべてのオブジェクトをリンク解除するか、あるいはディレクトリーにオブジェクトが含まれていた場合にそのディレクトリーを削除できないようにするかを指定します。

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)パラメーターまたはリンクの除去 (RMVLNK)パラメーターのいずれかを指定できますが、両方を指定することはできません。

***NO** 空のディレクトリーだけが除去されます。ディレクトリーには、ディレクトリー(.)および親ディレクトリー(..)の項目が含まれていることがありますが、それでも空のディレクトリーとして扱われます。

***YES** 指定されたディレクトリー内のすべてのオブジェクトが除去されます。ディレクトリーが入ってい

るファイル・システムがディレクトリー内のリンクおよびオブジェクト・リンクを含むディレクトリーの除去をサポートしていない場合には、エラー・メッセージCPFA0AC "ディレクトリーにオブジェクトが入っています。ディレクトリーは&1です。"が送られます。

注: QDLS, QSYS.LIBおよび独立ASP QSYS.LIBファイル・システムは、このパラメーター仕様を使用したリンクの除去をサポートします。その他のファイル・システムについては、SUBTREE(*ALL)パラメーター仕様を使用してください。

注: DIRパラメーターからのパターン・マッチングだけが第1レベルのオブジェクトに適用されます。第1レベルのオブジェクトがディレクトリーの場合には、そのパターン・マッチングは、その内容またはすべてのそのサブディレクトリーの内容に適用されません。

上

例

例1:ディレクトリーおよびそのオブジェクトの除去

```
RMVDIR DIR('/QSYS.LIB/JULIO.LIB') RMVLNK(*YES)
```

このコマンドは、そのすべてのオブジェクトがリンク解除された後でディレクトリー/QSYS.LIB/JULIO.LIBを除去します。ディレクトリー/QSYS.LIB/JULIO.LIBにオブジェクトがある場合は、すべてのオブジェクトのリンクが解除されてから、ディレクトリー/QSYS.LIB/JULIO.LIBが除去されます。

例2:空のディレクトリーの除去

```
RMVDIR DIR('/QSYS.LIB/EMPTY.LIB') RMVLNK(*NO)
```

このコマンドは、空のディレクトリー/QSYS.LIB/EMPTY.LIBを除去します。

後続の例は、以下のディレクトリー構造を前提としています。

```
      ---- dir2
      /
/--dir1 ----- dir3
      $ $          $
      $ $          -- obj1
      $ $
      $ -- dir4 -- dir5 -- dir6
      $          $
      -- obj3          -- obj2
      obj4
```

例3:サブツリー処理を使用したディレクトリーおよびそのオブジェクトの除去

```
RMVDIR DIR('/dir1/dir4') SUBTREE(*ALL)
```

このコマンドは、**dir4**ディレクトリー・ツリーを除去します。これには、**obj2,dir6,dir5**, および**dir4**オブジェクトの除去が含まれます。

例4:サブツリー処理なしでのディレクトリーの除去

```
RMVDIR DIR('/dir1/dir2') SUBTREE(*NONE)
```

このコマンドは、ディレクトリー/**dir1/dir2**が空のために除去します。

例5:パターン・マッチングおよびサブツリー処理を使用したディレクトリーのグループの除去

```
RMVDIR DIR('/dir1/d*') SUBTREE(*ALL)
```

オブジェクトobj1 and obj2,およびディレクトリーdir2, dir3, dir5, dir6,およびdir4が除去されます。オブジェクトobj3およびobj4は、指定された名前パターンに一致しないため、および名前パターンに一致するディレクトリーにないため、除去されません。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA093

パターンに一致する名前が見つからなかった。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA09D

プログラム&1でエラーが起こった。

CPFA09E

オブジェクトが使用中。オブジェクトは&1です。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A3

パス名分析解決によりループしている。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0AA

スペースを獲得しようとしている時にエラーが起こった。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

CPFA0AC

ディレクトリーにオブジェクトが入っています。ディレクトリーは&1です。

CPFA0AD

機能がファイル・システムによってサポートされていない。

CPFA0B1

要求された操作は使用できない。アクセスの問題です。

CPFA0B2

要求を満たすオブジェクトはない。

CPFA0B7

&3個のオブジェクト・リンクが除去されました。&4個のオブジェクト・リンクは除去されませんでした。

ディレクトリー項目除去 (RMVDIRE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリー項目除去(RMVDIRE)コマンドによって、特定のユーザー項目をシステム配布ディレクトリーから除去することができます。ユーザーIDおよびアドレスをディレクトリーから除去すると、すべての配布リストからも除去されます。ユーザーIDおよびアドレスに関連した記述が複数ある場合には、特定の記述だけを除去するオプション、またはすべての記述を除去するオプションがあります。

*ANYユーザーが除去されて*ANY *ANYディレクトリー項目が存在する場合には、ユーザーは配布リストから除去されませんが、その記述は*ANY *ANY記述に変更されます。

制約事項:

1. 機密保護管理者(*SECADM)特殊権限が必要です。
2. 除去しようとするユーザー項目には、ローカル文書交換アーキテクチャー(DIA)ライブラリー内の文書またはフォルダーに所有権があってはなりません。
3. 除去しようとするユーザー項目の配布待ち行列に受信配布があって、除去要求が対話式に投入されたものである場合には、メールを除去するかどうかを尋ねる照会メッセージが表示されます。NOと応答した場合には、ユーザー項目はディレクトリーから除去されません。コマンドがバッチ・プログラムで投入されている場合には、メールは消去されず、ユーザー項目はディレクトリーから除去されません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
USRID	ユーザー識別コード	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	
USRD	ユーザー記述	文字値, *FIRST, *ALL	オプション
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: *SYSVAL, *DEVVD その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	

上

ユーザー識別コード (USRID)

除去されるユーザー項目のユーザーIDおよびアドレスを指定します。両方の部分を指定しなければなりません。各フィールドには、最大8文字まで入力することができます。

ユーザー記述 (USRD)

ユーザーIDおよびアドレスに関連した記述を指定します。特定のユーザーIDおよびアドレスについてディレクトリーに複数の項目が存在することがあるので、記述は除去するユーザー項目を十分に定義します。

***FIRST**

指定されたユーザーIDおよびアドレスのディレクトリーの最初の項目が除去されます。項目が1つしかない場合には、その項目が除去されます。

***ALL** 指定されたユーザーIDおよびアドレスのすべての記述が除去され、そのユーザーIDおよびアドレスも除去されます。

ユーザー記述

ユーザーの記述として最大50文字までを指定してください。これは、除去されるユーザーIDおよびアドレスのディレクトリーの中に存在する記述と全く同じものでなければなりません。そうでない場合には、エラー・メッセージが戻されます。

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

コマンド・パラメーター値として入力するデータの文字ID (図形文字セットおよびコード・ページ) を指定します。

注:

- ユーザーIDおよびアドレス、システム名およびグループ、およびX.400 O/Rパラメーターだけが、このパラメーターで指定された図形文字セットID (GCID)に変換されます。指定したその他のパラメーター値はすべて、入力されたままの状態に記憶されます。GCIDの値はこれらと一緒に記憶されます。
- このコマンドを対話式に実行した場合には、表示装置記述から省略時のGCID値が取られます。このコマンドをバッチで実行した場合には、省略時のGCID値はQCHRID システム値から取られます。このパラメーターに特定の文字セットおよびコード・ページを指定することによって、これらの値を一時変更することができます。

単一値

***SYSVAL**

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

***DEV D**

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起こります。

要素1: グラフィック文字セット

1から32767

使用する図形文字セットを指定してください。

要素2: コード・ページ

使用するコード・ページを指定してください。

上

例

RMVDIRE USRID(HURST NEWYORK) USRD('給与計算の管理者')

次が真であると、ユーザーIDおよびアドレスHURST NEWYORKが除去されます。

- 指定されたユーザーID,アドレス, および記述をもつ項目がディレクトリー内に存在している。
- ユーザーは文書交換アーキテクチャー(DIA)のライブラリー内に文書またはフォルダーを所有していない。
- ユーザーがOFFICEVISIONに登録されていない。
- ユーザーがメール待ち行列からメールをすべて受信済みである。

さらに、このユーザーはすべての配布リストから除去されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF89A3

権限の理由のために操作が正常に行なわれていない。

CPF90A8

データ妥当性検査理由のために操作が正常に行なわれていない。

CPF90A8

要求した操作を実行するためには*SECADM特殊権限が必要である。

CPF9005

この要求を完了するのに必要なシステム資源を使用することができない。

CPF9009

システムには&2のファイル&1のジャーナルが必要である。

CPF9024

システムが操作を終了する正しいレコードを獲得することができない。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF9087

ディレクトリー項目は除去されなかった。

CPF9096

バッチ・ジョブではCMDCHRID(*DEV D), DOCCHRID(*DEV D)を使用することはできない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

上

ディレクトリー・シャドー・システムの除去 (RMVDIRSHD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリー・シャドー・システム除去(RMVDIRSHD)コマンドは、現在ローカル・システムにディレクトリー・データをシャドー処理中のシステムを除去します。

制約事項:このコマンドを使用するためには、機密保護管理者(*SECADM)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SYSNAME	システム名	文字値	必須, 定位置 1
RMVDTA	データの除去	*YES, *NO	オプション

上

システム名 (SYSNAME)

シャドー処理が除去されるシステムの名前を指定します。この名前には最大8桁の英数字を含めることができます。大文字(AからZ),数字(0から9),および特殊文字(@, #, ¥,および組み込みブランク)を指定することができます。組み込みブランクは単一引用符(')で囲む必要があります。先行ブランクは使用できません。@, #,および¥文字は、正規の文字セットでなくすべてのキーボードで使用できるとは限らないので、好ましくありません。

これは必須パラメーターです。

上

データの除去 (RMVDTA)

このパラメーターは、除去されるシステムから受け取ったディレクトリー・データを除去するかどうかを指定します。

***NO** 前にシャドー処理されているディレクトリー・データは、ローカル・システムに残されます。除去されるシステムからシャドー処理されたデータがある別のシステムからデータをシャドー処理しない限り、シャドー処理によってこのデータを変更することはできません。

***YES** 指定されたシステムからシャドー処理されたディレクトリー項目のデータは、ローカル・システムから除去されます。部門およびロケーション・データは除去されません。

上

例

```
RMVDIRSHD  SYSNAME(NYCITY)  RMVDTA(*YES)
```

このコマンドはシステムNYCITYをシャドーイングから除去し、NYCITYからシャドーイングされたデータのすべてを除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF89A5

シャドー供給者&1の除去または延期が正常に行なわれていない。

CPF90A8

要求した操作を実行するためには*SECADM特殊権限が必要である。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

上

DLO権限の除去 (RMVDLOAUT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリー・オブジェクト権限除去(RMVDLOAUT)コマンドにより、文書またはフォルダーに対する既存のユーザー権限を除去することができます。

次のタイプの権限を除去することができます。

- 既存の特定のユーザー権限
- あるオブジェクトに対する権限リストの権限
- 既存のアクセス・コード

制約事項:

このコマンドを使用するには、そのオブジェクトに対して全(*ALL)権限をもっているか、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限をもっているか、あるいはこのオブジェクトの所有者でなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DLO	文書ライブラリー・オブジェクト	文字値, *SYSOBJNAM, *ALL	必須, 定位置 1
FLR	フォルダー	文字値, *NONE	オプション
USER	ユーザー・プロファイル	単一値: *SAME, *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: ユーザー・プロファイル	名前	
AUTL	権限リスト	名前, *SAME	オプション
ACC	文書アクセス・コード	値 (最大 50 回の繰り返し): 0-2047, *SAME, *ALL	オプション
SYSOBJNAM	システム・オブジェクト名	名前	オプション

上

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)

除去する権限と関連した文書またはフォルダーを指定します。

***ALL** 指定されたフォルダー内のすべてのオブジェクトに対するユーザー権限が除去されます。 *ALLを指定した場合には、**フォルダー (FLR)**パラメーターは必須です。

*SYSOBJNAM

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)パラメーターに指定されたシステム・オブジェクト名に対するユーザー権限が除去されます。

名前 除去するユーザー権限と関連した文書またはフォルダーのユーザー割り当て名を指定してください。最大12桁を指定することができます。

上

フォルダー (FLR)

指定されたオブジェクトが入っているフォルダーを指定します。*SYSOBJNAMが文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)パラメーターに指定された場合には、このパラメーターは無視されます。

*NONE

フォルダー名は指定されません。文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)パラメーターに名前を指定して、オブジェクトがフォルダーに入っている場合には、*NONEを指定することはできません。*ALLが文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)パラメーターに指定された場合には、*NONEは指定できません。

名前 指定されたオブジェクトが入っているフォルダーのユーザー割り当て名を指定してください。オブジェクトの入っているフォルダーがさらに別のフォルダーに入っている場合には、この名前を一連のフォルダー名から構成することができます。最大63桁を指定することができます。

上

ユーザー・プロフィール (USER)

除去する特定権限をもっているユーザーの名前を指定します。

*SAME

特定権限は除去されません。

***ALL** すべてのユーザーの特定ユーザー権限が除去されます (オブジェクトの所有者を除く)。

名前 除去する特定権限をもっているユーザー・プロフィールの名前を指定してください。

上

権限リスト (AUTL)

オブジェクトに対する除去する権限が入っている既存の権限リストの名前を指定します。

*SAME

オブジェクトに対して既存の権限リストに指定されている権限は除去されません。

名前 オブジェクトに対する除去する権限が入っている既存の権限リストの名前を指定してください。

上

文書アクセス・コード (ACC)

オブジェクトに対して除去するアクセス・コードを指定します。

*SAME

オブジェクトのアクセス・コードは除去されません。

*ALL オブジェクトのすべてのアクセス・コードが除去されます。

0から2047

除去するアクセス・コードを指定します。最大50個のアクセス・コードを指定することができます。

上

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)

文書またはフォルダーのシステム・オブジェクト名を指定します。

名前 10桁全体を使用して、文書またはフォルダーのシステム・オブジェクト名を指定してください。

上

例

```
RMVDLOAUT DLO(DOCA) FLR(MYFLR) AUTL(MYLIST)
```

このコマンドは、フォルダーMYFLR内のオブジェクトDOCAの権限リストMYLISTの権限を除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8A75

フォルダー&1のアクセスが認可されていない。

CPF8A77

フォルダー&1が見つからない。

CPF8A78

フォルダー&1は使用中である。

CPF8A79

フォルダー&1は論理的に損傷している。

CPF8A80

フォルダー&1の文書&2は使用中である。

CPF8A82

文書&2がフォルダー&1に見つからない。

CPF8A83

フォルダー&1の文書&2のアクセスが認可されていない。

CPF8A88

フォルダー&1の文書&2でこの操作を使用することはできない。

CPF8A89

フォルダー&1の文書&2が論理的に損傷している。

CPF90BA

文書ライブラリー・オブジェクトの権限要求が正常に実行されなかった。

CPF9073

文書ライブラリー・オブジェクト&1の機密保護の表示または変更権限がない。

CPF908A

要求元&1は登録されていない。

CPF908B

文書ライブラリー・オブジェクトが見つからない。

CPF908E

&1個のオブジェクトが変更されたが、&2個のオブジェクトは変更されなかった。

CPF909A

フォルダー&1の文書&2に損傷がある。

CPF9095

フォルダー&1に損傷がある。

上

配布リスト項目除去 (RMVDSTLE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布リスト項目除去(RMVDSTLE)コマンドにより、配布リストから項目を除去することができます。最大300個の項目をリストから一度に除去することができます。

制約事項:他の担当者が所有する配布リストから項目を除去するためには、機密保護管理者権限(*SECADM)が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LSTID	リスト識別コード	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: リスト識別コード	文字値	
	要素 2: リスト識別コード修飾子	文字値	
USRID	ユーザー識別コード	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	必須, 定位置 2
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	
	要素 3: ユーザー記述	文字値, *FIRST, *ALL	
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: *SYSVAL, *DEVD その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	

上

リスト識別コード (LSTID)

除去する項目が入っている配布リストの2つの部分から成るリストID (ID)を指定します。

これは必須パラメーターです。

リストID

リストIDは、少なくとも1つのスペースで区切られる2つの部分として入力されます。小文字を指定した場合には、システムはそれを大文字に変更します。

小文字が指定された場合には、システムはそれを大文字に変更し、大文字として記憶します。

上

ユーザー識別コード (USRID)

配布リストから除去するユーザーのユーザーID,アドレス, および記述を指定します。ユーザーIDおよびアドレスの両方を指定しなければなりません。記述を入力して, あるユーザーIDについて特定の記述の削除を指定することができます。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

除去するリモート配布リストを識別するために, ユーザーIDおよびアドレスの代わりに, 2つの部分から成るリストID (ユーザーIDおよびアドレス) を使用することができます。

ユーザーID,アドレス, および記述の3つを一組として最大300組まで指定することができます。有効な各組が配布リストから除去されます。

少なくとも1組のユーザーIDが必要です。

ユーザーIDおよびアドレス

除去するユーザーIDおよびアドレスを指定してください。

小文字が指定された場合には, システムはそれを大文字に変更し, 大文字として記憶します。

***FIRST**

指定されたユーザーIDおよびアドレスについて配布リスト中の最初の項目が除去されます。項目が1つしか存在しない場合には, それがリストから除去されます。

***ALL** 指定されたユーザーIDおよびアドレスとともにすべての項目が配布リストから除去されます。

ユーザー記述

ユーザーの記述を指定してください。リストID が指定されている場合には, リストの記述を入力してください。記述の長さは最大50文字とすることができます。

上

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

コマンド・パラメーター値として入力するデータの文字ID (図形文字セットおよびコード・ページ) を指定します。

注:

- ユーザーIDおよびアドレス, システム名およびグループ, およびX.400 O/Rパラメーターだけが, このパラメーターで指定された図形文字セットID (GCID)に変換されます。指定したその他のパラメーター値はすべて, 入力されたままの状態に記憶されます。GCIDの値はこれらと一緒に記憶されます。
- このコマンドを対話式に実行した場合には, 表示装置記述から省略時のGCID値が取られます。このコマンドをバッチで実行した場合には, 省略時のGCID値はQCHRID システム値から取られます。このパラメーターに特定の文字セットおよびコード・ページを指定することによって, これらの値を一時変更することができます。

単一値

***SYSVAL**

システムは, QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

*DEV D

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起こります。

要素1: グラフィック文字セット

1から32767

使用する図形文字セットを指定してください。

要素2: コード・ページ

1から32767

使用するコード・ページを指定してください。

注:

- ユーザーIDおよびアドレス、システム名およびグループ、およびX.400 O/Rパラメーターだけが、このパラメーターで指定された図形文字セットID (GCID)に変換されます。指定したその他のパラメーター値はすべて、入力されたままの状態に記憶されます。GCIDの値はこれらと一緒に記憶されます。
- このコマンドを対話式に実行した場合には、表示装置記述から省略時のGCID値が取られます。このコマンドをバッチで実行した場合には、省略時のGCID値はQCHRID システム値から取られます。このパラメーターに特定の文字セットおよびコード・ページを指定することによって、これらの値を一時変更することができます。

上

例

```
RMVDSTLE  LSTID(CHICAGO DLIST)
           USRID((HURST PAYROLL 'MANAGER OF PAYROLL')
                (LEE DEPT554 *FIRST)
                (BOCA DLIST 'リモート配布リスト')
                (BRYON WAREHSE *ALL))
```

この例では、4つのユーザーIDが配布リストCHICAGO DLISTから除去されます。3番目のユーザーIDは実際にはリモート配布リストです。BRYON WAREHSEの項目のすべてがこのリストから除去されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9024

システムが操作を終了する正しいレコードを獲得することができない。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF9092

項目がリスト&1 &2から除去されなかった。

CPF9093

&1個の項目がリスト&2 &3から除去された。

CPF9096

バッチ・ジョブではCMDCHRID(*DEVD), DOCCHRID(*DEVD)を使用することはできない。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

上

配布待ち行列の除去 (RMVDSTQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布待ち行列除去(RMVDSTQ)コマンドによって、配布サービス待ち行列テーブルから配布待ち行列項目を除去することができます。 配布待ち行列は、他のシステムに送信または転送される前の配布を記憶するために使用されます。

RMVDSTQコマンドは対話式表示サポートを提供しません。これは配布サービス構成(CFGDSTSRV)コマンドによって提供されます。配布ネットワーク構成の詳細については、AS/400 SNA配布サービス(SD88-5031)を参照してください。

配布待ち行列名は、ジョブのコード化文字セットID(CCSID)を使用して、図形文字セットおよびコード・ページ930 500に変換されます。

制約事項:

- このコマンドは*EXCLUDEの共通認可とともに出荷され、QPGMRおよびQSYSOPR ユーザー・プロフィールには、このコマンドを使用するための私用認可があります。
- 次の配布待ち行列を除去することはできません。
 - 経路指定テーブルの中で参照されている待ち行列
 - 送信されるのを待機中の配布が入っている待ち行列
 - 待ち行列を使用するためのリモート・ライブラリーがすでに構成されているDLS (文書ライブラリー・サービス) 待ち行列
 - 受信先が活動状態であるか、または配布が受信された時に送信元で確認を受信した旨の肯定応答が得られていない場合のSVDS (IBM SYSTEM MANAGER FOR I5/OS配布サービス) 待ち行列
- 配布待ち行列についてエラーを報告するメッセージは、システムの内部変換のために、その配布待ち行列名用に入力されたものと異なる文字で表示または印刷されることがあります。同様に、(ワークステーションに使用される言語によって) 配布待ち行列名の内部値が、配布待ち行列処理(WRKDSTQ)コマンドの場合に表示される文字と異なることがあります。 **配布待ち行列プロンプト (DSTQパラメーター)** に指定された文字ストリング値が内部配布待ち行列値の規則と一致しない場合、あるいは定義されたどの配布待ち行列の内部値とも一致しない (大/小文字の相違を無視して) 場合には、エラーが報告される場合があります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DSTQ	配布待ち行列	文字値	必須, 定位置 1

上

配布待ち行列 (DSTQ)

除去する配布待ち行列項目の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

例

RMVDSTQ DSTQ(CHICAGO)

このコマンドは、CHICAGOという名前の配布待ち行列項目を除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF8802

配布待ち行列&1が見つからなかった。

CPF8807

QSNADSジャーナルの使用中にエラーが起こった。

CPF8809

SNADS内部待ち行列でエラーが検出された。

CPF881B

配布待ち行列&1の配布が受信されている。

CPF8826

配布待ち行列&1の配布待ち行列項目が存在している。

CPF8827

配布待ち行列&1の経路指定テーブル項目が存在している。

CPF8828

*DLS配布待ち行列&1にリモート文書ライブラリー項目が存在している。

CPF8833

配布待ち行列&1はすでに存在している。

CPF8849

待ち行列&1は別の配布サービス機能によって使用中である。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

上

配布経路の除去 (RMVDSTRTE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布経路除去(RMVDSTRTE)コマンドによって、配布サービス経路指定テーブルから項目を除去することができます。いったん、テーブルからシステムを除去すると、このシステムから直接そのシステムに配布を送信することはできなくなります。

対話式表示サポートは配布サービス構成(CFGDSTSRV)コマンドによって提供されます。配布ネットワーク構成の詳細については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。

制約事項: このコマンドは共用*EXCLUDE権限で出荷され、QPGMRおよびQSYSOPRユーザー・プロファイルは、このコマンドを使用する私用認可をもちます。

システム名およびグループ名は、ジョブのコード化文字セットID(CCSID) を使用して、図形文字セットおよびコード・ページ930 500に変換されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SYSNAME	システム名	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: システム名	文字値, *ANY	
	要素 2: システム・グループ	文字値, *ANY	

上

システム名 (SYSNAME)

経路指定テーブルから除去したいリモート・システムのシステム名およびグループ名を指定します。

最大8文字のシステム名および最大8文字のグループ名を指定することができます。

システム名として*ANYを指定することができます。SYSNAME (*ANY グループ) を指定するのは、特定のシステム名とは一致していないがグループ名と一致している配布の宛先を決定するために使用する経路指定テーブル項目を除去する場合です。テーブル中の各グループごとに*ANYを1つだけ使用することができます。

システム名にも*ANYが指定されている場合に限り、グループ名に*ANYを指定することができます。SYSNAME(*ANY *ANY)を指定するのは、他のどの経路指定テーブル項目とも一致しない配布の宛先を決定するために使用する経路指定テーブル項目を除去する場合です。経路指定テーブル中では、SYSNAME(*ANY *ANY)を1つだけ使用することができます。

これは必須パラメーターです。

上

例

例1: 経路指定テーブルからのシステムの除去

```
RMVDSTRTE  SYSNAME(SYSTEMA GROUPA)
```

このコマンドは、SYSTEMAという名前の経路指定テーブル項目を除去します。

例2: 総称経路指定テーブル項目の除去

```
RMVDSTRTE  SYSNAME(*ANY GROUPNM1)
```

このコマンドは、システム名が*ANYで、グループ名がGROUPNM1の経路指定テーブル項目を除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF8802

配布待ち行列&1が見つからなかった。

CPF8807

QSNADSジャーナルの使用中にエラーが起こった。

CPF8815

経路指定テーブル項目&1 &2が見つからない。

CPF8831

経路指定テーブルに項目&1 &2がすでに存在している。

CPF8837

システム名/グループ&1 &2は別の配布サービス機能によって使用中である。

CPF8849

待ち行列&1は別の配布サービス機能によって使用中である。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

上

2 次システム名の除去 (RMVDSTSYSN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布2次システム名除去(RMVDSTSYSN)コマンドによって、配布サービス2次システム名テーブルから項目を除去することができます。このテーブルには、ローカル・システムが配布を受信し、またそれをリダイレクトすることのある相手先のすべての代替（別名）システム名の名前が入っています。テーブルから代替システム名を除去すると、このシステムは、もはや代替システム用の配布を受信しなくなります。

対話式表示サポートは配布サービス構成(CFGDSTSRV)コマンドによって提供されます。配布ネットワーク構成の詳細については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。

システム名およびグループ名は、ジョブのコード化文字セットID(CCSID) を使用して、図形文字セットおよびコード・ページ930 500に変換されます。

制約事項:

- このコマンドは*EXCLUDEの共通認可とともに出荷され、QPGRMRおよびQSYSOPR ユーザー・プロフィールには、このコマンドを使用するための私用認可があります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SYSNAME	2次システム名	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: システム名	文字値	
	要素 2: システム・グループ	文字値	

上

2 次システム名 (SYSNAME)

除去する2次システム名テーブル項目のシステム名およびグループ名を指定します。

最大8文字のシステム名および最大8文字のグループ名を指定することができます。

これは必須パラメーターです。

上

例

RMVDSTSYSN SYSNAME(SYS2LAJ1 ROCHESTR)

このコマンドは、配布サービス2次システム名テーブルからSYS2LAJ1 ROCHESTRという名前のシステムを除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF8807

QSNADSジャーナルの使用中にエラーが起こった。

CPF8818

2次システム名テーブル項目&1 &2が見つからない。

CPF8835

システム名/グループ&1 &2はすでに指定されている。

CPF8837

システム名/グループ&1 &2は別の配布サービス機能によって使用中である。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

上

ディスク・ウォッチャー定義の除去 (RMVDWDFN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディスク・ウォッチャー定義の除去 (RMVDWDFN)コマンドは、1つ以上のディスク監視定義をシステムから除去します。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、サービス(*SERVICE)特殊権限を持っているか、あるいはSystem i5ナビゲーターのアプリケーション管理サポートを介してオペレーティング・システムのディスク監視機能に対する権限を与えられていなければなりません。機能IDにQIBM_SERVICE_DISK_WATCHERを指定した機能使用法の変更(CHGFCNUSG)コマンドを使用して、このコマンドの使用を許可されるユーザーのリストを変更することもできます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DFN	定義	総称名, 名前, *SELECT, *ALL	オプション

上

定義 (DFN)

除去するディスク監視定義の名前を指定します。特定の定義名、総称定義名、または*ALLを指定することができます。

*SELECT

既存のディスク監視定義のリストがユーザー選択用に表示されます。この値が有効となるのは、そのコマンドを対話式ジョブで実行する場合だけです。

***ALL** すべてのディスク監視定義が除去されます。

名前 除去するディスク監視定義の名前を指定してください。

総称名 除去するディスク監視定義の総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (例えば, ABC*)です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが入っていない場合、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

上

例

例1:単一のディスク監視定義を除去

```
RMVDWDFN  DFN(MYDWDFN)
```

このコマンドは、MYDWDFNという名前のメンバーをシステムから除去します。

例2:MYで始まるすべてのディスク監視定義を除去

```
RMVDWDFN  DFN(MY*)
```

このコマンドは、名前がMYで始まるすべてのディスク監視定義をシステムから除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF3203

&2のファイル&1のオブジェクトを割り振ることができない。

CPF3220

&2のファイル&1に対して操作を実行することはできない。

CPF7301

&3のファイル&2から&5個のメンバーが除去されなかった。

CPF7310

メンバー&1は&3のファイル&2から除去されませんでした。

CPFB513

ユーザーに必要権限がありません。

CPFB51B

コマンドが対話式に実行されている場合には、オプション*SELECTだけが有効である。

上

構成項目除去 (RMVEMLCFGE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

エミュレーション構成項目除去(RMVEMLCFGE)コマンドは、3270装置エミュレーション・セッションについての構成項目を構成ファイルから除去するために、使用されます。

制約事項: ユーザーはこのコマンドによって、システムと一緒に移入される省略時のエミュレーション構成項目である構成項目QEMDFTCFGEを除去することはできません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
EMLCFGE	構成項目	名前	必須, 定位置 1

上

構成項目 (EMLCFGE)

除去する構成項目の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

例

RMVEMLCFGE EMLCFGE(FASBPRINT)

このコマンドは、構成ファイルからエミュレーション構成項目FASBPRINTを除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF85FA

エミュレーション項目QEMDFTCFGEが除去されなかった。

CPF853E

エミュレーション構成項目&1が見つからない。

CPF854B

エミュレーション構成ルーチンに内部エラーが見つかった。

上

環境変数の除去 (RMVENVVAR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

環境変数の除去(RMVENVVAR)コマンドは、存在する1つの環境変数（またはすべての環境変数）を除去します。

制約事項: このコマンドを使用してシステム・レベルの環境変数を除去するためには、*JOBCTL特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
ENVVAR	環境変数	文字値, *ALL	必須, 定位置 1
LEVEL	レベル	*JOB, *SYS	オプション

上

環境変数 (ENVVAR)

削除する環境変数の名前を指定します。この名前の環境変数が指定されたレベル(LEVELパラメーター)に存在しない場合には、エラー・メッセージCPFA981が出されます。

特殊値*ALLが指定された場合には、指定されたレベル(LEVELパラメーター)のすべての環境変数が除去されます。

注: 小文字を指定した時には、大文字と小文字が区別されます。

アポストロフィを使用したい場合には、2つのアポストロフィ('')を使用しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

上

レベル (LEVEL)

環境変数のレベルを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***JOB** これはジョブ・レベルの環境変数です。

***SYS** これはシステム・レベルの環境変数です。

例

例1:ジョブ・レベル環境変数の除去

```
RMVENVVAR  ENVVAR(ALTDIR)
```

このコマンドは、ALTDIRという名前のジョブ・レベル環境変数を除去します。

例2:システム・レベル環境変数の除去

```
RMVENVVAR  ENVVAR(HOME)  TYPE(*SYS)
```

このコマンドは、HOMEという名前のシステム・レベル環境変数を除去します。

例3:すべてのジョブ・レベル環境変数の除去

```
RMVENVVAR  ENVVAR(*ALL)
```

このコマンドは、すべてのジョブ・レベル環境変数を除去します。

例4:すべてのシステム・レベル環境変数の除去

```
RMVENVVAR  ENVVAR(*ALL)  LEVEL(*SYS)
```

このコマンドは、すべてのシステム・レベル環境変数を除去します。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPFA981

この環境変数は存在していない。

CPFA98E

システム・レベルの環境変数を更新するには*JOBCTL特殊権限が必要です。

EWCバーコード項目の除去 (RMVEWCBCDE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

拡張無線制御装置バーコード項目除去(RMVEWCBCDE)コマンドは、指定されたバーコード・グループのバーコード項目を除去します。

制約事項: このコマンドを実行するには、ユーザー・プロファイルに*IOSYSCFG特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
BCDGRP	バーコード・グループ	名前	必須, 定位置 1
INZMBR	初期設定ソース・メンバー	名前	必須, 定位置 2
INZFILE	初期設定ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 3
	修飾子 1: 初期設定ソース・ファイル	名前, <u>QEWCSRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u>	

上

バーコード・グループ (BCDGRP)

除去するバーコード・グループ項目の名前を指定します。

上

初期設定ソース・メンバー (INZMBR)

除去中のバーコード項目が入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。バーコード項目には、拡張無線制御装置構成データが入っています。

上

初期設定ソース・ファイル (INZFILE)

ソース・ファイル・メンバーが入っているソース物理ファイルの名前を指定します。

ソース・ファイルの名前は次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は、次の通りです。

QEWCSRC

ソース・ファイル名QEWCSRCが使用されます。

ソース・ファイル名

ソース・メンバーが入っているソース物理ファイルの名前を指定してください。

上

例

```
RMVEWCBCDE BCDGRP(BCD01) INZMBR(EWC01) INZFILE(QGPL/QEWCSRC)
```

このコマンドは、ライブラリーQGPLのソース・ファイルQEWCSRCのソース・ファイル・メンバーEWC01のバーコード・グループBCD01のバーコード項目を除去します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

EWC PTC項目の除去 (RMVEWCPTCE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

拡張無線制御装置PTC項目除去(RMVEWCPTCE)コマンドは、指定されたPTCグループのポータブル・トランザクション・コンピューター(PTC)項目を除去します。

制約事項: このコマンドを実行するには、ユーザー・プロファイルに*IOSYSCFG特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
PTCGRP	PTCグループ	名前	必須, 定位置 1
INZMBR	初期設定ソース・メンバー	名前	必須, 定位置 2
INZFILE	初期設定ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 3
	修飾子 1: 初期設定ソース・ファイル	名前, <u>QEWCSRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u>	

上

PTCグループ (PTCGRP)

除去する項目のPTCグループ名を指定します。

上

初期設定ソース・メンバー (INZMBR)

除去中のPTC項目が入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。ソース・ファイル・メンバーには、拡張無線制御装置構成データが入っています。

上

初期設定ソース・ファイル (INZFILE)

ソース・ファイル・メンバーが入っているソース物理ファイルの名前を指定します。

ソース・ファイルの名前は次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は、次の通りです。

QEWC SRC

ソース・ファイル名QEWC SRCが使用されます。

ソース・ファイル名

ソース・メンバーが入っているソース物理ファイルの名前を指定してください。

上

例

```
RMVEWCPTCE PTCGRP(PTC01) INZMBR(EWC01) INZFILE(QGPL/QEWC SRC)
```

このコマンドは、ライブラリーQGPLのソース・ファイルQEWC SRCのソース・ファイル・メンバーEWC01のPTCグループPTC01のPTC項目を除去します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

出口プログラムの除去 (RMVEXITPGM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

出口プログラム除去(RMVEXITPGM)コマンドは、登録済みまたは未登録の特定の出口点の出口プログラム項目を除去します。未登録の出口点というのは、出口プログラムが追加された時点で登録機能が出口点なしで作成した出口点です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
EXITPNT	出口点	単純名	必須, 定位置 1
FORMAT	出口点形式	単純名	必須, 定位置 2
PGMNBR	プログラム番号	1-2147483647, *ALL	必須, 定位置 3

上

出口点 (EXITPNT)

出口プログラムが除去される既存の出口点の名前を指定します。

上

出口点形式 (FORMAT)

除去される出口プログラムの出口点様式の名前を指定します。

上

プログラム番号 (PGMNBR)

除去される出口プログラムのプログラム番号を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** 指定された出口点様式 (FORMATパラメーター) のすべての出口プログラムを指定された出口点 (EXITPNTパラメーター) から除去します。

プログラム番号

指定されたプログラム番号に対応する出口プログラムを除去します。

上

例

```
RMVEXITPGM  EXITPNT(USER_EXIT_ONE)  FORMAT(EXIT1)  PGMNBR(1)
```

このコマンドは、出口点形式EXIT1のプログラム順序番号1で追加された出口点USER_EXIT_ONEの出口プログラムを除去します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

フォント・テーブル項目の除去 (RMVFNTTBLE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フォント・テーブル項目の除去 (RMVFNTTBLE)コマンドは、指定されたフォント・テーブルの項目を除去します。このコマンドは、以下の制御を行う印刷サービス機能(PSF)によって使用されるフォント・マッピング・テーブルの項目を除去します。

1. ホスト常駐から印刷装置常駐フォント文字セットへのマッピング
2. 印刷装置常駐からホスト常駐フォント文字セットへのマッピング
3. ホスト常駐から印刷装置常駐コード・ページへのマッピング
4. 印刷装置常駐からホスト常駐コード・ページへのマッピング
5. 印刷装置常駐から印刷装置常駐フォント置き換えへのマッピング

フォント・テーブル項目追加(ADDFNTTBLE)コマンドを実行することによって、ユーザー・テーブルに項目を追加しておかなければなりません。

印刷装置からホストへのフォント・マッピングおよびホストから印刷装置へのフォント・マッピング（上記にリストされた最初の4つのテーブル）の実行では、ユーザー・テーブルが最初に一致を検索されます。一致が見つからない場合には、次にシステム・フォント・テーブルまたはコード・ページ・テーブルが検索されます。

印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルの場合には、システムによって次の処理が実行されます。

- 印刷ジョブで指定された印刷装置常駐フォントがその印刷装置によってサポートされている場合には、それが使用されます。印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルは検索されません。
- 印刷ジョブで指定された印刷装置常駐フォントが印刷装置によってサポートされていない場合には、印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルが検索されます。
 - 一致する項目が印刷装置常駐フォント置き換えテーブルで見つかり、その項目が印刷装置によってサポートされている場合には、印刷装置常駐フォント置き換えテーブルで指定された置き換えフォントが使用されます。
 - 一致する項目が印刷装置常駐フォント置き換えで見つからない場合、あるいは項目が印刷装置によってサポートされていない場合には、システムはその内部フォント置き換えテーブルを使用してフォント置き換えを実行します。

フォント・マッピング・テーブルの詳細については、印刷装置プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

制約事項

- このコマンドを使用するためには、PSF機能が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FNTTBL	フォント・テーブル	単一値: *PHFCS, *HPFCS, *PHCP, *HPCP その他の値: 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: フォント・テーブル	名前	
	修飾子 2:	名前, *CURLIB, *LIBL	
PHFCS	印刷装置フォント項目	要素リスト	オプション
	要素 1: 識別コード	1-65535	
	要素 2: 幅	1-32767, *NONE, *PTSIZE	
	要素 3: 属性	*NONE, *BOLD, *ITALIC, *BOLDITC, *DBLWIDE, *ITCDBLWIDE	
	要素 4: 図形文字セット	整数, *SYSVAL	
要素 5: ポイント・サイズ	1.0-999.9, *WIDTH, *NONE		
PHCP	印刷装置コード・ページ項目	要素リスト	オプション
	要素 1: 図形文字セット	整数, *SYSVAL	
	要素 2: コード・ページ	整数	
HPFCS	ホスト・フォント項目	要素リスト	オプション
	要素 1: フォント文字セット	名前	
	要素 2: タイプ	*RASTER, *OUTLINE	
HPCP	ホスト・コード・ページ項目	要素リスト	オプション
	要素 1: コード・ページ	名前	
PPFCS	印刷装置相互間フォント	要素リスト	オプション
	要素 1: 識別コード	1-65535	
	要素 2: ポイント・サイズ	1.0-999.9, *ALL, *NONE	

上

フォント・テーブル (FNTTBL)

除去するフォント・テーブルを指定します。

単一値

*PHFCS

印刷装置常駐からホスト常駐フォント文字セットへのテーブルが除去されます。

*PHCP

印刷装置常駐からホスト常駐コード・ページへのマッピング・テーブルが除去されます。

*HPFCS

ホスト常駐から印刷装置常駐フォント文字セットへのテーブルが除去されます。

*HPCP

ホスト常駐から印刷装置常駐コード・ページへのマッピング・テーブルが除去されます。

修飾子1: フォント・テーブル

名前 除去するフォント・テーブルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーを検索します。

***CURLIB**

フォント・テーブルを見つけるために、現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 フォント・テーブルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

印刷装置からホスト・フォントへ (PHFCS)

除去する印刷装置常駐フォント項目を指定します。

要素1: 印刷装置フォント

要素1: 識別コード

I-65535

ホスト常駐フォントにマップする印刷装置常駐フォントIDを指定します。

要素2: 幅

***NONE**

このフォントIDには幅は指定されません。アウトライン・フォントにマッピングする場合には、*NONEを指定しなければなりません。

***PTSIZE**

このフォントIDの幅は、指定されたポイント・サイズから計算されます。幅に*PTSIZEを指定した場合には、ポイント・サイズ・パラメーターを*NONEまたは*WIDTHにすることはできません。印刷用ラスター・フォント(2304 - 3839, 4096 - 53247, 61440 - 65534)をマッピングする場合には、ポイント・サイズの値を指定しなければなりません。幅の値は*PTSIZEにするか、あるいは値を指定することができます。

I-32767

フォントIDの幅を指定します。固定ピッチ・ラスター・フォント(1 - 750, 3840 - 4095)をマッピングする場合には、幅を指定しなければなりません。ポイント・サイズの値は*WIDTHにするか、あるいは値を指定することができます。印刷装置常駐フォントのフォント幅の詳細については、印刷装置プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

要素3: 属性

***NONE**

このフォントには特別のフォントの属性は指定されません。

***BOLD**

印刷装置常駐フォントは太字体のフォントです。

***ITALIC**

印刷装置常駐フォントはイタリック体のフォントです。

***BOLDITC**

印刷装置常駐フォントはイタリック体の太字フォントです。

***DBLWIDE**

印刷装置常駐フォントは横倍角フォントです。

***ITCDBLWIDE**

印刷装置常駐フォントはイタリック体の横倍角フォントです。

要素4: 図形文字セット

***SYSVAL**

システム値QCHRIDに指定された図形文字セットが使用されます。

図形文字ID

フォントの図形文字セットを指定します。図形文字セットは、図形文字セットとコード・ページから構成される図形文字IDの最初の部分です。

要素5: ポイント・サイズ

***WIDTH**

フォントのポイント・サイズは指定されたフォントの幅の値から計算されます。固定ピッチのラスタ・フォント(1 - 750, 3840 - 4095)をマッピングする場合には、幅の値を指定してポイント・サイズの値を*WIDTHにすることを推奨します。

***NONE**

このフォントIDにはポイント・サイズは指定されません。アウトライン・フォントにマッピングする場合には、*NONEを指定しなければなりません。

1.0-999.9

1.0から999.9の範囲でポイント・サイズを指定します。印刷用ラスタ・フォント(2304 - 3839, 4096 - 53247, 61440 - 65534)をマッピングする場合には、ポイント・サイズの値を指定しなければなりません。

上

印刷装置からホスト・コード・ページ (PHCP)

除去する印刷装置常駐コード・ページ項目を指定します。

要素1: 印刷装置コード・ページ

要素1: 図形文字セット

***SYSVAL**

システム値QCHRIDに指定された図形文字セットが使用されます。このシステム値の変更が有効となるのは、印刷書き出しプログラムが開始される時のフォント・マッピング・テーブルだけです。QCHRIDが変更され、印刷装置が現在活動状態である場合には、この印刷装置書き出しプログラムを終了して再度開始しなければなりません。

整数 印刷装置常駐コード・ページの図形文字セットを指定します。図形文字セットは、図形文字セットとコード・ページから構成される図形文字IDの最初の部分です。例えば、図形文字ID 697 500の場合には、697が図形文字セットで、500がコード・ページとなります。この例では、図形文字セットに697を指定します。

要素2: コード・ページ

整数 印刷装置常駐コード・ページの値を指定します。

上

ホストから印刷装置フォントへ (HPFCS)

除去するホスト常駐フォント項目を指定します。

要素1: ホスト・フォント

要素1: フォント文字セット

名前 フォント文字セットを指定します。

要素2: タイプ

***RASTER**

ホスト常駐フォントはラスター・フォントです。

***OUTLINE**

ホスト常駐フォントはアウトライン・フォントです。

上

ホストから印刷装置コード・ページ (HPCP)

除去するホスト常駐コード・ページ項目を指定します。

要素1: ホスト・コード・ページ

要素1: コード・ページ

名前 ホスト常駐コード・ページの名前を指定します。

上

印刷装置相互間フォント (PPFCS)

除去する印刷装置常駐フォント置き換えマッピングを指定します。

要素1: 印刷装置からのフォント

要素1: 識別コード

1-65535

置き換え印刷装置常駐フォントが変更される印刷装置常駐フォントIDを指定します。サポートされている印刷装置常駐フォントや、スケーラブル（ポイント・サイズが必要）かスケーラブルでない（ポイント・サイズに*NONEを指定）かの詳細については、印刷装置プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

要素2: ポイント・サイズ

***NONE**

フォント・ポイント・サイズは指定されません。これはすべての非スケーラブル・フォントに指定してください。

***ALL** アウトライン（スケーラブル）・フォントのすべてのポイント・サイズがマップされることを指定します。フォントがスケーラブルでない場合には、これは*NONEと同じに扱われます。

1.0-999.9

1.0から999.9の範囲でポイント・サイズを指定します。印刷用ラスタ・フォント(2304 - 3839, 4096 - 53247, 61440 - 65534)をマッピングする場合には、ポイント・サイズの値を指定しなければなりません。

上

例

例1:フォント項目の除去

```
RMVFNTTBLE FNTTBL(*PHFCS) PHFCS(254 84 *NONE 2039 7.0)
```

このコマンドは、QPHFCSテーブル（印刷装置常駐からホスト常駐へのフォント文字セット・テーブル）から項目を除去します。

例2:コード・ページ項目の除去

```
RMVFNTTBLE FNTTBL(*PHCP) PHCP(*SYSVAL 38)
```

このコマンドは、QPHCPテーブル（印刷装置常駐からホスト常駐へのコード・ページ・テーブル）から項目を除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF88D2

ライブラリー&2のフォント・テーブル&1は変更されなかった。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

上

フィルター処置項目の除去 (RMVFTRACNE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フィルター処置項目の除去(RMVFTRACNE)コマンドでは、ユーザーは指定したフィルター・オブジェクトから処置項目を除去することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FILTER	フィルター	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: フィルター	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
GROUP	グループ	名前	必須, 定位置 2

上

フィルター (FILTER)

処置項目が除去されるフィルターの修飾名を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

フィルターを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

フィルターが入っているライブラリーの名前を指定してください。

フィルター名

フィルターの名前を指定してください。

上

グループ (GROUP)

削除される処置項目を識別するグループを指定します。

上

例

```
RMVFTRACNE  FILTER(MYLIB/MYFILTER)  GROUP(CHICAGO)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIB内のフィルターMYFILTERのグループCHICAGOで識別された処置項目を除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2150

オブジェクト情報機能に障害。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF812F

フィルターに損傷がある。

CPF91DD

グループ&4の処置項目が見つからなかった。

CPF91EC

内部処理エラーが起こった。

CPF91E8

内部処理エラーが起こった。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

上

フィルター選択項目の除去 (RMVFTRSLTE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フィルター選択項目の除去(RMVFTRSLTE)コマンドでは、ユーザーはフィルター・オブジェクトから選択項目を除去することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FILTER	フィルター	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: フィルター	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SEQNBR	順序番号	1-9999	必須, 定位置 2

上

フィルター (FILTER)

選択項目が除去されるフィルターの修飾名を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

フィルターを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

フィルターが入っているライブラリーの名前を指定してください。

フィルター名

使用するフィルターの名前を指定してください。

上

順序番号 (SEQNBR)

削除される選択項目の順序番号を指定します。フィルターの選択項目は順番に番号付けされています。あるフィルターが適用されると、順序番号がそれより小さい選択項目が最初に評価されます。1から9999の番号を指定してください。

例

```
RMVFTRSLTE  FILTER(MYLIB/MYFILTER)  SEQNBR(10)
```

このコマンドは、選択項目0010をライブラリーMYLIB内のフィルターMYFILTERから除去します。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2150

オブジェクト情報機能に障害。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF812F

フィルターに損傷がある。

CPF91DC

順序番号&4の選択項目が見つからなかった。

CPF91EC

内部処理エラーが起こった。

CPF91E8

内部処理エラーが起こった。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

ICF装置項目除去 (RMVICFDEVE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム間通信機能装置項目除去(RMVICFDEVE)コマンドは、指定したICFファイルから1つまたは複数のプログラム装置項目を除去します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FILE	ICF通信ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ICF通信ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
PGMDEV	プログラム装置	値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	必須, 定位置 2

上

ICF通信ファイル (FILE)

プログラム装置項目を除去するICFファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ICF通信ファイル

名前 ICFファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ICFファイルを見つけるために現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ICFファイルが入っているライブラリーを指定してください。

上

プログラム装置 (PGMDEV)

ICFファイルから除去するプログラム装置項目を指定します。

このパラメーターには50個の値を指定することができます。

これは必須パラメーターです。

文字値 除去するプログラム装置項目の名前を指定してください。

上

例

```
RMVICFDEVE FILE(ICFHIST) PGMDEV (CHICAGO NEWYORK DENVER)
```

このコマンドは、ICFファイルICFHISTからCHICAGO, NEWYORK, およびDENVERのプログラム装置を除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF7366

&2のファイル&1から装置が除去されなかった。

上

イメージ・カタログ項目の除去 (RMVIMGCLGE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

イメージ・カタログ項目除去(RMVIMGCLGE)コマンドは、ライブラリーQUSRSYSのイメージ・カタログ・オブジェクト(*IMGCLG)からイメージ・カタログ項目を除去します。任意に、そのカタログ項目と関連したイメージ・ファイルをシステムから削除することができます。

イメージ・カタログが現在仮想装置にロードされている場合には、エラー・メッセージが送られ、イメージはイメージ・カタログから除去されません。イメージ・カタログのロード/アンロード(LODIMGCLG)コマンドは、仮想装置から現行のイメージ・カタログをアンロードするために使用できます。

制約事項:

- イメージ・カタログ項目を除去するには、次の権限が必要です。
 - ライブラリーQUSRSYSに対する実行(*EXECUTE)権限。
 - イメージ・カタログに対する変更(*CHANGE)権限。
 - イメージ・カタログ・パス名の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限。
- このコマンドは、参照および従属イメージ・カタログではサポートされません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
IMGCLG	イメージ・カタログ	名前	必須、定位置 1
IMGCLGIDX	イメージ・カタログ索引	1-256, *VOL	必須、定位置 2
VOL	イメージ・カタログ・ボリューム	文字値	オプション
KEEP	イメージ・ファイルの保持	*YES, *NO	オプション

上

イメージ・カタログ (IMGCLG)

そのイメージを除去する元のイメージ・カタログを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 イメージ・カタログの名前を指定します。

上

イメージ・カタログ索引 (IMGCLGIDX)

除去する項目のイメージ・カタログ索引を指定します。

1から256

使用したいイメージ・カタログ索引番号を指定します。

***VOL** ボリューム名を指定して項目を除去します。

上

イメージ・カタログ・ボリューム (VOL)

除去する項目のボリューム名を指定します。

名前 除去する項目のボリューム名を指定します。光ディスク・イメージ・カタログでは、指定されたボリュームと一致する最初のボリュームが除去されます。

上

イメージ・ファイルの保持 (KEEP)

このイメージ・カタログ項目と関連したイメージを保持するかどうかを指定します。

***YES** イメージ・カタログ項目と関連したイメージはシステムから削除されません。

***NO** イメージ・カタログ項目に関連したイメージ・ファイルはシステムから削除されます。

上

例

例1: イメージ・カタログ項目を除去

```
RMVIMGCLGE IMGCLG(MYCLG) IMGCLGIDX(2)
```

このコマンドは、イメージ・カタログ**MYCLG**から索引**2**のイメージ・カタログ項目を除去します。関連イメージは削除されません。

例2: イメージ・カタログ項目を除去し、イメージ・ファイルを削除

```
RMVIMGCLGE IMGCLG(MYCLG) IMGCLGIDX(1) KEEP(*NO)
```

このコマンドは、イメージ・カタログ**MYCLG**から索引**1**のイメージ・カタログ項目を除去します。関連イメージ・ファイルがシステムから削除されます。

例3: ボリューム名によるテープ・イメージ・カタログ項目の除去

```
RMVIMGCLGE IMGCLG(TAPECLG) IMGCLGIDX(*VOL) VOL(TAP001)  
KEEP(*NO)
```

このコマンドは、ボリューム名が**TAP001**のテープ・イメージ・カタログ項目をイメージ・カタログ**TAPECLG**から除去します。関連イメージ・ファイルがシステムから削除されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPFBC30

索引&2のカタログ項目がイメージ・カタログ&1から除去されなかった。

CPFBC31

索引&2のカタログ項目がイメージ・カタログ&1から除去されなかった。

CPFBC45

イメージ・カタログ&1が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

上

IP OVER SNA インターフェースの除去 (RMVIPSIFC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

IP OVER SNAインターフェースの除去(RMVIPSIFC)コマンドは、AF_INET SOCKETS OVER SNAインターフェース(SNAの転送でこのローカル・ホストが認識されるIPアドレス)を除去します。このコマンドを使用して、IP OVER SNAインターフェースの追加(ADDIPSIFC) CLコマンドで指定されたインターフェースを除去することができます。除去されるインターフェースは、そのインターネット・アドレス(INTNETADR)によって識別されます。

制約事項:

1. このコマンドを使用するためには、*IOSYSCFG権限が必要です。
2. このコマンドを投入する場合には、インターフェースが活動状態であってはなりません。IP OVER SNAインターフェースの終了(ENDIPSIFC) CLコマンドを使用して、インターフェースを非活動化してください。
3. 除去されるIP OVER SNAインターフェースに対応するネットワークを介さなければそのNEXTHOPインターネット・アドレスに到達できない構成済みの経路があってはなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
INTNETADR	IPアドレス	文字値	必須, 定位置 1

上

IPアドレス (INTNETADR)

前にIP OVER SNAインターフェースの追加(ADDTCPIFC) CLコマンドでSNA構成に追加されたインターフェースのインターネット・アドレスを指定します。インターネット・アドレスはNNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定されます。ここでNNNは0から255の範囲の10進数です。コマンド入力行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。インターネット・アドレスは、そのアドレスのネットワーク識別コード(ID)部分またはホストID部分の値がすべて2進数の1またはすべて2進数の0の場合には、正しくありません。コマンド入力行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

これは必須パラメーターです。

IPアドレス

除去するインターフェースと関連したIPアドレスを指定してください。

上

例

```
RMVIPSIFC '9.5.1.248'
```

このコマンドは、IPアドレス9.5.1.248とのインターフェースを除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP8050

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

上

IP OVER SNA ロケーションの除去 (RMVIPSLOC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

IP OVER SNAロケーション項目除去(RMVIPSLOC)コマンドは、AF_INET SOCKETS OVER SNAロケーション項目を除去します。このコマンドを使用して、IP OVER SNAロケーション項目追加(ADDIPSLOC) CLコマンドで指定されたロケーション項目を除去することができます。除去されるロケーション項目は、そのリモート経路宛先(RMTDEST)とサブネット・マスク(SUBNETMASK)によって識別されます。

制約事項: このコマンドを使用するには、*IOSYSCFG権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
RMTDEST	リモート宛先	文字値	必須, 定位置 1
SUBNETMASK	サブネット・マスク	文字値, *HOST	必須, 定位置 2

上

リモート宛先 (RMTDEST)

除去されるロケーション項目のリモート経路宛先を指定します。リモート経路宛先はNNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定されます。ここでNNNは0から255の範囲の10進数です。リモート経路宛先アドレスをコマンド入力行から入力する場合には、アドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

これは必須パラメーターです。

上

サブネット・マスク (SUBNETMASK)

除去しているロケーション項目のサブネット・マスクを指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は、次の通りです。

*HOST

リモート経路宛先フィールドに指定されたインターネット・アドレスの値がホスト・アドレスの場合には、この値を指定してください。サブネット・マスクの値は255.255.255.255になるように計算されます。

サブネットワーク・マスク

サブネットワーク・マスクをNNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定してください。ここでNNNは0から255の範囲の10進数です。サブネットワーク・マスク・アドレスをコマンド入力行から入力する場合には、アドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

上

例

例1:サブネットワークのロケーション項目の除去

```
RMVIPSLOC RMTDEST('128.2.0.0') SUBNETMASK('255.255.255.128')
```

このコマンドは、ネットワーク128.2と255.255.255.128のサブネットワーク・マスクを持つサブネットワークのロケーション項目を除去します。

例2:ネットワークのロケーション項目の除去

```
RMVIPSLOC RMTDEST(128.3.0.0) SUBNETMASK('255.255.0.0')
```

このコマンドは、ネットワーク128.3のロケーション項目を除去します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

IP OVER SNA経路の除去 (RMVIPS RTE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

IP OVER SNA経路項目除去(RMVIPS RTE)コマンドは、AF_INET SOCKETS OVER SNA経路を除去します。このコマンドを使用して、IP OVER SNA経路の追加(ADDIPS RTE) CLコマンドで指定された経路を除去することができます。除去される経路は、その経路宛先(RTEDEST)、サブネット・マスク(SUBNETMASK)、およびネクスト・ホップ(NEXTHOP)によって識別されます。

制約事項: このコマンドを使用するには、*IOSYSCFG権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
RTEDEST	経路宛先	文字値	必須, 定位置 1
SUBNETMASK	サブネット・マスク	文字値, *HOST	必須, 定位置 2
NEXTHOP	ネクスト・ホップ	文字値	必須, 定位置 3

上

経路宛先 (RTEDEST)

除去される経路の経路宛先を指定します。経路宛先はNNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定されます。ここでNNNは0から255の範囲の10進数です。経路宛先アドレスをコマンド入力行から入力する場合には、アドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

これは必須パラメーターです。

上

サブネット・マスク (SUBNETMASK)

除去される経路のサブネット・マスクを指定します。

これは必須パラメーターです。

注: ネットワーク部分はサブネット・マスクの1のビットと等しくなければなりません。アドレスのホスト部分とサブネット・マスク部分の幅は両方とも最低2ビットでなければなりません。

考えられる値は、次の通りです。

*HOST

経路宛先フィールドに指定されたインターネット・アドレスの値がホスト・アドレスの場合には、この値を指定してください。

サブネット・マスク

サブネット・マスクを`NNN.NNN.NNN.NNN`の形式で指定してください。ここで`NNN`は0から255の範囲の10進数です。サブネット・マスク・アドレスをコマンド入力行から入力する場合には、アドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

上

ネクスト・ホップ (NEXTHOP)

除去される経路のネクスト・ホップを指定します。ネクスト・ホップは`NNN.NNN.NNN.NNN`の形式で指定されます。ここで`NNN`は0から255の範囲の10進数です。ネクスト・ホップ・アドレスをコマンド入力行から入力する場合には、アドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

これは必須パラメーターです。

上

例

```
RMVIPS RTE DEST('128.2.0.0') SUBNETMASK('255.255.255.128')  
NEXTHOP ('128.3.4.5')
```

このコマンドは、ネットワーク128.2と255.255.255.128のサブネット・マスクを持つサブネットワークのネットワーク経路項目を除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP264A

&2 &1は除去されなかった。

TCP8050

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

上

ジョブ待ち行列項目除去 (RMVJOBQE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ待ち行列項目除去 (RMVJOBQE)コマンドは、指定されたサブシステム記述からジョブ待ち行列項目を除去します。ジョブ待ち行列項目がサブシステム記述から除去される時に、そのジョブ待ち行列上のジョブは待ち行列に残っています。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - 指定されたサブシステム記述に対するオブジェクト操作(*OBJOPR),オブジェクト管理(*OBJMGT),および読み取り(*READ)権限と、そのサブシステム記述が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。
- 現在活動状態のいずれかのジョブがジョブ待ち行列から開始された場合には、ジョブ待ち行列項目を除去することはできません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SBSD	サブシステム記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サブシステム記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
JOBQ	ジョブ待ち行列	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

上

サブシステム記述 (SBSD)

ジョブ待ち行列項目を除去したいサブシステム記述の名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: サブシステム記述

名前 ジョブ待ち行列項目が除去されるサブシステム記述の名前を指定します。

注:IBM提供オブジェクトQSYSSBSDはこのパラメーターには正しくありません。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されま
す。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ラ
イブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されま
す。

名前 サブシステム記述が入っているライブラリーを指定します。

上

ジョブ待行列 (JOBQ)

サブシステム記述からジョブ待行列項目を削除したいジョブ待行列の名前およびライブラリーを指定し
ます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジョブ待行列

名前 項目が除去されるジョブ待行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されま
す。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ラ
イブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されま
す。

名前 そのジョブ待行列があるライブラリーを指定してください。

上

例

```
RMVJOBQE SBS(D(MYLIB/NIGHTRUN) JOBQ(MYLIB/BATCH2)
```

このコマンドは、MYLIBのBATCH2ジョブ待行列を参照するジョブ待行列項目をライブラリーMYLIB
に保管されているNIGHTRUNサブシステム記述から除去します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF1619

ライブラリー&2のサブシステム記述&1に損傷がある。

CPF1691

活動サブシステム記述は変更されることも変更されないこともある。

CPF1697

サブシステム記述&1は変更されなかった。

上

ジョブ・スケジュール項目除去 (RMVJOBSCDE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジュール項目除去 (RMVJOBSCDE)コマンドによって、ジョブ・スケジュール内の項目、複数の項目、または総称項目を除去することができます。各ジョブ・スケジュール項目は1つのバッチ・ジョブと対応していて、ジョブを一度、または定期的なスケジュール間隔で自動的に実行するために必要な情報が入っています。項目が正常に除去されるとメッセージが表示され、同時にそのメッセージはジョブ・スケジュール項目に指定されたメッセージ待ち行列に送られます。

制約事項:

1. 項目を除去するには、ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限のあるユーザー・プロファイルで実行する必要があります。そうでない場合は、除去できるのは追加した項目だけです。
2. このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - ライブラリーQUSRSYS中のオブジェクトQDFTJOBSCD,タイプ*JOBSCDに対する使用(*USE)権限, およびライブラリーQUSRSYSに対する実行(*EXECUTE)権限。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
JOB	ジョブ名	総称名, 名前	必須, 定位置 1
ENTRYNBR	項目番号	000001-999999, <u>*ONLY</u> , *ALL	オプション

上

ジョブ名 (JOB)

ジョブ・スケジュール項目の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

総称名 ジョブ・スケジュール項目の総称名を指定します。総称名は1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (例えば, ABC*)です。総称名を指定した場合には、その総称名で始まる名前のすべての項目 (ユーザーに権限がある場合) が除去されます。総称名を指定した場合には、ENTRYNBR(*ALL)も指定しなければなりません。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムは完全なジョブ名と見なします。

名前 除去したいジョブ・スケジュール項目の名前を指定します。

上

項目番号 (ENTRYNBR)

除去したいジョブ・スケジュール項目の番号を指定します。項目が正常に追加された時に送信されるメッセージには、この項目番号が入っています。また、ジョブ・スケジュール項目処理 (WRKJOBSCDE) コマンドを使用して項目番号を判別することもできます。選択した項目の項目番号を表示するには、WRKJOBSCDE画面でF11キーを押してください。

*ONLY

ジョブ・スケジュールの1つの項目だけがJOBパラメーターに指定されたジョブ名を持ちます。
*ONLYが指定され、複数の項目が指定されたジョブ名を持つ場合には、項目は除去されずに、エラー・メッセージも送信されません。

***ALL** 指定されたジョブ名を持つすべての項目が除去されます。

000001から999999

除去したいジョブ・スケジュール項目の番号を指定します。

上

例

例1:ジョブ・スケジュール項目の除去

```
RMVJOBSCDE JOB(SAMPLE*) ENTRYNBR(*ALL)
```

このコマンドは、ジョブ名がSAMPLEで始まるすべてのジョブ・スケジュール項目を除去します。

例2:個々のジョブ・スケジュール項目の除去

```
RMVJOBSCDE JOB(PAYROLL) ENTRYNBR(*ONLY)
```

このコマンドは、ジョブ・スケジュール内のジョブPAYROLLを除去します。

例3:総称ジョブ・スケジュール項目の除去

```
RMVJOBSCDE JOB(PAY*) ENTRYNBR(*ALL)
```

このコマンドは、ジョブ・スケジュール内の、名前に接頭部PAYを持つすべての項目を除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1628

ジョブ・スケジュール項目&3,番号&4が見つからなかった。

CPF1629

ジョブ・スケジュール&1に対して認可されていない。

CPF1630

ジョブ・スケジュール項目&3,番号&4に対して認可されていない。

CPF1631

&3個の項目は正常に除去され、&4個の項目は除去されていない。

CPF1636

指定されたジョブ名の項目が複数検出された。

CPF1637

ライブラリー&2のジョブ・スケジュール&1は使用中。

CPF1638

ジョブ・スケジュール項目&3番号&4は使用中。

CPF1640

ライブラリー&2のジョブ・スケジュール&1は存在していません。

CPF1641

ライブラリー&2のジョブ・スケジュール&1に損傷がある。

CPF1645

指定された名前のジョブ・スケジュール項目が見つからない。

CPF1646

総称名が指定された時には項目番号は*ALLでなければならない。

上

ジャーナル処理済み変更除去 (RMVJRNCHG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジャーナル処理済み変更除去(RMVJRNCHG)コマンドは、特定のジャーナル処理済みオブジェクトに対してジャーナル処理された変更を除去します。ジャーナル処理された変更は、指定した開始点から終了点に達するまで、オブジェクトから除去されます。ジャーナル項目は、それらがジャーナル・レシーバーに入れられた順序とは逆の順序（最も新しいものから古いものへ）で処理されます。開始点は、指定されたジャーナル・レシーバー範囲の最後のジャーナル項目、オブジェクトが最後に保管された点、またはレシーバー範囲の特定の項目として示すことができます。終了点は、指定されたジャーナル・レシーバー範囲の最初のジャーナル項目または特定の項目、あるいはオブジェクトが指定のジョブによって最後にオープンされた点として示すことができます。保留中の変更を処理するために、CMTBDYパラメーターを使用できます。

注: RMVJRNCHGによって処理されるデータベース・オブジェクト・レベルの変更はありません。

注: ジャーナル表示(DSPJRN)コマンドを使用して、所要の開始点および終了点を判別することができます。

ジャーナル処理済みオブジェクトのリストが指定されます。すべてのオブジェクトのジャーナル処理済み変更は、ジャーナルでジャーナル項目が見つかった順序（オブジェクトに対して始めに変更が行われた時は逆の順序）で除去されます。

ジャーナル・コードJ項目タイプSX (JRNSTATE(*STANDBY)終了) 項目が見つかった場合には、指定されたOBJERROPT値とは無関係に、指定されたすべてのオブジェクトに関する操作が終了します。オブジェクトは、ジャーナル項目から部分的に更新されるだけである可能性があります。

さらに、ジャーナル項目にコマンドが再生できない操作がリストされていると、コマンドは個々のオブジェクトについて終了する可能性があります。これが起こっても、OBJERROPT(*CONTINUE)が使用されていれば、指定された他のオブジェクトについて操作が続行されます。例えば、次のいずれかが起こったことを示すジャーナル項目が見つかったと、オブジェクトに対するコマンドは終了します。

- 物理データベース・ファイルが消去されている
- 物理データベース・ファイル・メンバーが保管されていて、その記憶域が解放されている
- ジャーナル初期プログラム・ロード(IPL)の同期が正常に行われていない
- システムが、ジャーナル変更適用(APYJRNCHG)コマンドまたはRMVJRNCHGコマンドによってすでに変更を適用しているかあるいは変更を除去している。

各種の項目の完全なリストと、コマンドを停止する可能性がある項目も含めて、このコマンドによる項目の処理方法については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「ジャーナル管理」トピック・コレクションを参照してください。その場合、「ジャーナル処理済み変更の適用または除去の処置」で検索してください。

コマンドは非論理的な条件でもオブジェクトについて終了します。コマンドが非論理的な条件のために終了していても、操作を再開することが論理的に可能な場合には、新しい開始順序番号を指定し、そのオブジェクトに対してコマンドをもう一度出すことができます。しかし、ほとんどの非論理的な条件は、間違ったジャーナル項目での除去の開始の結果であることに注意してください。

順序番号がリセットされている場合にも、ジャーナル項目を除去することができます。システムはこの状態を処理し、通知メッセージを送って、ジャーナル処理済み変更の除去を続行します。

制約事項:

- このコマンドは共用*EXCLUDE権限と一緒に出荷されていて、QPGMRおよびQSRVユーザー・プロファイルにはこのコマンドを使用するための専用権限があります。
- このコマンドに指定されるオブジェクトは、その変更が現在ジャーナル処理されていないと、このコマンドに示されている期間中に指定されたジャーナルにジャーナル処理されていないとなりません。
- 変更前イメージがオブジェクトに必要です。該当する開始ジャーナル処理コマンドを参照してください。
- コマンドに指示されているオブジェクトは、変更が除去されている間に独占的に割り当てられます。オブジェクトが独占的に割り振られない場合には、コマンドは終了し、ジャーナル処理された変更はオブジェクトから除去されません。
- FROMENTLRG, FROMENT, TOENTLRG,またはTOENTパラメーターに指定された項目を表すジャーナル項目がない場合には、コマンドは終了し、ジャーナル処理済みの変更はオブジェクトから除去されません。
- ジャーナルの順序番号が指定されたレシーバーの範囲内にリセットされていて、FROMENTLRG, FROMENT, TOENTLRG, またはTOENTパラメーターに順序番号が指定されている場合には、いずれかのパラメーターに指定されている順序番号の最初のオカレンスが使用されます。
- 指定されたレシーバー範囲内の1つまたは複数のジャーナル・レシーバーが、このデータを省略しているレシーバー・サイズ・オプション(RCVSIZOPT)または固定長データ・オプション(FIXLENDTA)が有効なジャーナルに接続されている場合には、TOJOBOPARAMETERを使用してジャーナル処理された変更の除去操作を終了する時点を指定することはできません。
- 変更が除去されるオブジェクトが記録オープンおよびクローズ項目でない場合には、TOJOBOPARAMETERを使用することはできません。詳細については、STRJRN, STRJRNPF,およびCHGJRNOBJコマンドのジャーナル項目除外(OMTJRNE)パラメーターを参照してください。
- リモート・ジャーナルでは、あるいはリモート・ジャーナルに関してはこのコマンドは使用することができません。
- このコマンドで変更を除去できるオブジェクトの最大数は12,000,000です。12,000,000を超えるオブジェクトを指定に含めると、エラー・メッセージが送られて、変更は除去されません。このパラメーターに指定された値は、限界を超えないように変更することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
JRN	ジャーナル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジャーナル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FILE	ジャーナル・ファイル識別	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: ジャーナルされた物理ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ジャーナルされた物理ファイル	名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: メンバー	名前, *ALL, *FIRST	
OBJ	オブジェクト	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	*FILE, *DTAARA	
	要素 3: データベース・ファイルの場合にメンバー	名前, *ALL, *FIRST	
RCVRNG	ジャーナル・レシーバーの範囲	単一値: *CURRENT, *LASTSAVE その他の値: 要素リスト	オプション, 定位置 3
	要素 1: 開始ジャーナル・レシーバー	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 開始ジャーナル・レシーバー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: 終了ジャーナル・レシーバー	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 終了ジャーナル・レシーバー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FROMENTLRG	大きい開始順序番号	文字値, *LAST, *LASTSAVE	オプション
TOENTLRG	大きい終了順序番号	文字値, *FIRST, *COMMITSTART	オプション
TOJOBO	完全に修飾されたジョブ名	修飾ジョブ名	オプション
	修飾子 1: 完全に修飾されたジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
CMTBDY	コミットメント境界	*YES, *NO	オプション
OPTION	オプション	*NONE, *IGNINQMSG	オプション
OBJERROPT	オブジェクト・エラー・オプション	*CONTINUE, *END	オプション
OUTPUT	出力	*NONE, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	
DETAIL	詳細	*ALL, *ERR	オプション
FROMENT	開始順序番号	1-9999999999, *LAST, *LASTSAVE	オプション
TOENT	終了順序番号	1-9999999999, *FIRST, *COMMITSTART	オプション

上

ジャーナル (JRN)

除去するジャーナル項目が入っているジャーナルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジャーナル

ジャーナル名

ジャーナルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

ジャーナル・ファイル識別 (FILE)

ジャーナル項目が除去される最大300の物理データベース・ファイルを指定します。ジャーナル処理された変更が除去される物理ファイル内のメンバーも指定することができます。

ジャーナル・ファイル識別 (FILE)パラメーターかオブジェクト (OBJ)パラメーターを指定する必要があります (両方は指定しないでください)。

要素1: ジャーナルされた物理ファイル

修飾子1: ジャーナルされた物理ファイル

***ALL** ジャーナル処理された変更は、指定したジャーナルに対して変更がジャーナル処理されている指定したライブラリーのすべての物理ファイルから除去されます。ライブラリー名を指定しなければなりません。*ALLが指定されていて、すべてのオブジェクトに対して必要な権限を持っていない場合には、エラー・メッセージが送られ、コマンドは終了します。

ファイル名

ジャーナル処理された変更が除去されるデータベース物理ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: メンバー

ジャーナル処理された変更が除去されるファイルのメンバーの名前を指定します。このパラメーターの最初の要素に*ALLを指定した場合には、ライブラリー中の適用可能なすべてのファイルにメンバー名に指定された値が使用されます。例えば、メンバー名として*FIRSTを指定した場合には、ジャーナル変更はライブラリー中の適用可能なすべてのファイルの最初のメンバーから除去されます。

***ALL** ジャーナル処理の変更は、ファイルのすべてのメンバーから除去されます。

***FIRST**

ジャーナル処理の変更は、ファイルの最初のメンバーから除去されます。

メンバー名

ジャーナル処理の変更が除去されるファイルのメンバーの名前を指定してください。

上

オブジェクト (OBJ)

ジャーナル項目が除去される最大300のオブジェクトを指定します。ジャーナル項目を除去するファイルのメンバー名を指定することもできます。

ジャーナル・ファイル識別 (FILE)パラメーターかオブジェクト (OBJ)パラメーターを指定する必要があります (両方は指定しないでください)。

要素1: オブジェクト

修飾子1: オブジェクト

***ALL** 指定のジャーナルにジャーナル処理される変更を持つ指定タイプの指定ライブラリーにあるすべてのオブジェクトでは、ジャーナル項目が除去されます。ライブラリー名を指定しなければなりません。*ALLが指定されていて、すべてのオブジェクトに対して必要な権限を持っていない場合には、エラー・メッセージが送られ、コマンドは終了します。

オブジェクト名

ジャーナル項目が除去されるオブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: オブジェクト・タイプ

ジャーナル項目が除去されるオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。

***FILE** データベース・ファイル・メンバーの項目が除去されます。

***DTAARA**

データ域の項目が除去されます。

要素3: データベース・ファイルの場合にメンバー

そのジャーナル項目が除去されるファイルのメンバーの名前を指定します。このパラメーターの最初の要素に*ALLを指定した場合には、ライブラリー中の適用可能なすべてのファイルにメンバー名に指定された値が使用されます。例えば、メンバー名として*FIRSTを指定した場合には、ジャーナル変更はライブラリー中の適用可能なすべてのファイルの最初のメンバーから除去されます。

注: 指定のオブジェクト・タイプが*FILEではない場合は、メンバー名要素値は無視されます。

***ALL** ジャーナル項目は、ファイルのすべてのメンバーから除去されます。

***FIRST**

ジャーナル項目は、ファイルの最初のメンバーから除去されます。

メンバー名

ジャーナル項目が除去されるファイルのメンバーの名前を指定してください。

上

ジャーナル・レシーバーの範囲 (RCVRNG)

ジャーナル処理された変更を除去する際に使用される開始および終了ジャーナル・レシーバーを指定します。システムは開始ジャーナル・レシーバー（最初の値で指定されている）を使用して除去操作を開始し、終了レシーバー（最後の値で指定されている）が処理されるまで、レシーバーの連鎖の中で操作を続行します。パラメーターに指定されている値は、ジャーナル・レシーバーを、それらがジャーナルに接続された順序とは逆の順序で表します。

注: レシーバーの範囲に含めることのできるレシーバーの最大数は1024です。指定された範囲の中に1024を超えるレシーバーが含まれている場合には、エラー・メッセージが送られ、変更は適用されません。このパラメーターに指定された値は、限界を超えないように変更することができます。

単一値

***CURRENT**

ジャーナル項目の除去を開始する時点で接続されているジャーナル・レシーバーが使用されます。

***LASTSAVE**

使用されるジャーナル・レシーバーの範囲は、記録された変更を除去するオブジェクトに関する情報を保管した結果として、システムによって決定されます。このパラメーター値が有効なのは、*LASTSAVEが開始順序番号 (FROMENT)パラメーターおよび大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)パラメーターにも指定されている場合だけです。

要素1: 開始ジャーナル・レシーバー

修飾子1: 開始ジャーナル・レシーバー

開始ジャーナル・レシーバー

ジャーナル処理された変更を除去する最初の（一番新しい）レシーバーとして使用されるジャーナル・レシーバーの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジャーナル・レシーバーを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーを指定します。

要素2: 終了ジャーナル・レシーバー

修飾子1: 終了ジャーナル・レシーバー

終了ジャーナル・レシーバー

ジャーナル処理された変更を除去する最後の（一番古い）レシーバーとして使用されるジャーナル・レシーバーの名前を指定してください。この名前のレシーバーが見つかる前にレシーバー連鎖の終わりに達した場合には、操作は終了します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジャーナル・レシーバーを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーを指定します。

上

大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)

ジャーナル処理されたファイル変更を除去するための開始点として使用するジャーナル項目を指定します。

注: 開始順序番号 (FROMENT)パラメーターか大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)パラメーターのいずれかに値を指定することができますが、両方には指定できません。

***LAST**

ジャーナル処理の変更は、指定されたレシーバー範囲の最後のジャーナル項目から開始して除去されることを指定します。

***LASTSAVE**

最終保管操作の前の最後のジャーナル項目からジャーナル項目が除去されます。システムは、このコマンドで指定されたオブジェクトのそれぞれに対して実際の開始位置を決定します。パラメーター値は、オブジェクトがシステムに復元されたことだけを示します。

復元されたオブジェクトのバージョンが活動中保管機能を使用して保管されたバージョンであった場合には、これが実際にオブジェクトの最後の保管であったかどうかとは無関係に、システムは、対応する保管の開始項目からの変更の除去を開始します。活動中保管を使用している場合には、ジャーナル処理された変更の除去に必要な情報がオブジェクトとともに保管され、復元されます。除去コマンドに指定されたすべてのオブジェクトが、活動中保管を使用した保管バージョンから復

元された場合には、システムはすべてのジャーナル・レシーバーをスキャンして、オブジェクトの保管点を見つける必要がなくなります。これによって、除去処理のパフォーマンスを向上させることができます。

復元されたオブジェクトのバージョンが使用中でない時に保管されたバージョン（通常保管）であった場合には、システムは、また、システムに復元されるオブジェクトの保管バージョンの日付および時刻が、ジャーナルで指示されているように、そのオブジェクトが最後に保管された日付および時刻と同じであるかどうかを検査します。

日付および時刻が一致しない場合には、項目は除去されずに、ユーザーまたはシステム操作員に照会メッセージが送られ、取り消しまたは無視の応答が要求されます。メッセージに対して無視で応答した場合には、操作が試行されます。取り消しの応答では操作が終了されることになり、ジャーナル項目は除去されません。

活動時保管機能でオブジェクトの最終保管を行った場合は、各オブジェクトの保管済みコピーには、ジャーナル項目のすべての変更（対応する保管の開始ジャーナル項目まで）が入っています。この場合には、システムは保管の開始項目が前にある最初のジャーナル項目で開始して、変更を除去します。

オブジェクトが使用中でない時に最終保管した場合（通常保管）には、各オブジェクトの保管済みコピーに、ジャーナル項目の対応するオブジェクト保管済みジャーナル項目までのすべての変更が含まれています。この場合には、システムはオブジェクト保管項目が前にある最初のジャーナル項目で開始して、変更を除去します。

注：保管コマンドのSAVACTWAITパラメーターの2番目の要素として*NOCMTBDYを指定して保管されたデータベース・ファイル・メンバーがあり、それが現在ジャーナル処理済み変更の適用が必要な状態である場合には、*LASTSAVEを指定しなければなりません。

開始順序番号

ジャーナル処理の変更が指定されたオブジェクトから除去される時に処理される最初のジャーナル項目の順序番号を指定します。受け入れ可能な範囲は1から18,446,744,073,709,551,600です。

上

大きい終了順序番号 (TOENTLRG)

ジャーナル処理された変更を除去するための終了点として使用するジャーナル項目を指定します。

注：終了順序番号 (TOENT)パラメーターか大きい終了順序番号 (TOENTLRG)パラメーターのいずれかに値を指定することができますが、両方には指定できません。

*FIRST

ジャーナル項目が、指定されたレシーバー範囲の最初の項目が処理されるまで除去されます。

*COMMITSTART

この値を指定するには、FROMENTLRG(*LASTSAVE)かFROMENT(*LASTSAVE)のいずれかをCMTBDY(*YES)と一緒に指定する必要があります。最後の保管ジャーナル項目から開始すると、部分トランザクションのジャーナル項目に対する変更だけが除去されて、コミット・トランザクションの先頭に戻ります。このオプションは、復元されたオブジェクトのバージョンが部分トランザクションによって保管されたバージョンであり、ジャーナル処理済み変更の適用(APYJRNCHG)が必要でない場合にのみ使用することができます。

終了順序番号

指定されたオブジェクトから除去される最後のジャーナル処理変更の順序番号を指定します。受け入れ可能な範囲は1から18,446,744,073,709,551,600です。

上

完全に修飾されたジョブ名 (TOJOB0)

指定するオブジェクトをオープンする時には、このコマンドによってジャーナル項目の除去を終了するジョブのジョブIDを指定します。例えば、指定したジョブはジョブがファイル・メンバーをオープンする時にエラーの原因と考えられる可能性もあります。指定のオブジェクトで見つかった最初のジョブ・オープン項目が、指定されたすべてのオブジェクトの終了点です。

このパラメーターは特定のジョブのジャーナル項目を除去するために使用することはできません。すべてのジョブのすべての項目が除去されます。

タイプ*FILEのオブジェクトだけに、ジョブ・オープンに関連したジャーナル項目があります。変更が除去されるオブジェクトが記録オープンおよびクローズ項目でない場合には、TOJOB0パラメーターを使用することはできません。詳細については、STRJRN、STRJRNPf、およびCHGJRNOBJコマンドのジャーナル項目除外(OMTJRNE)パラメーターを参照してください。

その他の値

ジョブID

ジョブ名、ユーザー名、および使用するジョブのジョブ番号を指定してください。ジョブ名だけまたはジョブ名とユーザー名を使用するように指定することもできます。

ジョブ名

ジョブのジョブ名を指定してください。

ユーザー名

ジョブのユーザー名を指定してください。

ジョブ番号

システム割り当てジョブ番号を指定してください。

上

コミットメント境界 (CMTBDY)

ジャーナル処理された変更が除去されることになるジャーナル項目がコミットメント制御の論理作業単位(LUW)の一部である時に、コミットメント境界が尊重されるかどうかを指定します。コミットメント制御の使用の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「データベース」カテゴリを参照してください。

注: このパラメーターの記述を目的として、TOENTLRG、TOENT、またはTOJOB0パラメーターのいずれが指定されても、それを記述するためにTOオプションが使用されます。

***YES** ジャーナル項目は、コミットメント境界を尊重して、FROMENTLRGまたはFROMENTパラメーターに指定されている項目からTOオプションで指示された項目に除去されます。FROMENTLRGまたはFROMENTパラメーターはコミットメント境界にある地点を識別しなければなりません。

- FROMENTLRGまたはFROMENTパラメーターに指定されているジャーナル項目が、それが関与するLUWの間にある場合には、エラー・メッセージが送られ、操作は試みられません。
- TOオプションで指示されたジャーナル項目がそのLUWの間にある場合には、そのジャーナル項目の前のコミットメント境界で操作が停止します。操作の終了時に診断メッセージが送られます。

注: TOオプションで指示された項目の前で操作が終了する原因となるジャーナル項目が見つかった場合には、コミットメント境界が尊重されていない可能性があります。

***NO** ジャーナル項目は、コミットメント境界に関係なく、FROMENTLRGまたはFROMENTパラメーターに指定されている項目からTOオプションで指示された項目に除去されます。この範囲内にあるジャーナル項目がLUWの構成要素であったとしても、操作は実行されます。

注: CMTBDY(*NO)が指定され、適用先のオブジェクトが部分トランザクションを含む保管バージョンから復元されていた場合には、それらの部分トランザクションに対する保留中の変更は、そのトランザクションが指定された範囲内で完了しなければ除去されません。オブジェクトが使用可能なのは、すべての保留中のトランザクションが指定された範囲内で完了した場合だけです。

上

オプション (OPTION)

ジャーナル変更を除去する前に追加の検査を実行する必要があるかどうかを指定します。

***NONE**

ジャーナル変更が除去される前に、すべての保護検査が実行されます。

***IGNINQMSG**

照会メッセージを無視します。適用されるオブジェクトがオブジェクトの最後の保管からのものではない場合であっても、照会メッセージCPA7050はユーザーに提供されません。除去操作は続行されます。

上

オブジェクト・エラー・オプション (OBJERROPT)

エラー状態が検出された場合に、ジャーナル項目の処理をどのように進める必要があるかを指定します。

***CONTINUE**

特定のオブジェクトのジャーナル項目を処理できないことが検出された場合には、そのオブジェクトのその他残りのジャーナル項目も処理されません。他のオブジェクトのジャーナル項目の処理は続行されます。そのオブジェクトのジャーナル処理済み変更の処理は正常に行われなかったことを示す診断メッセージが送られます。特定のオブジェクトについて処理が早期に終了したことを示す指示が、どの出力ファイル・レコードにも入れられます。

***END** 最初のジャーナル項目を処理できないことが検出された場合には、すべてのオブジェクトについて処理が終了します。

上

出力 (OUTPUT)

変更が除去される先のオブジェクトに関する情報のリストが作成されるかどうかを指定します。この情報はデータベース・ファイルに送ることができます。

*NONE

出力によるデータベース・ファイルは作成されません。処理の正常な完了に失敗した最初の512個のオブジェクトに関するメッセージがジョブ・ログに送られます。

*OUTFILE

除去操作に関する出力情報は、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

注: OUTPUT(*OUTFILE)が指定されている場合には、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターにデータベース・ファイル名を指定しなければなりません。

上

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

*OUTFILEが出力 (OUTPUT)パラメーターに指定されている場合に情報の送り先となるデータベース・ファイルを指定します。このファイルが存在しない場合には、このコマンドが指定したライブラリーにデータベース・ファイルを作成します。新規ファイルを作成する場合に、システムはモデルとしてQSYS内のQAJRNCHGを形式名QJOAPYRMで使用します。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

データベース・ファイル名

コマンドからの出力が指示されるデータベース・ファイルの名前を指定してください。このファイルが存在していない場合には、指定したライブラリーに作成されます。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、出力を指示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

*FIRST

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メン

バーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。 OUTMBR (メンバー名) が指定され、そのメンバーが存在しない場合、システムがメンバーを作成します。

メンバーが存在している場合には、レコードを既存メンバーの終わりに追加するか、既存メンバーを消去してレコードを追加することができます。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

***REPLACE**

指定したデータベース・ファイル・メンバー中に既存のレコードは、新規レコードで置き換えられます。

***ADD** 新規レコードが指定されたデータベース・ファイル・メンバーの既存情報に追加されます。

上

出力情報のタイプ (DETAIL)

スプール・ファイルに送られる情報のタイプを指定します。

***ALL** ファイルには、コマンドに関する情報と、コマンドに指定されたオブジェクトの選択と一致した各オブジェクトごとに1つの項目が入れます。

***ERR** ファイルには、コマンドに関する情報と、ジャーナル処理された変更の除去が早期に終了した各オブジェクトに関する項目のみが入れます。

上

開始順序番号 (FROMENT)

ジャーナル処理されたファイル変更を除去するための開始点として使用するジャーナル項目を指定します。

注: 開始順序番号 (FROMENT)パラメーターか大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)パラメーターのいずれかに値を指定することができますが、両方には指定できません。

***LAST**

ジャーナル処理の変更は、指定されたレシーバー範囲の最後のジャーナル項目から開始して除去されることを指定します。

***LASTSAVE**

最終保管操作の前の最後のジャーナル項目からジャーナル項目が除去されます。システムは、このコマンドで指定されたオブジェクトのそれぞれに対して実際の開始位置を決定します。パラメーター値は、オブジェクトがシステムに復元されたことだけを示します。

復元されたオブジェクトのバージョンが活動中保管機能を使用して保管されたバージョンであった場合には、これが実際にオブジェクトの最後の保管であったかどうかとは無関係に、システムは、対応する保管の開始項目からの変更の除去を開始します。活動中保管を使用している場合には、ジャーナル処理された変更の除去に必要な情報がオブジェクトとともに保管され、復元されます。除去コマンドに指定されたすべてのオブジェクトが、活動中保管を使用した保管バージョンから復

元された場合には、システムはすべてのジャーナル・レシーバーをスキャンして、オブジェクトの保管点を見つける必要がなくなります。これによって、除去処理のパフォーマンスを向上させることができます。

復元されたオブジェクトのバージョンが使用中でない時に保管されたバージョン（通常保管）であった場合には、システムは、また、システムに復元されるオブジェクトの保管バージョンの日付および時刻が、ジャーナルで指示されているように、そのオブジェクトが最後に保管された日付および時刻と同じであるかどうかを検査します。

日付および時刻が一致しない場合には、項目は除去されずに、ユーザーまたはシステム操作員に照会メッセージが送られ、取り消しまたは無視の応答が要求されます。メッセージに対して無視で応答した場合には、操作が試行されます。取り消しの応答では操作が終了されることになり、ジャーナル項目は除去されません。

活動時保管機能でオブジェクトの最終保管を行った場合は、各オブジェクトの保管済みコピーには、ジャーナル項目のすべての変更（対応する保管の開始ジャーナル項目まで）が入っています。この場合には、システムは保管の開始項目が前にある最初のジャーナル項目で開始して、変更を除去します。

オブジェクトが使用中でない時に最終保管した場合（通常保管）には、各オブジェクトの保管済みコピーに、ジャーナル項目の対応するオブジェクト保管済みジャーナル項目までのすべての変更が含まれています。この場合には、システムはオブジェクト保管項目が前にある最初のジャーナル項目で開始して、変更を除去します。

注：保管コマンドのSAVACTWAITパラメーターの2番目の要素として*NOCMTBDYを指定して保管されたデータベース・ファイル・メンバーがあり、それが現在ジャーナル処理済み変更の適用が必要な状態である場合には、*LASTSAVEを指定しなければなりません。

開始順序番号

ジャーナル処理の変更が指定されたオブジェクトから除去される時に処理される最初のジャーナル項目の順序番号を指定します。受け入れ可能な範囲は1から9,999,999,999です。

上

終了順序番号 (TOENT)

ジャーナル処理された変更を除去するための終了点として使用するジャーナル項目を指定します。

注：終了順序番号 (TOENT)パラメーターか大きい終了順序番号 (TOENTLRG)パラメーターのいずれかに値を指定することができますが、両方には指定できません。

*FIRST

ジャーナル項目が、指定されたレシーバー範囲の最初の項目が処理されるまで除去されます。

*COMMITSTART

この値を指定するには、FROMENTLRG(*LASTSAV)かFROMENT(*LASTSAV)のいずれかをCMTBDY(*YES)と一緒に指定する必要があります。最後の保管ジャーナル項目から開始すると、部分トランザクションのジャーナル項目に対する変更だけが除去されて、コミット・トランザクションの先頭に戻ります。このオプションは、復元されたオブジェクトのバージョンが部分トランザクションによって保管されたバージョンであり、ジャーナル処理済み変更の適用(APYJRNCHG)が必要でない場合にのみ使用することができます。

終了順序番号

指定されたオブジェクトから除去される最後のジャーナル処理変更の順序番号を指定します。受け入れ可能な範囲は1から9,999,999,999です。

上

例

```
RMVJRNCHG  JRN(JRNA)  FILE((LIB2/PAYROLL JAN))
            RCVRNG(RCV25 RCV22)  TOENT(*FIRST)
```

このコマンドによって、システムはレシーバーRCV25から始まってレシーバーRCV22で終わるジャーナル・レシーバー・チェーンに見つかったライブラリーLIB2のファイルPAYROLLのメンバーJANから、ジャーナルJRNAに見つかったすべてのジャーナル処理された変更を除去します。ジャーナルJRNAとレシーバーRCV25およびRCV22を検索するために、ライブラリー検索リスト*LIBLが使用されます。

除去操作は、レシーバー連鎖上で最後にジャーナル処理された変更で始まり、最初にジャーナル処理された項目で終わります。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF69A9

内部エラーが検出されました。エラー・コードは&2です。

CPF69AA

STG(*FREE)で保管されたオブジェクト&1を参照できない。

CPF69AB

RCVRNGパラメーターの値が正しくない。

CPF70A7

少なくとも1つのオブジェクトで適用または除去されなかった項目がある。

CPF70A8

ライブラリー&2のファイル&1は使用できない。

CPF70AA

FROMENT(*LASTSAVE)を指定する必要がある。

CPF70AB

ライブラリー&2のジャーナル・レシーバー&1が見つからない。

CPF70CC

ジャーナル項目&7を超えて操作を実行することはできない。

CPF70CD

ジャーナル項目&7を超えて操作を実行することはできない。

CPF70CE

ジャーナル項目&7を超えて操作を実行することはできない。

- CPF70EB**
メンバー&3で参照制約エラー。
- CPF70EC**
参照制約にエラー。理由コードは&9です。
- CPF70EE**
メンバー&3でエンコード・ベクトル・アクセス・パスの最大数。
- CPF7002**
ライブラリー&2のファイル&1が物理ファイルではない。
- CPF7003**
項目はジャーナル&1にジャーナル処理されなかった。理由コードは&3です。
- CPF7006**
メンバー&3が&2のファイル&1に見つからない。
- CPF7007**
&2のファイル&1のメンバー&3を割り振ることができない。
- CPF701B**
中断された操作のジャーナルの回復が行なわれなかった。
- CPF704A**
メンバー&3のレコード長が正しくない。
- CPF704F**
TOJOB0またはTOJOB0Cパラメーターはレシーバー範囲に正しくない。
- CPF7041**
ジョブ&3/&2/&1の項目が見つからない。
- CPF7042**
オブジェクトがジャーナル処理されていないか、あるいは別のジャーナルにジャーナル処理されている。
- CPF7044**
ジャーナル処理済み項目の適用または除去は正常に行なわれなかった。理由コードは&7です。
- CPF7045**
&2のジャーナル・レシーバー&1が部分的に損傷している。
- CPF7046**
メンバー&3に重複キーを使用することはできない。
- CPF7047**
&2のファイル&1のメンバー&3がいっぱいである。
- CPF7048**
メンバー&3へのジャーナル処理された変更を実行することができない。
- CPF7049**
ジャーナル項目&7を超えて操作を実行することはできない。
- CPF7051**
*&6オブジェクトの保管項目が見つかりませんでした。
- CPF7052**
メンバー&3の論理ファイルに選択／除外の障害がある。

CPF7053

RCVRNGパラメーターの値が正しくない。理由コードは&1です。

CPF7054

FROMとTOの値が正しくない。

CPF7056

オブジェクト&1は変更前イメージでジャーナル処理されていない。

CPF7057

*LIBLでは*ALL, *ALLLIB,または総称名は使用できません。

CPF7058

ジャーナル処理された項目の適用または除去操作が正常に行なわれなかった。

CPF705A

リモート・ジャーナルのために操作が正常に行なわれていない。

CPF7063

OUTFILEとしてファイル&1を使用することはできない。

CPF7067

FROMENTLRGまたはFROMENTオプションが正しくない。コミットの境界違反です。

CPF7068

適用または除去操作に必要な項目が見つからない。

CPF7069

ジャーナル&1を使用して適用または除去する項目がない。

CPF7077

メンバー&3でキー・マッピング・エラー。

CPF7078

メンバー&3の変更を適用または除去することはできない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

上

ジョブ・ウォッチャー定義の除去 (RMVJWDFN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・ウォッチャー定義の除去 (RMVJWDFN)コマンドは、1つ以上のジョブ監視定義をシステムから除去します。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、サービス(*SERVICE)特殊権限を持っているか、あるいはSystem i5ナビゲーターのアプリケーション管理サポートを介してオペレーティング・システムのジョブ監視機能に対する権限を与えられていなければなりません。機能IDにQIBM_SERVICE_JOB_WATCHERを指定した機能使用法の変更(CHGFCNUSG)コマンドを使用して、このコマンドの使用を許可されるユーザーのリストを変更することもできます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DFN	定義	総称名, 名前, *SELECT, *ALL	オプション

上

定義 (DFN)

除去するジョブ監視定義の名前を指定します。特定の定義名、総称定義名、または*ALLを指定することができます。

*SELECT

既存のジョブ監視定義のリストがユーザー選択用に表示されます。この値が有効となるのは、そのコマンドを対話式ジョブで実行する場合だけです。

***ALL** すべてのジョブ監視定義が除去されます。

名前 除去するジョブ監視定義の名前を指定してください。

総称名 除去するジョブ監視定義の総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (例えば, ABC*)です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが入っていない場合、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

上

例

例1:単一のジョブ監視定義を除去

```
RMVJWDFN  DFN(MYJWDFN)
```

このコマンドは、MYJWDFNという名前のメンバーをシステムから除去します。

例2:MYで始まるすべてのジョブ監視定義を除去

```
RMVJWDFN  DFN(MY*)
```

このコマンドは、名前がMYで始まるすべてのジョブ監視定義をシステムから除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF3203

&2のファイル&1のオブジェクトを割り振ることができない。

CPF3220

&2のファイル&1に対して操作を実行することはできない。

CPF7301

&3のファイル&2から&5個のメンバーが除去されなかった。

CPF7310

メンバー&1は&3のファイル&2から除去されませんでした。

CPF518

ユーザーに必要権限がありません。

CPF51B

コマンドが対話式に実行されている場合には、オプション*SELECTだけが有効である。

上

Kerberosキータブ項目の除去 (RMVKRBKTE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

Kerberos keytab項目の除去(RMVKRBKTE)コマンドは、指定されたプリンシパル名のkeytabファイルから項目を除去するために使用されます。プリンシパル名はユーザー名またはサービス名、およびそのユーザーまたはサービスが属するレルムの名前で構成されます。プリンシパル名とバージョン番号が既存のkeytab項目と一致しない場合、この項目は除去されます。

制約事項:

ネットワーク認証サービスのコマンドおよびAPIは、大部分のEBCDIC CCSIDのジョブ環境に対応していません。CCSID 290および5026については、小文字aからzが一致しないため、サポートされません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PRINCIPAL	プリンシパル	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: 名前	文字値	
	要素 2: レルム	文字値, <u>*DFT</u>	
KEYTABFILE	キータブ・ファイル	パス名, <u>*DFT</u>	オプション

上

プリンシパル (PRINCIPAL)

Kerberosネットワークにおけるホスト名のユーザーまたはサービス・プリンシパルのプリンシパル名を指定します。keytabファイルのプリンシパルと鍵のペアを使用すると、ホスト上で実行するサービスが鍵配布センター(KDC)で認証されるようにすることができます。この場合、Kerberosレルム内のすべてのユーザーおよびサービスのデータベースを保守するKerberosサーバーにすべてのプリンシパルが追加されます。

これは必須パラメーターです。

要素1: 名前

指定されたホスト名のプリンシパル名またはサービス・プリンシパルを指定します。

文字値 Kerberosプリンシパルのユーザー名を指定します。

Kerberosプリンシパルの最小長は1文字、最大長は256文字です。有効文字には大／小文字の区別があり、すべての英数字(a-z, A-Z, 0-9)および印刷可能なASCII文字が含まれます。プリンシパル名の形式は、Kerberos 5 GSS-APIメカニズム(RFC 1964)から引き出されたものです。

使用できる特殊文字は次のとおりです。

/-名前の構成要素を区切ります。

要素2: レルム

Kerberosユーザーが登録されていて、初期の認証が行われたレルムを指定します。

***DFT** ローカル・システムの省略時のレルムが使用されます。通常、省略時のレルムとそのレルムのKDCは、Kerberos `krb5.conf`構成ファイルに示されます。省略時のレルムが設定されていない場合は、Kerberos構成ファイルの `libdefaults?`セクションにある`default_realm`項目から取得されます。

文字値 このパラメーターの最初の要素に指定されたユーザーが登録されているKerberosレルムの名前を指定します。

この名前の最小長は1文字、最大長は256文字です。有効文字には大/小文字の区別があり、すべての英数字(a-z, A-Z, 0-9)および印刷可能なASCII文字が含まれます。プリンシパル名の形式は、Kerberos 5 GSS-APIメカニズム(RFC 1964)から引き出されたものです。

使用できる特殊文字は次のとおりです。

@-レルムを開始します。

上

キータブ・ファイル (KEYTABFILE)

プリンシパルのグループとそのキーが格納されているKerberos keytabファイルを指定します。

***DFT** 現行ユーザーの省略時のkeytabファイルが使用されます。KRB5_KTNAME環境変数が設定されている場合は、これが省略時のkeytabファイルの名前になります。そうでない場合、keytabファイル名はKerberos構成ファイルの `libdefaults?`セクションにある`default_keytab_name`項目から取得されます。この項目が定義されていない場合、省略時のkeytabファイル名は/QIBM/UserData/OS400/NetworkAuthentication/keytab/krb5.keytabとなります。

パス名 使用するKerberos keytabファイルが入ったストリーム・ファイルのパス名を指定します。

上

例

例1:単一のkeytab項目の除去

```
RMVCRBKTE PRINCIPAL(krbsvr400/my.gmyco.com *DFT)
          VERSION(1) KEYTABFILE(*DFT)
```

このコマンドは、省略時のkeytabファイルに格納されているプリンシパルmy.gmyco.comのバージョン番号1のkeytab項目を除去します。

例2:すべてのkeytab項目の除去

```
RMVCRBKTE PRINCIPAL(krbsvr400/my.gmyco.com *DFT)
          VERSION(*ALL) KEYTABFILE(*DFT)
```

このコマンドは、省略時のkeytabファイルに格納されているプリンシパルmy.gmyco.comのすべての項目を除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPFC601

省略時のキータブ・ファイルが見つかりません。

CPFC602

キータブ・ファイル&3が見つかりません。

CPFC603

キータブ項目&2が見つかりません。

CPFC604

キータブ・ファイル&2の項目&1を除去できません。

CPFC607

&2のキー・バージョン&1が見つかりません。

CPFC61B

プリンシパル名&3を解析できません。

上

LANアダプター情報の除去 (RMVLANADPI)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ローカル・エリア・ネットワーク・アダプター情報除去(RMVLANADPI)コマンドは、アダプター・ファイルからアダプター名項目を除去します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
ADPTNAME	アダプター	名前, *ADPTADR	必須, 定位置 1
ADPTADR	アダプター アドレス	000000000001-7FFFFFFF	オプション

上

アダプター (ADPTNAME)

アダプター・ファイルから除去する項目の名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*ADPTADR

除去するアダプター項目を識別するためにアダプター・アドレスが使用されます。

アダプター名

除去するアダプター項目の名前を指定してください。

これは必須パラメーターです。

上

アダプターアドレス (ADPTADR)

12文字の16進数アダプター・アドレスを指定します。

上

例

```
RMVLANADPI ADPTNAME(PAYROLL)
```

このコマンドは、アダプターPAYROLLをアダプター・ファイルから除去します。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8B43

ネットワーク・アダプター・ファイルからのアダプター&29の除去要求が正常に実行されなかった。アダプターが見つかりません。

CPF8B44

アダプター・アドレスが必要である。

CPF8B62

回線&23のアダプター&29の除去が正常に実行されなかった。ネットワーク・アダプター・ファイルにアダプターが見つかりません。

CPF8B68

回線記述&23が見つからない。

CPF8B74

活動アダプターの表示要求が正常に実行されなかった。

CPF8B75

ネットワーク・アダプター・ファイルにアダプター項目がない。

CPF8B76

アダプターの機能アドレスがない。

LANアダプターの除去 (RMVLANADPT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ローカル・エリア・ネットワーク・アダプター除去(RMVLANADPT)コマンドは、オンに構成変更された回線記述から、活動状態のローカル・エリア・ネットワーク(LAN) アダプターを除去します。

制約事項:

1. このコマンドを使用できるのは、QSECOFR権限を持つユーザーだけです。
2. このコマンドが有効なのは、QSECOFR権限を持つ、制御モードにあるLAN管理機能の場合だけです。

注: LAN管理機能のモード（制御または監視）は、回線記述の作成（トークンリング・ネットワーク）(CRTLINTRN)または回線記述の変更（トークンリング・ネットワーク）(CHGLINTRN)コマンドを使用して回線を作成または変更する時に、TRNMGRMODEパラメーターで設定されます。

注意: このコマンドを使用して活動アダプターを除去すると、ワークステーションや他のシステムなど接続されているプロダクトとの通信が失われます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LINE	回線記述	名前	必須, 定位置 1
ADPTNAME	アダプター	名前, *ADPTADR	必須, 定位置 2
ADPTADR	アダプター アドレス	16 進値	オプション

上

回線記述 (LINE)

除去するアダプターに接続された回線記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

アダプター (ADPTNAME)

除去するアダプターの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*ADPTADR

アダプターを識別するために、アダプター・アドレスが使用されます。

アダプター名

除去するアダプターの名前を指定してください。

これは必須パラメーターです。

上

アダプターアドレス (ADPTADR)

12文字の16進数アダプター・アドレスを指定します。

上

例

```
RMVLANADPT  LINE(CHGBRANCH) ADPTNAME(*ADPTADR)
              ADPTADR(000000001BFF)
```

このコマンドは、000000001BFFというアドレスのアダプターを回線記述CHGBRANCHから除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8B44

アダプター・アドレスが必要である。

CPF8B47

回線&23でアダプター&29の除去要求が正常に実行されなかった。

CPF8B49

回線&23でネットワーク・アダプター&29を除去することができない。

CPF8B50

回線&23でアダプター&29を除去することができない。

CPF8B68

回線記述&23が見つからない。

CPF8B70

ネットワーク回線記述&23はオンに構成変更されなかった。

CPF8B74

活動アダプターの表示要求が正常に実行されなかった。

CPF8B75

ネットワーク・アダプター・ファイルにアダプター項目がない。

CPF8B76

アダプターの機能アドレスがない。

ライブラリー・リスト項目除去 (RMVLIBLE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライブラリー・リスト項目除去(RMVLIBLE)コマンドは、ライブラリーを現行スレッドのライブラリー・リストのユーザー部分から除去します。ユーザー部分は、ライブラリー・リストの最後の部分です。これは、システム部分の後に続き、プロダクト・ライブラリーおよび現行ライブラリー項目が存在すればその後に続きます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIB	ライブラリー	名前	必須、定位置 1

上

ライブラリー (LIB)

現行スレッドのライブラリー・リストのユーザー部分から除去されるライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 現行スレッドのライブラリー・リストのユーザー部分から除去されるライブラリーの名前を指定してください。

上

例

RMVLIBLE LIB(TESTLIB)

このコマンドは、ライブラリーTESTLIBをライブラリー・リストのユーザー部分から除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2103

ライブラリー&1はすでにライブラリー・リストに存在している。

CPF2104

ライブラリー&1はライブラリー・リストから除去されない。

CPF2106

ライブラリー・リストが使用可能でない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2118

ライブラリー&1は追加されなかった。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

上

ライセンス・キー情報の除去 (RMVLICKEY)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライセンス・キー情報の除去(RMVLICKEY)コマンドは、キーによる承諾付きのプロダクトのライセンス・リポジトリからソフトウェア・ライセンス・キー情報を除去するために使用することができます。「キーによる承諾」付きのプロダクトでは、ユーザーはライセンス情報の使用限界または満了日を変更するために、ソフトウェア販売会社からのソフトウェア・ライセンス・キーを持っている必要があります。

リポジトリからライセンス情報を除去しても、導入されたライセンスには影響がありません。このシステムで現在プロダクトのアクセスに使用されているライセンスは有効であり使用可能です。

制約事項:このコマンドは*EXCLUDE権限を共通権限として出荷されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LICKEYINP	ライセンス・キー入力	*LICKEYFILE, *PROMPT	オプション, 定位置 1
PRDID	プロダクト識別コード	文字値, *ALL	オプション, 定位置 2
LICTRM	ライセンス条件	文字値, *ALL	オプション, 定位置 3
FEATURE	機能	文字値, *ALL	オプション, 定位置 4
SERIAL	システム製造番号	文字値, *LOCAL, *REMOTE, *ALL	オプション
LICKEYFILE	ライセンス・キー・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ライセンス・キー・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
LICKEYMBR	ライセンス・キー・メンバー	名前, *FIRST, *LAST	オプション

上

ライセンス・キー入力 (LICKEYINP)

除去するソフトウェア・ライセンス・キー情報の指定方法を指定します。

*LICKEYFILE

ソフトウェア・ライセンス・キー情報は、LICKEYFILEパラメーターで指定されたファイルから取り出されます。

*PROMPT

ソフトウェア・ライセンス・キー情報はプロンプトによって指定されます。

上

プロダクト識別コード (PRDID)

ソフトウェア・ライセンス・キー情報を除去するプロダクトの7桁のIDを指定します。

***ALL** すべてのプロダクトIDのソフトウェア・ライセンス・キー情報が除去されます。

総称プロダクトID*

除去するプロダクトの総称IDを指定してください。総称プロダクトIDは、総称名と同じように指定されます。

総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（たとえば、ABC*など）です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが入っていないければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

プロダクトID

プロダクトの7桁のIDを指定してください。

上

ライセンス条件 (LICTRM)

ソフトウェア・ライセンス・キー情報を除去するライセンス条件を指定します。

***ALL** システムで見つかったすべてのライセンス条件のソフトウェア・ライセンス・キー情報が除去されます。

ライセンス条件

ライセンス条件をVX, VXRY,またはVXRYMZの形式で指定してください。この場合に、XまたはYは0から9の数字、Zは0から9の数字またはAからZの文字とすることができます。

上

機能 (FEATURE)

ソフトウェア・ライセンス・キー情報を除去するPRDIDパラメーターで指定したプロダクトの機能を指定します。

***ALL** プロダクトのすべての機能のソフトウェア・ライセンス・キー情報が除去されます。

機能 ソフトウェア・ライセンス・キー情報を除去する機能の番号を指定してください。

上

システム製造番号 (SERIAL)

ソフトウェア・ライセンス・キー情報を除去するシステムの製造番号を指定してください。

***LOCAL**

ローカル・システムのソフトウェア・ライセンス・キー情報が除去されます。

***REMOTE**

除去されるソフトウェア・ライセンス・キー情報はリモート・システムの用のものだけで、**ライセンス・キー入力(LICKEYINP)**パラメーターに指定された値によって異なります。

- LICKEYINP(*PROMPT)が指定された場合には、すべてのリモート・システムのソフトウェア・ライセンス・キー情報が除去されます。
- LICKEYINP(*LICKEYFILE)が指定された場合には、LICKEYFILEパラメーターに指定されたファイル内に命名されたリモート・システムのソフトウェア・ライセンス・キー情報が除去されます。

***ALL** 除去されるソフトウェア・ライセンス・キー情報はすべてのシステム用のもので、LICKEYINPパラメーターに指定された値によって異なります。

- LICKEYINP(*PROMPT)が指定された場合には、すべてのシステムのソフトウェア・ライセンス・キー情報が除去されます。
- LICKEYINP(*LICKEYFILE)が指定された場合には、LICKEYFILEパラメーターに指定されたファイル内に命名されたすべてのリモート・システムのソフトウェア・ライセンス・キー情報が除去されます。

システム製造番号

ソフトウェア・ライセンス・キー情報を除去するシステムの製造番号を指定してください。

上

ライセンス・キー・ファイル (LICKEYFILE)

除去するソフトウェア・ライセンス・キー情報が入っているファイルの修飾名を指定します。この入力ファイルは、QSYS/QALZAKEYの形式でなければならず、ライセンス・キー情報表示(DSP LICKEY)コマンドのLICKEYFILEパラメーターを使用して作成することができます。

ライセンス・キー・ファイルの名前は、次のライブラリーの値の1つで修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は次の通りです。

ライセンス・キー・ファイル

ソフトウェア・ライセンス・キー情報が入っているファイルの名前を指定してください。

上

ライセンス・キー・メンバー (LICKEYMBR)

除去するソフトウェア・ライセンス・キー情報が入っているメンバーの名前を指定します。このメンバーは、LICKEYFILEパラメーターで指定したファイルに入っています。

*FIRST

ファイルの一番古いメンバーが使用されます。

*LAST

ファイルの一番新しいメンバーが使用されます。

ライセンス・キー・メンバー

ソフトウェア・ライセンス・キー情報が入っているメンバーの名前を指定してください。

上

例

例1:プロンプト入力からのライセンス・キー情報の除去

```
RMVLICKEY LICKEYINP(*PROMPT) PRDID(1MYPROD)
           LICTRM(V3) FEATURE(5001)
           SERIAL(1234567)
```

このコマンドは、製造番号1234567のシステムのプロダクト1MYPROD、ライセンス条件V3、および機能5001のソフトウェア・ライセンス・キー情報をライセンス・リポジトリから除去します。

例2:ファイル入力からのライセンス・キー情報の除去

```
RMVLICKEY LICKEYINP(*LICKEYFILE) SERIAL(*REMOTE)
           LICKEYFILE(*LIBL/MYKEYFILE) LICKEYMBR(*LAST)
```

このコマンドは、ファイルMYKEYFILE中の最も新しく作成されたメンバーで見つかったすべてのリモート・システムのソフトウェア・ライセンス・キー情報をライセンス・リポジトリから除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9E55

ライセンス・リポジトリ・オブジェクトに損傷がある。

CPF9E57

&1ライセンス・キー情報レコードは除去され、&2は除去されなかった。

CPF9E58

ライセンス・キー情報が見つからなかった。

CPF9E69

ライセンス・キー情報がライセンス・キー・ファイルに見つからなかった。

上

リンクの除去 (RMVLNK)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

リンクの除去 (RMVLNK) コマンドは、指定されたオブジェクトへのリンクを除去します。これがオブジェクトへの唯一のハード・リンクであった場合には、それが使用されなくなった時にオブジェクトが除去されます。オブジェクトへのシンボリック・リンクが存在していた場合であっても、オブジェクトは除去することができます。シンボリック・リンクは、それが除去されるまで残されます。

このコマンドは、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- DEL
- ERASE

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「統合ファイル・システム」トピック・コレクションを参照してください。

制約事項:

- "ルート" (/), QOPENSYS, およびユーザー定義ファイル・システムでは、オブジェクトが入っているディレクトリーに対する書き込み、実行(*WX)権限が必要です。ハード・リンクをリンク解除する場合には、オブジェクトに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限も必要です。
- QDLSファイル・システムでは、オブジェクトに対する全(*ALL)権限と親ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- パス内の各ディレクトリーに対する*X権限が必要です。
- その他のファイル・システムの権限要件については、System i機密保護解説書(SD88-5027)を参照してください。
- 次の1つ以上が真でない場合には、「制限された名前変更およびリンク解除」属性（この属性はS_ISVTXモード・ビットと同じ）がオンに設定されている"ルート" (/), QOPENSYS, またはユーザー定義ファイル・システム内のオブジェクトをリンク解除することはできません。
 - ユーザーがオブジェクトの所有者である。
 - ユーザーがディレクトリーの所有者である。
 - ユーザーが全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持っている。
- ディレクトリーをリンク解除することはできません。
- ファイルがSQLテーブルのDATALINK列で、そのSQLテーブルの行がこのファイルを参照している場合には、ファイルへのリンクを除去することはできません。
- 上にリストされた制約事項は、タイプが*DDIR, *DSTMF, *SOCKET, *STMF, および*SYMLNKのI5/OSオブジェクトに対するものです。

QSYS.LIBと独立ASP QSYS.LIBファイル・システムの相違点

- このコマンドをこれらのファイル・システム内にあるオブジェクトのリンクを除去するために使用する場合には、追加の制約事項が適用される場合があります。それらの制約事項を識別するには、除去するオブジェクトの削除コマンドを参照してください。一般に、このコマンドの名前はI5/OSオブジェクト・タイプの値を使用し、そこから文字*を除去して、先頭に動詞DLTを追加して形成されます。例えば、オ

オブジェクト・タイプの値が*LRTBLのアラート・テーブルを削除するには、警報テーブルの削除 (DLTALRTBL)コマンドの追加の制約事項を参照してください。

ただし、この規則には例外があります。例えば、オブジェクト・タイプの値が*MODULEのコンパイラ単体を削除するには、モジュールの削除 (DLTMOD)コマンドの追加の制約事項を参照してください。

オブジェクト・タイプについては、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションを参照してください。

- これらのファイル・システムでは、リンクの除去 (RMVLNKまたは別名DEL あるいはERASE)コマンドを使用して、ライブラリーおよびデータベース・ファイルを削除することはできません。しかし、これらのオブジェクトは、ディレクトリーの除去 (RMVDIRまたは別名RMDIRあるいはRD)コマンドを使用して削除することができます。
- 次のオブジェクト・タイプは、別のコマンドを使用して削除することはできません。*EXITRG, *IGCSRT, *JOBSCD, *PRDAVL, *QRYDFN, *RCT。

QDLSファイル・システムの相違点

- このコマンドをこのファイル・システム内にあるオブジェクトのリンクを除去するために使用する場合には、追加の制約事項が適用される場合があります。これらの制約事項を識別するには、文書ライブラリー・オブジェクトの削除(DLTDLO)コマンドの説明を参照してください。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
OBJLNK	オブジェクト・リンク	パス名	必須, 定位置 1

上

オブジェクト・リンク (OBJLNK)

リンク解除するオブジェクトのパス名を指定します。名前パターンによって、複数のリンクを除去することができます。

オブジェクト・パス名は、単純名、またはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前とすることができます。パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンを含んでいる場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの名規則」を参照してください。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

上

例

例1:オブジェクト・リンクの除去

```
RMVLNK OBJLNK('PAY')
```

このコマンドは、PAYという名前のリンクを除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA093

パターンに一致する名前が見つからなかった。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

CPFA0B1

要求された操作は使用できない。アクセスの問題です。

CPFA0B2

要求を満たすオブジェクトはない。

CPFA0BD

&1リンクは除去された。&2リンクは正常に実行されなかった。

上

メンバー除去 (RMVM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メンバー除去(RMVM)コマンドは、指定された物理ファイルまたは論理ファイルから1つまたは複数のメンバーを除去します。物理ファイルからメンバーが除去される場合には、メンバーとメンバー・データの両方がシステムから削除されます。論理ファイルからメンバーが除去される場合には、そのメンバーと物理ファイル・メンバーのデータに対するアクセス・パスがシステムから削除されます。

制約事項:

- 別のファイルのメンバーが削除しようとするメンバーのデータを共有している場合には、最初にその従属メンバーを除去しなければなりません。
- 1つまたは複数のメンバーが入っているファイルのオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限が必要です。
- このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。マルチスレッド・ジョブでは、このコマンドは、SYSTEM(*RMT)またはSYSTEM(*FILETYPE)が指定されている場合には、タイプ*SNAの分散データ管理機能(DDM)ファイルにはスレッド・セーフではありません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FILE	データベース・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: データベース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	総称名, 名前, *ALL	必須, 定位置 2

上

データベース・ファイル (FILE)

除去する1つ以上のメンバーが入っている物理ファイルまたは論理ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: データベース・ファイル

名前 データベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ファイルのあるライブラリーを指定します。

上

メンバー (MBR)

除去する1つまたは複数のファイル・メンバーを指定します。

これは必須パラメーターです。

***ALL** 指定されたファイルからすべてのメンバーが除去されます。

総称名 ファイルから除去するメンバーの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称メンバー名を指定した場合には、総称メンバー名と同じ接頭部の名前をもつ指定ファイル内のすべてのメンバーが除去されます。

名前 ファイルから除去するメンバーの名前を指定してください。

上

例

例1: ファイル・メンバーの除去

```
RMVM FILE(JOBHIST1) MBR(JOBHIST1A)
```

このコマンドは、ファイルJOBHIST1からファイル・メンバーJOBHIST1A を除去します。このファイルおよびメンバーの検索には、ライブラリー・リスト*LIBLが使用されます。JOBHIST1に他のメンバーが入っている場合には、それらは変更されないで残されます。

例2: 名前がSRCで始まるメンバーの除去

```
RMVM FILE(QGPL/JOBHISTL) MBR(SRC*)
```

このコマンドは、ライブラリーQGPLのファイルJOBHISTLからSRCで始まる名前を持つすべてのファイル・メンバーを除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF32CF

分散ファイル・エラー。理由コードは&3です。

CPF32C3

分散ファイル・エラー、レベルIDが一致していない。

CPF320A

メンバー&3を除去することはできない。

CPF320B

データベース・ファイル&1に対して操作が正しくない。

CPF3203

&2のファイル&1のオブジェクトを割り振ることができない。

CPF3220

&2のファイル&1に対して操作を実行することはできない。

CPF3273

ファイルまたはメンバーは、作成、削除または変更されなかった。

CPF7301

&3のファイル&2から&5個のメンバーが除去されなかった。

CPF7310

メンバー&1は&3のファイル&2から除去されませんでした。

上

マウントFSの除去 (RMVMFS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

マウント・ファイル・システム除去(RMVMFS)コマンドは前にマウントしたファイル・システムをファイル・システム名空間内でアクセスできないようにします。アクセス不能にするファイル・システムは、ローカル・システムのユーザー定義ファイル(*UDFS)またはネットワーク・ファイル・システム・サーバー(*NFS)を介してアクセスされるリモート・ファイル・システムのいずれかとすることができます。ファイル・システム内のオブジェクトが使用中である場合には、このコマンドはユーザーにエラー・メッセージを戻します。ファイル・システムのいずれかの部分それ自体がマウントされている場合には、それがアンマウントされるまで、このファイル・システムをアンマウントすることができないことに注意してください。

このコマンドは、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- UNMOUNT

ネットワーク・ファイル・システム・コマンドの詳細については、i5/OS Network File System Support Book (SC41-5714)を参照してください。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、入出力(I/O)システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
TYPE	ファイル・システムのタイプ	*NFS, *UDFS, *ALL	必須, 定位置 1
MNTOVRDIR	マウントされたディレクトリー	パス名, *ALL	オプション
MFS	マウント・ファイル・システム	パス名	オプション

上

ファイル・システムのタイプ (TYPE)

アンマウントするファイル・システムのタイプを指定します。

***NFS** アンマウントするファイル・システムは、ネットワーク・ファイル・システムです。*NFSが指定されている場合には、マウントされたディレクトリー (MNTOVRDIR)パラメーターにディレクトリーを指定しなければなりません。

*UDFS

アンマウントするファイル・システムは、ユーザー定義ファイル・システムです。*UDFSが指定されている場合には、MNTOVRDIRまたはマウント・ファイル・システム (MFS)パラメーターのいずれかを指定することができます。

ALL** すべてのタイプのファイル・システムをアンマウントします。ALL**が指定されている場合には、MNTOVRDIRパラメーターに値を指定しなければならず、その値は***ALL**とすることができます。

これは必須パラメーターです。

上

マウントされたディレクトリー (MNTOVRDIR)

前のADDMFS (マウント・ファイル・システム追加) コマンドまたはMOUNTコマンドによってマウントされた(カバーされた)ディレクトリーのパス名を指定します。

’ディレクトリー・パス名’

前にマウントした指定のディレクトリーはカバーが解除されます。TYPE(***ALL**)が指定された場合には、指定のディレクトリー上にマウントされたすべてのファイル・システムがアンマウントされます。ファイル・システムのタイプ (TYPE)パラメーターに特定のファイル・システム・タイプが指定されている場合には、指定されたディレクトリーに最後にマウントされたファイル・システムがアンマウントされるのは、タイプが指定されたTYPE値と一致した場合だけです。

ALL** 前にマウントされたすべてのディレクトリーのカバーが解除されます。ALL**が指定されている場合には、TYPEパラメーターに***ALL**を指定しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

上

マウント・ファイル・システム (MFS)

アンマウントするファイル・システムのパス名を指定します。このパラメーターを使用できるのは、ファイル・システムのタイプ (TYPE)パラメーターに***UDFS**が指定されているときに、ブロック特殊ファイル (***BLKSF**)をアンマウントするときだけです。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

上

例

例1:ディレクトリーのアンマウント

```
RMVMFS TYPE (*NFS) MNTOVRDIR('/TOOLS')
```

このコマンドは、ディレクトリー/**TOOLS**でアクセス可能なネットワーク・ファイル・システムをアンマウントします。

例2:ユーザー定義ファイル・システムのアンマウント

```
RMVMFS TYPE(*UDFS) MFS('/DEV/QASP02/CUST1UDFS')
```

このコマンドは、ユーザー定義ファイル・システム/**DEV/QASP02/CUSTUDFS**をアンマウントします。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA1B8

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

上

メッセージ除去 (RMVMSG)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ
 リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
 スレッド・セーフ: はい

パラメーター
 例
 エラー・メッセージ

メッセージ除去(RMVMSG)コマンドは、指定されたメッセージ待ち行列から指定されたメッセージまたは1グループのメッセージを除去するためにプログラムによって使用されます。未応答の照会メッセージが除去される場合には、それが除去される前に省略時の応答が送られます。このコマンドが出されたジョブに、指定されたメッセージ待ち行列が割り振られておらず、他のジョブにもメッセージ待ち行列が割り振られていない場合には、このコマンドの実行中このコマンドによってメッセージ待ち行列が暗黙に割り振られます。

制約事項:

1. メッセージをメッセージ待ち行列から除去するには、その待ち行列に対する変更(*CHANGE)権限、およびその待ち行列が入っているライブラリーに対する使用(*USE)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
PGMQ	呼出スタック項目メッセージ待ち行列	単一値: *ALLINACT, *EXT その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 関係	*SAME, *PRV	
	要素 2: 呼出スタック項目識別コード	要素リスト	
	要素 1: 呼び出しスタック項目	文字値, *	
	要素 2: モジュール	名前, *NONE	
	要素 3: バインド済みプログラム	名前, *NONE	
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: *PGMQ その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MSGKEY	メッセージ・キー	文字値	オプション
CLEAR	消去	*BYKEY, *ALL, *KEEPUNANS, *OLD, *NEW	オプション
RMVEXCP	未処理例外の除去	*YES, *NO	オプション
RJTDFTRPY	省略時応答の拒否	*NOALWRJT, *ALWRJT	オプション

上

呼出スタック項目メッセージ待行列 (PGMQ)

メッセージが除去される呼び出しメッセージ待ち行列を指定します。メッセージは、外部待ち行列(*EXT)、または呼び出しスタック項目と関連したメッセージ待ち行列から除去されます。

注:

1. CLEAR(*BYKEY)が指定されている場合には、PGMQパラメーターは無視されます。
2. このパラメーターに値が指定されている場合には、MSG 待ち行列 (MSGQ)パラメーターに値を指定することはできません。

単一値

*ALLINACT

非活動の呼び出しスタック項目のすべてのメッセージが、ユーザーのジョブ・メッセージ待ち行列から除去されます。この値を指定した場合には、消去 (CLEAR)パラメーターに*ALLを指定しなければなりません。

*EXT メッセージは、ジョブの外部メッセージ待ち行列から除去されます。

要素1: 関係

2つのパラメーター要素が、メッセージが除去される呼び出しスタック項目メッセージ待ち行列を指定するために使用されます。最初の要素は、メッセージ待ち行列が2番目の要素によって識別されるプログラムまたはプロシージャと関連付けられるか、あるいはプログラムまたはプロシージャの呼び出し側と関連付けられるかを指定します。

*SAME

メッセージは、このパラメーターの2番目の要素によって識別されるプログラムまたはプロシージャのメッセージ待ち行列から除去されます。

*PRV メッセージは、このパラメーターの2番目の要素によって識別されるプログラムまたはプロシージャを呼び出したプログラムまたはプロシージャのメッセージ待ち行列から除去されます。

注: 2番目の値によって識別されるものより前のメッセージ待ち行列がILEプログラム入りロプロシージャ(PEP)用のものである場合には、メッセージはPEPメッセージ待ち行列の直前のメッセージ待ち行列から除去されます。これは、実際にはプログラムまたは修飾プロシージャによって識別されるものの前の2つのメッセージ待ち行列となります。

要素2: 呼出スタック項目識別コード

このパラメーターの2番目の要素には3個の要素があります。要素1はOPMプログラム名、ILEプロシージャ名、または特殊値を指定します。要素2は、要素1に指定された値の修飾子として使用されるILEモジュール名を指定します。要素3は、要素1に指定されたものに応じて、OPMプログラム名、ILEプログラム名、あるいはサービス・プログラム名のいずれかを指定することができます。要素3は要素1に指定されたものの修飾子としても使用されます。

要素1: 呼び出しスタック項目

* このコマンドを実行するOPMプログラムまたはILEプロシージャを指定します。

名前 呼び出しスタック項目の識別に使用されるOPMプログラムまたはILEプロシージャの名前を指定してください。

この要素がOPMプログラムを識別する場合には、最大10文字の名前を指定することができます。この要素がILEプロシージャを識別する場合には、最大256文字の名前を指定することができます。

各プロシージャ名をコロン(:)で区切って、ネストされたプロシージャ名を指定することができます。ネストされたプロシージャ名を指定する時には、まず一番外側のプロシージャ名を識別し、続いてその中に含まれるプロシージャを識別します。一番内側のプロシージャ名は、ストリング中で最後に識別します。

名前の先頭に3個のより小記号(<<<)を置くか、あるいは名前の終わりに3個のより大記号(>>>)を置くことによって、プログラムまたはプロシージャの部分名を指定することができます。より大記号とより小記号の両方を使用する場合には、プログラムは、指定するプログラム名またはプロシージャ名を250文字に制限します。

システムは、指定されたプログラム名またはプロシージャ名の中から、最後に呼び出されたプログラムまたはプロシージャを検索します。

部分プログラム名または部分プロシージャ名を検索する場合：

- プログラム名またはプロシージャ名の最初にだけ指定されたより小(<<<)記号は切り捨てられ、残りの文字ストリングが右寄せにされます。指定されたストリングの残りの文字が呼び出しスタック上の現行のプログラムまたはプロシージャと比較されます。比較はプログラム名またはプロシージャ名の終わりの桁から始まって逆順に行われます。
- プログラム名またはプロシージャ名の終わりにだけ指定されたより大(>>>)記号は切り捨てられます。指定されたストリングの残りの文字が呼び出しスタック上の現行のプログラムまたはプロシージャと比較されます。比較はプログラム名またはプロシージャ名の最初の桁から始まります。
- プログラム名またはプロシージャ名により小記号(<<<)とより大記号(>>>)の両方が指定されている時には、その両方が切り捨てられます。残りの文字が使用され、指定したストリング全体の長さが走査され、呼び出しスタック上の現行のプログラムまたはプロシージャと比較されます。

要素2: モジュール

*NONE

ILEモジュール修飾子は指定されません。

名前 メッセージ待ち行列の識別に使用されるILEモジュール名を指定します。

要素3: プログラム

*NONE

プログラム修飾子は指定されません。

名前 メッセージ待ち行列の識別に使用されるプログラム名を指定します。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

1つ以上のメッセージが除去されるメッセージ待ち行列を指定します。このパラメーターを指定した場合には、呼出スタック項目メッセージ待ち行列 (PGMQ)パラメーターを指定することはできません。

単一値

*PGMQ

呼出スタック項目メッセージ待ち行列 (PGMQ)パラメーターに指定された呼び出しメッセージ待ち行列が、そこからメッセージが除去される唯一の待ち行列です。CLEAR(*KEEPUNANS)が指定されている場合には、MSGQ(*PGMQ)を指定することはできません。

修飾子1: MSG 待ち行列

名前 1つ以上のメッセージが除去されるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

メッセージ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

上

メッセージ・キー (MSGKEY)

除去されるメッセージのメッセージ参照キーが入っている制御言語(CL)変数の名前を指定します。このパラメーターを指定することができるのは、CLEAR(*BYKEY)が指定されている場合だけです。

上

消去 (CLEAR)

待ち行列から1つ以上のメッセージを除去するかどうかを指定します。

*BYKEY

メッセージ・キー (MSGKEY)パラメーターに名前が指定された制御言語(CL)変数により識別されたメッセージが、メッセージ待ち行列から除去されます。

***ALL** 指定されたメッセージ待ち行列からすべてのメッセージが除去されます。

*KEEPUNANS

未応答の照会メッセージを除くすべてのメッセージが、指定されたメッセージ待ち行列から除去されます。この値を指定する場合には、MSGQ(*PGMQ)を指定することはできず、メッセージ待ち行列名を指定しなければなりません。

***OLD** 指定されたメッセージ待ち行列の中のすべての古いメッセージが待ち行列から除去されます。

***NEW** 指定されたメッセージ待ち行列の中のすべての新しいメッセージが待ち行列から除去されます。

未処理例外の除去 (RMVEXCP)

未処理の例外メッセージが見つかった時にとられる処置を指定します。未処理の例外メッセージとは、ILEプロシージャに送られたエスケープ、通知、または状況メッセージです。このコマンドが実行される時には、ILEプロシージャは、例外が処理されることをシステムに通知する処置をまだ取っていません。ILEプロシージャがとることのできる1つの処置は、例外メッセージを除去するCLプログラムを呼び出すことです。例外を処理するためにILEプロシージャがとることのできる処置の詳細については、ILE概念 (SD88-5033)にあります。

このパラメーターが有効なのは、ILEプロシージャの呼び出しスタック項目と関連しているメッセージ待ち行列を処理している時だけです。OPM (オリジナル・プログラム・モデル) プログラムの呼び出しスタック項目と関連付けられたメッセージ待ち行列を処理している時には、このパラメーターは無視されます。

- *YES** 指定したメッセージ待ち行列上の未処理の例外メッセージが除去されます。結果として、例外が処理されることとなります。
- *NO** 指定したメッセージ待ち行列上の未処理の例外メッセージは除去されません。このメッセージは、未処理の例外メッセージとして待ち行列上に残ります。

上

省略時応答の拒否 (RJTDFTRPY)

未応答の照会メッセージを除去すると、その照会メッセージに対して省略時の応答が送られます。この値は、このコマンドを使用した結果として送られた省略時の応答を応答処理出口プログラムが拒否できるかどうかを指示します。応答処理出口プログラムは、出口点QIBM_QMH_REPLY_INQに対するシステム登録機能を通じて登録することができます。

***NOALWRJT**

応答処理出口プログラムが省略時の応答を拒否することは許可されません。

***ALWRJT**

省略時の応答を拒否することが応答処理出口プログラムに許可されます。出口プログラムが応答を拒否した場合には、メッセージCPD2476 (応答は応答処理出口プログラムによって拒否されました) が診断メッセージとしてこのコマンドを使用しているプログラムに送られます。CPD2476に続いて、このコマンドを使用しているプログラムはこのエラー状態を処理して回復するためにモニターする必要があることを示すC PF2422 (応答は無効です) エスケープ・メッセージが出されます。

上

例

例1:メッセージの除去

```
RMVMSG MSGQ(SMITH) MSGKEY(&KEY)
```

このコマンドは、CL変数&KEYに指定された参照キーを持つメッセージをSMITHという名前のメッセージ待ち行列から除去します。

例2:未応答メッセージの保持

```
RMVMSG MSGQ(SMITH) CLEAR(*KEEPUNANS)
```

このコマンドは、未応答の照会メッセージを除くすべてのメッセージをSMITHという名前のメッセージ待ち行列から除去します。

例3:部分プロシージャ名を使用したメッセージの除去

```
RMVMSG PGMQ(*SAME 'PROCESS_ORDER>>>') CLEAR(*ALL)
```

このコマンドは、名前がPROCESS_ORDERで始まる最新のプロシージャからすべてのメッセージを除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF24A6

除去するメッセージの値が正しくない。

CPF24AD

プログラム・メッセージ待ち行列が*ALLINACTである場合には除去するメッセージは*ALLでなければならない。

CPF2401

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2403

&2にメッセージ待ち行列&1が見つからない。

CPF2407

&2にメッセージ・ファイル&1が見つからない。

CPF2408

メッセージ待ち行列&1は認可されていない。

CPF241A

システム・プログラムの除去オプション&1が正しくない。

CPF2410

メッセージ・キーがメッセージ待ち行列&1に見つからない。

CPF2411

&2のメッセージ・ファイル&1は認可されていない。

CPF2419

メッセージ識別コード&1が&3のメッセージ・ファイル&2に見つからない。

CPF2422

応答が正しくない。

CPF2450

ワークステーション・メッセージ待ち行列&1がジョブに割り振られていない。

CPF2451

メッセージ待ち行列&1は別のジョブに割り振られている。

CPF247A

呼び出しスタックの項目が見つからなかった。

CPF2477

メッセージ待ち行列&1は現在使用中である。

CPF2479

呼び出しスタックの項目が見つからなかった。

CPF2483

メッセージ・ファイルは現在使用中である。

CPF2499

メッセージ識別コード&1が正しくない。

CPF8127

&9のメッセージ待ち行列&4に&8の損傷がある。VLICログは&7です。

CPF8176

装置記述&4のメッセージ待ち行列に損傷がある。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

上

メッセージ記述除去 (RMVMSGD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メッセージ記述除去(RMVMSGD)コマンドでは、指定されたメッセージ・ファイルからメッセージ記述を除去します。

注: 1つまたは一群のメッセージを印刷する方法に関する説明は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「システム操作の基本」トピック・コレクションのメッセージの処理というタイトルのセクションにあります。

制約事項:メッセージ・ファイルに対する使用(*USE)および削除(*DLT)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
MSGID	メッセージ識別コード	名前	必須, 定位置 1
MSGF	メッセージ・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: メッセージ・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

上

メッセージ識別コード (MSGID)

メッセージ・ファイルから除去されるメッセージのメッセージIDを指定します。

これは必須パラメーターです。

上

メッセージ・ファイル (MSGF)

除去されるメッセージが入っているメッセージ・ファイルを指定します。ジョブに関して有効になっているメッセージ・ファイル一時変更は、いずれもこのコマンドによって無視されます。ここで指定されたファイルは、メッセージがそこから除去されるファイルです。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: メッセージ・ファイル

名前 メッセージが除去されるメッセージ・ファイルを指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブに関する現行ライブラリーを使用して、メッセージ・ファイルを見つけます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 メッセージ・ファイルを見つけるライブラリーを指定します。

上

例

```
RMVMSGD MSGID(UIN0115) MSGF(INV)
```

このコマンドは、IDがUIN0115のメッセージ記述をINVという名前のメッセージ・ファイルから除去します。INVファイルを見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。検索中のライブラリーに複数のINVメッセージ・ファイルが存在している場合には、メッセージ記述はそのライブラリー・リストで見つかった最初のINVメッセージ・ファイルからのみ除去されることに注意してください。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2401

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2407

&2にメッセージ・ファイル&1が見つからない。

CPF2411

&2のメッセージ・ファイル&1は認可されていない。

CPF2419

メッセージ識別コード&1が&3のメッセージ・ファイル&2に見つからない。

CPF2483

メッセージ・ファイルは現在使用中である。

CPF2499

メッセージ識別コード&1が正しくない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

上

ニックネームの除去 (RMVNCK)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ニックネーム除去(RMVNCK)コマンドはシステム配布ディレクトリーから既存のニックネームを除去するために使用されます。 除去されたニックネームがもはや使用可能でなくなった時、このコマンドを出したジョブは終了しています。

ニックネームは、ディレクトリー項目名または配布リスト名を短く縮めたものです。 ニックネームの詳細については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。

制約事項:

1. 所有していない共有ニックネームを除去するためには、機密保護管理者(*SECADM) 権限が必要です。 所有している共有または私用ニックネームを除去するには特殊権限は不要です。
2. 私用ニックネームを除去できるのは所有者だけです。 特殊権限は不要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
NCK	ニックネーム	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: ニックネーム	文字値	
	要素 2: アクセス	*PRIVATE, *PUBLIC	

上

ニックネーム (NCK)

除去される既存のニックネームおよびそのニックネームのアクセスを指定します。

指定できるニックネームの値は次の通りです。

ニックネーム

除去するニックネームを指定してください。

指定できるニックネーム・アクセスの値は次の通りです。

*PRIVATE

ユーザーが所有する私用ニックネームが除去されます。

*PUBLIC

共有ニックネームが除去されます。 共有ニックネームを除去できるのは、機密保護管理者 (*SECADM)権限をもっているユーザーと所有者です。

これは必須パラメーターです。

上

例

RMVNCK NCK(SEC44A *PUBLIC)

このコマンドは共通ニックネームSEC44Aを除去します。ユーザーがニックネームに対して正しい権限をもっている場合、ニックネームが除去されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8AA1

ライブラリーQUSRSYSの導入が完全でない。

CPF8360

コミットメント制御操作を実行するための記憶域が不十分である。

CPF9A89

ニックネーム機能が正常に実行されなかった。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

上

ネットワーク・ジョブ項目除去 (RMVNETJOBE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・ジョブ項目除去(RMVNETJOBE)コマンドは、システムからネットワーク・ジョブ項目を除去します。ネットワーク・ジョブ項目は、ネットワーク・ジョブ投入(SBMNETJOB)コマンドを使用してこのシステムのユーザーにバッチ入力ストリームを送信する時にとられる処置を決めるものです。

この項目はユーザー・プロファイルを指定しますが、これはバッチ・ジョブで参照されるジョブ記述に対する権限を検査するために使用します。このシステムにジョブを投入する各ユーザーまたはユーザーのグループごとに、1つの項目がなければなりません。

このコマンドは、特定のユーザーの項目を除去するために使用されます。そのユーザーに有効となっている総称IDをもつ項目がまだ存在している可能性があります。例えば、ユーザーがJOE PGMRSというユーザーIDの項目を除去した場合に、*ANY PGMRSまたは*ANY *ANYというユーザーIDをもつ項目があれば、その項目がJOE PGMRSによって投入されたジョブを処理するために使用されます。ジョブ項目テーブルの詳細は、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)にあります。

制約事項:

1. このコマンドは共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
2. ノードIDの内部値は、使用されているワークステーション（言語）のタイプにより、RMVNETJOBEコマンドによって表示される文字とは異なる場合があります。FROMUSRIDコマンド・パラメーターに指定されたバイト・ストリング値が、内部ノードID値に関する規則に合っていない場合や、定義されたどのノードの内部値とも一致していない（大文字・小文字の違いは無視する）場合には、エラーが報告されることがあります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FROMUSRID	ユーザー識別コード	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: ユーザーID修飾子	文字値	

上

ユーザー識別コード (FROMUSRID)

除去するネットワーク・ジョブ項目を識別する2つの部分から成るユーザーIDを指定します。

これは必須パラメーターです。

ユーザーIDの両方の部分が必須です。

注: 使用されているワークステーションにより、新しいユーザーIDの内部値は、ネットワーク・ジョブ項目表示(DSPNETJOBE)コマンドによって表示される文字とは異なる場合があります。 FROMUSRIDパラメーターに指定されたバイト・ストリング値が、内部ユーザーID値に関する規則に合っていない場合や、登録されたどのユーザーの内部値とも一致していない場合には、エラーが報告されることがあります。

上

例

```
RMVNETJOBE FROMUSRID(JOE SMITH)
```

このコマンドは、ユーザーID (JOE SMITH)から受け取った入力ストリームに対して実行される処置を判別するために使用されるネットワーク・ジョブ項目を除去します。ユーザーID (JOE SMITH)のネットワーク・ジョブ権限は、ネットワーク・ジョブ項目*ANY SMITH (その項目が存在している場合) またはネットワーク・ジョブ項目*ANY *ANY (その項目が存在している場合) のいずれか一方から取られます。これらの項目のいずれも存在していない場合は、ユーザーID (JOE SMITH)から受け取ったすべてのジョブは拒否されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8050

ネットワーク・ジョブ・テーブルをアクセスすることができなかった。

CPF8051

ユーザーIDの2番目の部分には*ANYは正しくない。

CPF8054

ネットワーク・ジョブ項目&1 &2は除去されなかった。

CPF9040

間違った文字がユーザーIDかアドレス、またはリスト識別コード&1 &2で使用された。

上

ネットワーク・テーブル項目の除去 (RMVNETTBLE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・テーブル項目の除去 (RMVNETTBLE)コマンドは、ネットワーク・テーブルからネットワーク項目を除去するために使用されます。ユーザーのネットワークおよび関連するインターネット・アドレスのリストを管理するために、ネットワーク・テーブルが使用されます。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
NETWORK	ネットワーク	文字値	必須, 定位置 1
INTNETADR	IPアドレス	文字値	必須, 定位置 2

上

ネットワーク (NETWORK)

除去するネットワーク項目の名前を指定します。

上

IPアドレス (INTNETADR)

除去するネットワークのインターネット・アドレスを指定します。IPアドレスは10進数形式
NNN.NNN.NNN.NNN

で表わされます。ここで、NNNは0から255の範囲の数です。

上

例

```
RMVNETTBLE NETWORK(NETONE) INTNETADR(9.5.0.0)
```

このコマンドは、アドレスが9.5.0.0のNETONEネットワーク項目をネットワーク・テーブルから除去します。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP1901

IPアドレス&2が正しくない。

TCP2649

インターフェース項目が見つからない。

TCP2903

テーブルにネットワーク項目が見つからない。

TCP8050

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

ノード・リスト項目の除去 (RMVNODLE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ノード・リスト項目除去(RMVNODLE)コマンドは、既存のノード・リスト・オブジェクトから項目を除去します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
NODL	ノード・リスト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ノード・リスト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB, *LIBL	
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	要素リスト	オプション
	要素 1: 名前またはアドレス	文字値	
	要素 2: タイプ	*SNA, *IP	
CPNAME	SNAノード名	単一値: *RMTLOC その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワーク識別コード	通信名, *NETATR	
	要素 2: 制御点	通信名	

上

ノード・リスト (NODL)

項目が除去されるノード・リスト・オブジェクトの修飾名を指定します。

ノード・リスト名は、次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は次の通りです。

ノード・リスト名

項目が除去されるノード・リストの名前を指定してください。

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

ノード・リスト・オブジェクトから除去するシステムの名前およびアドレス・タイプを指定します。この名前は、SNAネットワークIDと制御点名、インターネット・プロトコルのホスト名、またはIPアドレスとすることができます。

SNAノード名は、NNNNNNNN.CCCCCCCCの形式を使用して指定されます。ここで、NNNNNNNNはネットワークID、CCCCCCCCは制御点名です。制御点名だけが指定された場合には、ノード・リストから除去されているシステムのネットワークID (ID) の値として、ローカル・ネットワークID (LCLNETID)のネットワーク属性が使用されます。

使用できる名前またはアドレスの値は、次の通りです。

リモート・ロケーション名

ノード・リストから除去するリモート・ロケーション名を指定してください。

使用できるアドレス・タイプの値は、次の通りです。

***SNA** ノード名は、システム・ネットワーク体系(SNA)アドレス・タイプです。

***IP** ノード名は、インターネット・プロトコル(IP)アドレス・タイプです。

SNAノード名 (CPNAME)

ノード・リスト・オブジェクトから除去されているSNAノード名を指定します。このシステムは、ネットワークIDと制御点名の2つの要素として指定されます。

注:

1. ネットワークIDおよび制御点名を指定する際には、RMTLOCNAMEパラメーターの使用をお勧めします。
2. ノード・リストから除去するシステムの名前を指定するためにRMTLOCNAMEパラメーターが使用されている場合には、このパラメーターに*RMTLOCを指定しなければなりません。

考えられる値は次の通りです。

*RMTLOC

ネットワークIDおよび制御点名は、RMTLOCNAMEパラメーターを使用して指定されます。

使用できるネットワークIDの値は次の通りです。

*NETATR

ノード・リストから除去されているシステムのネットワークID (ID)の値として、ローカル・ネットワークID (LCLNETID)のネットワーク属性が使用されます。

ネットワークID

ノード・リストから除去するシステムのネットワークIDを指定してください。

使用できる制御点名の値は次の通りです。

制御点名

ノード・リストから除去するシステムの制御点名を指定してください。

注: ネットワークIDとして*RMTLOCが指定されている場合には、このフィールドはブランクのままとなります。

上

例

例1: ノード・リストからのローカル・ネットワーク中のシステムの除去

```
RMVNODLE NODL(MYLIB/NODL02) RMTLOCNAME(AS400A01 *SNA)
```

このコマンドは、ローカル・ネットワーク中に入っているシステムAS400A01の項目を、ライブラリーMYLIBのノード・リストNODL02から除去します。項目にはSNAアドレス・タイプがあります。

例2: ノード・リストからのホスト名の除去

```
RMVNODLE NODL(MYLIB/NODL02) RMTLOCNAME(MYSYS.NET1.LOCAL *IP)
```

このコマンドは、ホスト名MYSYS.NET1.LOCALをライブラリーMYLIBのノード・リストNODL02から除去します。項目のアドレス・タイプはIPです。

例3: ノードからのインターネット・アドレスの除去

```
RMVNODLE NODL(MYLIB/NODL02) RMTLOCNAME('9.13.156.8' *IP)
```

このコマンドは、インターネット・アドレス9.13.156.8をライブラリーMYLIBのノード・リストNODL02から除去します。項目のアドレス・タイプはIPです。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF7AD4

ネットワークID &1が正しい形式になっていない。

CPF7B18

制御点&1は正しい形式になっていない。

CPF813E

&9のノード・リスト&4に損傷がある。

CPF96B4

ノード・リスト項目が存在しない。

CPF96B5

リモート・ロケーション名の形式が正しくない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

上

サーバー記憶域リンクの除去 (RMVNWSSTGL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・サーバー記憶域リンク除去(RMVNWSSTGL)コマンドは、既存のクライアント記憶スペース・リンクをネットワーク・サーバー記述から除去するために使用されます。

注:

- クライアント記憶スペース・リンクの除去には、記憶スペースがリンクされているドライブの英字を参照するネットワークの別名などの項目の更新が必要です。
- ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)パラメーターに対してサーバー接続で*IXSVRまたは*ISCSIが指定されて作成されたネットワーク・サーバー記述にリンクされたクライアント記憶域スペースの除去では、これらのドライブに導入されたアプリケーションがあった場合には、そのドライブが変更され、アプリケーションは正常に実行されないことがあるということを考慮する必要があります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
NWSSTG	ネットワーク・サーバー記憶スペース	名前	必須, 定位置 1
NWSD	ネットワーク・サーバー 記述	名前	必須, 定位置 2
RENUMBER	リンクの番号付け直し	*NO, *YES	オプション

上

ネットワーク・サーバー記憶スペース (NWSSTG)

ネットワーク・サーバーのリンク・リストから除去されるネットワーク・サーバーの記憶スペースの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

ネットワーク・サーバー 記述 (NWSD)

除去されるリンクが入っているネットワーク・サーバー記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

リンクの番号付け直し (RENUMBER)

ネットワーク記憶スペースのリンクの番号が変更されるかどうかを指定します。

***NO** 記憶域スペースのリンクが ネットワーク・サーバー 記述(NWSD)パラメーターから除去された後で、順序番号は順次に変更されません。 順序間にギャップが生じることがあります。

***YES** 記憶域スペースのリンクが指定のネットワーク・サーバー記述(NWSDパラメーター) から除去されると、順序番号は順次に変更されるので、順序間にギャップが生じません。

上

例

例1:クライアント記憶域スペース・リンクの除去

```
RMVNWSTGL NWSSTG(PAINTS) NWSD(REMODEL)
```

このコマンドは、クライアント記憶域スペースPAINTSリンクをREMODELという名前のネットワーク・サーバー記述から除去します。

例2:クライアント記憶域スペース・リンクの除去および番号付け直し

```
RMVNWSTGL NWSSTG(MAIL) NWSD(NTSERVER) RENUMBER(*YES)
```

このコマンドは、クライアント記憶域スペースMAILリンクをNTSERVERという名前のネットワーク・サーバー記述から除去し、リンクされた残りの記憶域スペースの順序番号を付け直して、順序間ギャップを取り除きます。

注:TYPE(*IXSVR *WIN32), TYPE(*ISCSI *WIN32),またはTYPE(*WINDOWSNT)で作成されたネットワーク・サーバー記述にリンクされたクライアント記憶域スペースの番号を付け直す際の影響についてはi5/OS Information Centerの「**iSeries Windows環境**」のトピックを参照してください。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF26B9

ネットワーク・サーバー記憶域リンク除去コマンドが正常に実行されなかった

上

光ディスク・カートリッジ除去 (RMVOPTCTG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

光ディスク・カートリッジ除去(RMVOPTCTG)コマンドを使用して次のことができます:

- 光ディスク装置または媒体ライブラリー装置から光ディスク・カートリッジおよびそのボリュームを除去する。
- 現在光ディスク媒体ライブラリーの入出力端末にあるカートリッジを除去する。
- 光ディスク媒体ライブラリーの入出力端末を所定外の位置に移動する。
- いくつかの光ディスク装置のトレイをオープンする。
- 前にこのコマンドにVOLOPT(*KEEP)を指定して除去した光ディスク・ボリュームのボリューム記述を除去する。

制約事項: このコマンドを使用するためには、*USE権限が必要です。これは、*EXCLUDE共通権限で出荷されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
VOL	ボリューム識別コード	文字値, *IOSTATION, *MOUNTED, *LEASTUSED, *MAGAZINE	必須, 定位置 1
VOLOPT	ボリューム記述オプション	*REMOVE, *KEEP	オプション, 定位置 2
MEDLOC	媒体の位置	*IOSTATION, *MAGAZINE	オプション, 定位置 3
RMVCTGLOC	除去されたカートリッジの位置	文字値, *NONE	オプション
MLB	光媒体ライブラリー	名前	オプション
DEV	光ディスク装置	名前	オプション

上

ボリューム識別コード (VOL)

光ディスク装置または媒体ライブラリー装置から除去される光ディスク・カートリッジのボリュームIDを指定します。2つのボリュームをもつカートリッジの場合、ボリュームIDを1つだけ指定しなければなりません。

*IOSTATION

光ディスク媒体ライブラリーの入出力端末が所定外の位置に移動されます。これによって、現在入出力端末にある光ディスク・カートリッジを除去することができます。

注: この値が有効なのは、パラメーターMLBが指定されている場合だけです。

***LEASTUSED**

システムは、どの光ディスク・カートリッジが直前に使用されたかを判別し、それを指定された媒体ライブラリーから除去します。

注: この値が有効なのは、パラメーターMLBが指定されている場合だけです。

***MOUNTED**

システムは、DEVパラメーターで指定された光ディスク装置にあるボリュームの記述を除去します。いくつかの光ディスク装置の場合、トレイがオープンされます。

注: この値が有効なのは、パラメーターDEVが指定されている場合だけです。

***MAGAZINE**

この値により、光ディスク・ライブラリーから除去するために、バルク・ロード・マガジンがオープンされます。

注: この値が有効なのは、パラメーターMLBが指定されている場合だけです。

ボリュームID

除去される光ディスク・カートリッジのボリュームIDを指定してください。

上

ボリューム記述オプション (VOLOPT)

光ディスク索引データベース・ファイルに光ディスク・ボリューム記述を保存するかどうかを指定します。

注: このパラメーターは、VOLパラメーターにボリュームIDが指定されている場合にのみ有効です。

***REMOVE**

ボリューム記述は光ディスク索引データベース・ファイルから除去されます。

***KEEP**

ボリューム記述は光ディスク索引データベース・ファイルに保存されます。これによって、除去されたボリュームのボリューム記述を、光ディスク・ボリューム処理(WRKOPTVOL)コマンドの使用時に表示することができます。

注: この値は、媒体ライブラリー装置内の初期設定されたボリュームの場合にのみ有効です。その他の光ディスク装置内の初期設定されていないボリュームの場合には、この値は無視され、*REMOVEが使用されます。

上

媒体の位置 (MEDLOC)

除去しようとしている光ディスク・ボリュームの最終宛先を指定します。

***IOSTATION**

光ディスク・カートリッジは入出力端末に除去されます。

***MAGAZINE**

光ディスク・カートリッジはバルク・ロード・マガジンに除去されます。

注: すべての光ディスク・ライブラリーがバルク・ロード・マガジンを装備しているわけではありません。

除去されたカートリッジの位置 (RMVCTGLOC)

光ディスク・カートリッジが除去された後で、その外部ロケーションを指定します。

注: このパラメーターはVOLOPT(*KEEP)が指定されている場合にのみ有効です。

*NONE

外部ロケーションは指定されません。

除去されたカートリッジのロケーション

光ディスク・カートリッジが除去された後のそのロケーションを指定してください。最大50文字まで指定することができます。

上

光媒体ライブラリー (MLB)

操作に使用する光ディスク媒体ライブラリーの名前を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、VOL(*IOSTATION)、VOL(*MAGAZINE)、またはVOL(*LEASTUSED)が指定されている場合だけです。このパラメーターは、VOLパラメーターに特定のボリューム名が指定されている時には無視されます。

上

光ディスク装置 (DEV)

ボリュームをもつ光ディスク装置の名前を指定しますが、これはこの装置がサポートしている場合には、光ディスク索引データベースおよびオープンされたトレイから除去されるボリュームを含みます。

注: このパラメーターはVOL(*MOUNTED)が指定されている場合にのみ有効です。このパラメーターは、VOLパラメーターに特定のボリューム名が指定されている時には無視されます。

上

例

例1: ボリュームIDの指定

```
RMVOPTCTG VOL(VOL01)
```

このコマンドは、ボリュームID VOL01をもつ光ディスク・カートリッジを除去します。

例2: スタンドアロン装置の指定

```
RMVOPTCTG VOL(*MOUNTED) DEV(OPT01)
```

このコマンドは、スタンドアロン光ディスク装置OPT01に見つかったボリュームを除去します。

例3: 媒体場所*MAGAZINEの指定

RMVOPTCTG VOL(VOL01) MEDLOC(*MAGAZINE)

このコマンドは、ボリュームID VOL01をもつ光ディスク・カートリッジをバルク・ロード・マガジンから除去します。

例4:ボリューム名*MAGAZINEの指定

RMVOPTCTG VOL(*MAGAZINE) MLB(OPTMLB01)

このコマンドは、光ディスク・ライブラリーから除去できるように、バルク・ロード・マガジンをオープンします。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

OPT1320

光ディスク・ボリューム&1は使用中である。

OPT1325

光ディスク・ボリュームの形式が認識されません。

OPT1330

光ディスク・ボリュームが見つからないか、または使用不能です。

OPT1331

光ディスク・ボリューム&1が見つかりません。

OPT1346

リモート光ディスク装置にあるボリュームには操作を行なうことができない。

OPT1430

光ディスク・ボリューム&1の情報が除去された。

OPT1460

光ディスク・ボリューム&1が光ディスク装置にない。

OPT1530

&1は有効な光ディスク装置を表していない。

OPT1555

光ディスク装置&1は使用中です。

OPT1652

装置&1は光ディスク媒体ライブラリーでない。

OPT1671

機能が光ディスク装置&1に導入されていません。

OPT1672

光ディスク装置&1のバルク・ロード・マガジンをアクセス中にエラー。

OPT1676

光ディスク装置&1のバルク・ロード・マガジンが満杯です。

OPT1677

光ディスク装置&1のバルク・ロード・マガジンは開かれています。

OPT1790

操作が許可されないか、または別の要求と矛盾しています。

OPT1805

光ディスク・ボリューム索引ファイルのアクセス中にエラー。

OPT1810

光ディスク・ディレクトリー索引ファイルのアクセス中にエラー。

OPT1815

内部プログラム・エラーが起きました。

OPT1820

光ディスク装置&1で内部エラーが起こった。

OPT1821

光ディスク装置&1でエラーが起こった。

OPT1825

光ディスク装置&1で光ディスク索引が間違っている。

OPT1860

光ディスク装置&1に対する要求が正常に実行されなかった。

OPT1861

装置&1に構成された装置記述がない。

OPT1862

資源&1に活動状態の装置記述がない。

OPT1863

光ディスク・ライブラリーを再利用する必要がある。

OPT1872

光ディスク要求がタイムアウトまたは取り消されました。

OPT2301

内部システム・オブジェクトが使用中である。

OPT7740

ユーザーにはライブラリー&3タイプ&4のオブジェクト&2が認可されていない。

上

光ディスク・サーバー除去 (RMVOPTSVR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

光ディスク・サーバー除去(RMVOPTSVR)コマンドは、階層ファイル・システム(HFS) APIのリモート光ディスク・サーバーへのアクセス機能を無効にします。指定されたサーバーはもはや、HFS APIを使用してアプリケーションをアクセスできなくなります。

制約事項:このコマンドを使用するためには、*USE権限が必要です。これは、*EXCLUDE共通権限で出荷されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CSI	サイド情報	値 (最大 16 回の繰り返し): 名前, *ALL	必須, 定位置 1
VOLOPT	ボリューム記述オプション	*REMOVE, *KEEP	オプション, 定位置 2

上

サイド情報 (CSI)

光ディスク構成から除去するリモート光ディスクを表す通信サイド情報オブジェクトを指定します。

*ALL 光ディスク構成の中のすべてのリモート光ディスク・サーバーが除去されます。

通信サイド情報オブジェクト名

リモート光ディスク・サーバーを表す通信サイド情報オブジェクトの名前を指定してください。最大16個までのサーバーを指定することができます。

上

ボリューム記述オプション (VOLOPT)

除去される光ディスク・サーバーの光ディスク索引データベース・ファイルに、ボリューム記述を保存するかどうかを指定します。

*REMOVE

光ディスク索引データベース・ファイルからすべてのボリューム記述が除去されます。

*KEEP

すべてのボリューム記述が光ディスク索引データベース・ファイルに保存されます。これによって、光ディスクボリューム処理(WRKOPTVOL)コマンドの使用時に*REMOVEDボリューム記述を表示することができます。

例

RMVOPTSVR CSI(LAN01)

このコマンドは、光ディスクLANサーバーLAN01を光ディスク構成から除去します。すべてのボリューム記述が光ディスク索引データベース・ファイルから除去されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

OPT0125

コマンド&1がエラーで完了し、ジョブ・ログに詳細がある。

OPT6730

特殊値*ALLが使用される時にはサーバーを指定することができない。

上

OSPF領域の除去 (RMVOSPFARA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

OSPF領域の除去(RMVOSPFARA)コマンドは、既存のOSPF領域を除去します。OSPFインターフェースに接続されていないOSPF領域は、除去することができます。このコマンドは、IPv4およびIPv6ルーティング・ドメインからOSPF領域を除去することができます。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
AREA	領域ID	文字値	必須, 定位置 1
IPVERSION	IPバージョン	*IPv4, *IPv6	オプション

上

領域ID (AREA)

除去するOSPF領域IDを指定してください。OSPF領域の追加(ADDOSPFARA)コマンドを実行することによって、領域が定義される必要があります。

これは必須パラメーターです。

文字値 OSPF領域のインターネット・アドレスを*a.a.a.a*形式で指定してください。ここで、*a*は1から255の10進数です。

上

IPバージョン (IPVERSION)

OSPFがIPv4またはIPv4ルーティング・ドメインの一部であるかどうかを指定してください。

***IPv4** この領域はOSPF IPv4ルーティング・ドメインの一部です。

***IPv6** この領域はOSPF IPv6ルーティング・ドメインの一部です。

上

例

例1: OSPF IPv4エリアの除去

```
RMVOSPFARA AREA('1.1.1.1')
```

このコマンドは、OSPF IPv4エリアを除去します。

例2: OSPF IPv6エリアの除去

```
RMVOSPFARA AREA('67.67.67.67') IPVERSION(*IPV6)
```

このコマンドは、OSPF IPv6エリアを除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP8050

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

TCP6519

OSPF領域ID&1は、構成ファイルから削除されました。理由コード&2で失敗しました。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

上

OSPFインターフェースの除去 (RMVOSPFIFC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

OSPFインターフェースの除去(RMVOSPFIFC)コマンドは、構成ファイルから特定のOSPFインターフェースを除去します。

このコマンドで、IPv4およびIPv6 OSPFインターフェースを除去することができます。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
IFC	インターフェースID	文字値, *PPPCNNPRF	必須, 定位置 1
PPPCNNPRF	接続プロファイル	文字値, *NONE	オプション

上

インターフェースID (IFC)

除去するOSPFインターフェースのインターネット・アドレスを指定します。インターフェースIDは、IPv4またはIPv6アドレスになります。

これは必須パラメーターです。

*PPPCNNPRF

接続プロファイル (PPPCNNPRF)パラメーターで指定されたPoint-to-Point接続プロファイルは、OSPF経路指定トラフィックの送受信のために使用されます。

文字値 除去するOSPFインターフェースのインターネット・アドレスを指定してください。IPv4インターネット・アドレスは、*nnn.nnn.nnn.nnn*形式で指定され、*nnn*は0から255までの範囲の10進数です。IPv6インターネット・アドレスは、*n:n:n:n:n:n:n:n*形式で指定されました。ここで、*n*は0からX'ffff'の範囲の16進数です。値`::`は、1つ以上のグループの16ビットがゼロであることを示しています。

インターフェースIDは、システム内の論理インターフェースを判別する別名にもすることができます。

上

接続プロファイル (PPPCNNPRF)

リモート・エンドのホストへのPP接続用に作成されたプロファイルを指定してください。このプロファイルは、PPリンクがアクティブになった後で使用されます。このパラメーターは、OSPF IPv4でのみ有効です。

*NONE

このインターフェースはPoint-to-Pointリンクでは作動しません。

文字値 使用する接続プロファイルを指定してください。このプロファイルは、リモート・アクセス・サービスを使用してすでに構成されている必要があります。

上

例

例1: OSPF IPv4インターフェースの除去

```
RMVOSPFIFC IFC('9.67.107.7')
```

このコマンドは、IPアドレス9.67.107.7で定義された既存のOSPF IPv4インターフェースを除去します。

例2: OSPF IPv6インターフェースの除去

```
RMVOSPFIFC IFC('1000::5678:9abc:def')
```

このコマンドは、OSPF IPv6インターフェースを除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP8050

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

TCP6525

インターネット・アドレス&1が正しくない

TCP1902

IPアドレス&1が正しくない。

TCP1908

IPアドレス&1が正しくない。

TCP6529

OSPFインターフェース&1が、構成ファイルから除去されていません。理由コード&2で失敗しました。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

上

OSPF仮想リンクの除去 (RMVOSPFLNK)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

OSPF仮想リンクの除去(RMVOSPFLNK)コマンドは、OSPF構成から仮想リンクを除去します。

IPv4およびIPv6 OSPF仮想リンクを除去することができます。リンク伝送領域(LNKTMSARA)パラメーター値は、仮想リンクがIPv4またはIPv6 OSPFの仮想リンクであるか判別します。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
NGHRTR	近隣ルーター	文字値	必須, 定位置 1
LNKTMSARA	リンク伝送領域	文字値	必須, 定位置 2

上

近隣ルーター (NGHRTR)

隣接（他のエンドポイント）のルーターIDを指定してください。

これは必須パラメーターです。

文字値 ルーターのインターネット・アドレスを形式で指定してください。ここで、*a*は1から255の10進数です。

上

リンク伝送領域 (LNKTMSARA)

仮想リンクが構成されている非バックボーン、非スタブ領域を指定してください。仮想リンクは、共通の非バックボーンおよび非スタブ領域へのインターフェースを持つ2つの領域枠ルーター間で構成されます。仮想リンクは、リンクの2つのエンドポイントのそれぞれで構成されている必要があります。

これは必須パラメーターです。

文字値 領域のインターネット・アドレスを形式で指定してください。ここで、*a*は1から255の10進数です。

例

```
RMVOSPFLNK  NGRTR('2.2.2.2')  LNKMSARA('3.3.3.3')
```

このコマンドは、リンク伝送エリアID 3.3.3.3をもつ隣接ルーター2.2.2.2の仮想リンクを除去します。OSPF仮想リンクを除去する場合、リンクが確立されているルーターIDおよびリンク伝送エリアのエリアIDを指定する必要があります。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP8050

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

TCP6535

OSPF仮想リンク&1は、構成ファイルから除去されていません。理由コード&2で失敗しました。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

OSPF範囲の除去 (RMVOSPFRRNG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

OSPF範囲の除去(RMVOSPFRRNG)コマンドは、OSPF領域から範囲を除去します。指定したOSPF領域に応じて、範囲がIPv4またはIPv6となります。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
AREA	領域ID	文字値	必須, 定位置 1
IPADRRNG	IPアドレスの範囲	文字値	必須, 定位置 2

上

領域ID (AREA)

この範囲を除去する領域IDを指定してください。OSPF領域の追加(ADDOSPFARA)コマンドを実行することによって、領域が定義される必要があります。

これは必須パラメーターです。

文字値 OSPF領域のインターネット・アドレスを*a.a.a.a*形式で指定してください。ここで、*a*は1から255の10進数です。

上

IPアドレスの範囲 (IPADRRNG)

この範囲のインターネット・アドレスの共通サブネット部分を指定してください。

これは必須パラメーターです。

文字値 IPv4インターネット・アドレスは、*nnn.nnn.nnn.nnn*形式で指定され、*nnn*は0から255までの範囲の10進数です。

IPv6インターネット・アドレスは、*n:n:n:n:n:n:n:n*形式で指定されました。ここで、*n*は0からX'ffff'の範囲の16進数です。値"*::*"は、1つ以上のグループの16ビットがゼロであることを示しています。

上

例

例1: OSPF IPv4エリアからの構成済み範囲の除去

```
RMVOSPFRRNG AREA('1.1.1.1') IPADRRNG('128.185.0.0')
```

このコマンドは、OSPF IPv4エリア1.1.1.1からアドレス範囲128.185.0.0を除去します。

例2: OSPF IPv6エリアからの構成済み範囲の除去

```
RMVOSPFRRNG AREA('67.67.67.67') IPADRRNG('2001:0db8:1:2::')
```

このコマンドは、OSPF IPv6エリア67.67.67.67からアドレス範囲2001:0db8:1:2::を除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP8050

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

TCP6525

インターネット・アドレス&1が正しくない

TCP1902

IPアドレス&1が正しくない。

TCP1908

IPアドレス&1が正しくない。

TCP652F

OSPF範囲&1が構成ファイルから削除されていません。理由コード&2で失敗しました。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

上

プロトコル・テーブル項目除去 (RMVPCLTBLE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プロトコル・テーブル項目除去 (RMVPCLTBLE)コマンドは、プロトコル・テーブルからプロトコル項目を除去するために使用されます。プロトコル・テーブルは、インターネットで使用されるプロトコルのリストを管理するために使用されます。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PROTOCOL	プロトコル	文字値	必須, 定位置 1

上

プロトコル (PROTOCOL)

除去するプロトコル項目の名前を指定します。

上

例

```
RMVPCLTBLE PROTOCOL(TCP)
```

このコマンドは、TCPプロトコル項目をプロトコル・テーブルから除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP2902

テーブルにプロトコル項目が見つからない。

TCP8050

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

PEX定義の除去 (RMVPEXDFN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

PERFORMANCE EXPLORER定義除去(RMVPEXDFN)コマンドは、システムから1つ以上のPERFORMANCE EXPLORER定義を除去します。各定義は、ライブラリーQUSRSYS中のQAPEXDFNファイルのメンバーとして記憶されています。メンバー名は定義名と同じです。

制約事項:

1. このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
2. このコマンドを使用するには、*SERVICE特殊権限を持っているか、iSeriesナビゲーターのアプリケーション管理サポートを介してi5/OSのサービス・トレース機能の使用を許可されている必要があります。機能IDをQIBM_SERVICE_TRACEに指定した機能使用法の変更(CHGFCNUSG)コマンドを使用して、トレース操作の実行を許可されるユーザーのリストを変更することもできます。
3. 次のユーザー・プロファイルはコマンドを使用するための専用権限を受けています。
 - QPGMR
 - QSRV
4. RMVPEXDFNを同時に実行するために、同じジョブ内で2つのスレッドを使用することはできません。最初にRMVPEXDFNを出したスレッドがコマンドの実行を完了するのを、2番目のRMVPEXDFNが待機します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DFN	定義	総称名, 名前, *ALL	必須, 定位置 1

上

定義 (DFN)

除去するPERFORMANCE EXPLORER定義の名前を指定します。特定の定義名、総称定義名、または*ALLを指定することができます。

***ALL** すべてのPERFORMANCE EXPLORER定義が除去されます。

名前 除去するPERFORMANCE EXPLORER定義の名前を指定してください。

総称名 除去するPERFORMANCE EXPLORER定義の総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (例えば, ABC*)です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつ

すべてのオブジェクトを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが入っていない場合、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

上

例

例1: 単一定義の除去

```
RMVPEXDFN DFN(SAMPLE)
```

このコマンドは、SAMPLEという名前のPERFORMANCE EXPLORER定義が入っているライブラリーQUSRSYSのファイルQAPEXDFNからSAMPLEという名前のメンバーを除去します。

例2: SAMで始まるすべての定義の除去

```
RMVPEXDFN DFN(SAM*)
```

このコマンドは、ライブラリーQUSRSYSのファイルQAPEXDFNからSAMで始まるすべてのメンバーを除去することにより、名前がSAM で始まるすべての定義を除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF3203

&2のファイル&1のオブジェクトを割り振ることができない。

CPF3220

&2のファイル&1に対して操作を実行することはできない。

CPF7301

&3のファイル&2から&5個のメンバーが除去されなかった。

CPF7310

メンバー&1は&3のファイル&2から除去されませんでした。

上

PEXフィルター除去 (RMVPEXFTR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

PERFORMANCE EXPLORERフィルター除去(RMVPEXFTR)コマンドは、システムから1つ以上のPERFORMANCE EXPLORERフィルターを除去します。各フィルターは、ライブラリーQUSRSYS中のQAPEXFTRファイルのメンバーとして保管されています。メンバー名はフィルター名と同じです。

制約事項:

- このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
- このコマンドを使用するには、*SERVICE特殊権限を持っているか、iSeriesナビゲーターのアプリケーション管理サポートを介してi5/OSのサービス・トレース機能の使用を許可されている必要があります。機能IDをQIBM_SERVICE_TRACEに指定した機能使用法の変更(CHGFCNUSG)コマンドを使用して、トレース操作の実行を許可されるユーザーのリストを変更することもできます。
- 次のユーザー・プロファイルはコマンドを使用するための専用権限を受けています。
 - QPGMR
 - QSRV
- RMVPEXFTRを同時に実行するために、同じジョブ内で2つのスレッドを使用することはできません。最初にRMVPEXFTRを出したスレッドがコマンドの実行を完了するのを、2番目のRMVPEXFTRが待機します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FTR	フィルター	総称名, 名前, *ALL	必須, 定位置 1

上

フィルター (FTR)

除去するPERFORMANCE EXPLORERフィルターの名前を指定します。特定のフィルター名、総称フィルター名、または*ALLを指定することができます。

***ALL** すべてのPERFORMANCE EXPLORERフィルターが除去されます。

総称名 除去するPERFORMANCE EXPLORERフィルターの総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (例えば、ABC*)です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが入っていない場合、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。総称オブジェクト名について詳

しくは、Webサイト(<http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter>)のiSeries Information Centerで、「プログラミング」->「制御言語(CL)」の下にある「i5/OSオブジェクト」トピックを参照してください。

名前 除去するPERFORMANCE EXPLORERフィルターの名前を指定してください。

上

例

例1: 単一フィルターの除去

```
RMVPEXFTR  FTR(SAMPLE)
```

このコマンドは、SAMPLEという名前のPERFORMANCE EXPLORER フィルターが入っているライブラリーQUSRSYSのファイルQAPEXFTR からSAMPLEという名前のメンバーを除去します。

例2: SAMで始まるすべてのフィルターの除去

```
RMVPEXFTR  FTR(SAM*)
```

このコマンドは、ライブラリーQUSRSYSのファイルQAPEXFTRからSAMで始まるすべてのメンバーを除去することにより、名前がSAM で始まるすべてのフィルターを除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF3203

&2のファイル&1のオブジェクトを割り振ることができない。

CPF3220

&2のファイル&1に対して操作を実行することはできない。

CPF7301

&3のファイル&2から&5個のメンバーが除去されなかった。

CPF7310

メンバー&1は&3のファイル&2から除去されませんでした。

上

PF制約の除去 (RMVPFCST)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

物理ファイル制約除去(RMVPFCST)コマンドは、物理ファイル間の1つまたは複数の制約関係を除去するために使用することができます。このコマンドで除去できる制約関係は、参照制約、固有限制、1次キー制約、および検査制約です。

制約事項:

- ファイル(FILE)パラメーターに指定された物理ファイルに対するオブジェクト管理(*OBJMGT)またはオブジェクト変更(*OBJALTER)権限が必要です。
- 物理ファイルが入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。
- ユーザー・ジョブがオープンしたファイルから制約関係を除去することはできません。
- このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。マルチスレッド・ジョブではこのコマンドは分散ファイルに対してスレッド・セーフではなく、タイプ*SNAのリレーショナル・データベースを使用する分散ファイルに対して正常に実行されません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CST	制約名	単一値: *ALL, *CHKPND その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	必須, 定位置 2
TYPE	制約タイプ	*ALL, *REFCST, *UNQCST, *PRIKEY, *CHKCST	オプション, 定位置 3
RMVCST	制約の除去	*RESTRICT, *REMOVE, *KEEP	オプション

上

ファイル (FILE)

制約が除去される物理ファイルを指定します。参照制約の場合には、このファイルは従属ファイルにしかすることはできません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ファイル

名前 物理ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

制約名 (CST)

除去される制約関係の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

単一値

***ALL** FILEパラメーターに指定されたファイルのすべての制約関係が除去されます。

*CHKPND

制約の違反の可能性があるレコード（検査保留）をもつ制約関係が除去されます。 **検査保留状態**は、従属ファイルの値をその親キーと比較してすべて有効であること、または検査制約式のレコード値が有効であることを、システムがまだ判断していない時に起こります。参照および検査制約だけが検査保留にできます。

その他の値（最大300個指定可能）

文字値 制約の名前を指定してください。

注: 小文字を指定した時には、大文字と小文字が区別されます。

上

制約タイプ (TYPE)

CSTパラメーターで指定され、物理ファイルから除去される制約関係のタイプを指定します。

***ALL** すべてのタイプの1次キーおよび固有限制約が除去されます。CSTパラメーターの依存関係の例は、次の通りです。

- CST(*ALL) TYPE(*ALL) –すべての制約が除去されます。
- CST(*CHKPND) TYPE(*ALL) –検査保留中のすべての参照および検査制約が除去されます。
- CST(ABC) TYPE(*ALL) -制約ABCが除去されます。

注: RMVCSTパラメーターが指定された時には、参照制約パラメーターではこの値は無視されます。

*REFCST

参照制約が除去されます。CSTパラメーターの依存関係の例は、次の通りです。

- CST(*ALL) TYPE(*REFCST) –すべての参照制約が除去されます。
- CST(*CHKPND) TYPE(*REFCST) –検査保留のすべての参照制約が除去されます。

- CST(ABC) TYPE(*REFCST) – 参照制約ABCが除去されます。

***UNQCST**

固有制約が除去されます。

注: 固有の制約が1次キーである場合には、固有の制約は除去されますが、1次キーの定義およびファイルのアクセス・パスは除去されません。

CSTパラメーターの依存関係の例は、次の通りです。

- CST(*ALL) TYPE(*UNQCST) – (1次キー制約を除く) すべての固有制約が除去されます。
- CST(*CHKPND) TYPE(*UNQCST) – 無効。固有制約は検査保留にすることはできません。
- CST(ABC) TYPE(*UNQCST) – 固有制約ABCが除去されます (ただし1次キー制約でない場合)。

***PRIKEY**

1次キー制約が除去されます。 CSTパラメーターの依存関係の例は、次の通りです。

- CST(*ALL) TYPE(*PRIKEY) – 1次キー制約が除去されます。
- CST(*CHKPND) TYPE(*PRIKEY) – 無効。1次キー制約を検査保留にすることはできません。
- CST(ABC) TYPE(*PRIKEY) – 1次キー制約ABCが除去されます。

***CHKCST**

検査制約が除去されます。 CSTパラメーターの依存関係の例は、次の通りです。

- CST(*ALL) TYPE(*CHKCST) – すべての検査制約が除去されます。
- CST(*CHKPND) TYPE(*CHKCST) – 検査保留中のすべての検査制約が除去されます。
- CST(XYZ) TYPE(*CHKCST) – 検査制約XYZが除去されます。

上

制約の除去 (RMVCST)

親キーでもある1次キーまたは固有制約が参照制約の親ファイルから除去される時に、従属ファイルの制約関係がどの程度除去されるかを指定します。

注: 制約タイプ(TYPE)パラメーターに*REFCSTが指定された場合には、このパラメーターは無視されません。

***RESTRICT**

制約が親ファイルと従属ファイルの間で定義または確立されている場合には、制約は除去されません。従属ファイルの外部キーのアクセス・パスも外部キーも除去されません。

***REMOVE**

親ファイルと従属ファイルの間の制約および制約定義が除去されます。対応する外部キーは除去されます。従属ファイルの外部キー・アクセス・パスが除去されるのは、それが存在しているが、共用されていない場合だけです。

***KEEP**

親ファイルと従属ファイルの間の制約は除去されますが、制約定義は除去されません。従属ファイルの対応する外部キーおよび外部キー・アクセス・パスは除去されません。

上

例

これらの例では、次の物理ファイル制約追加(ADDPFCST)コマンドを出し、固有制約 UNIQUE_DEPARTMENT_NUMBERおよび参照制約EMPLOYEE_DEPARTMENTがファイルに追加されています。

```
ADDPFCST  FILE(MYLIB/DEPARTMENTS)  TYPE(*UNQCST)
          KEY(DEPTNUM)  CST(UNIQUE_DEPARTMENT_NUMBER)
ADDPFCST  FILE(MYLIB/PERSONNEL)  TYPE(*REFCST)  KEY(DEPTNO)
          CST(EMPLOYEE_DEPARTMENT)
```

例1:固有制約の除去

```
RMVPCST  FILE(MYLIB/DEPARTMENTS)  CST(*ALL)  TYPE(*ALL)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBにあるファイルDEPARTMENTSから固有制約 UNIQUE_DEPARTMENT_NUMBERを除去します。

例2:参照制約の除去

```
RMVPCST  FILE(MYLIB/PERSONNEL)  CST(EMPLOYEE_DEPARTMENT)
          TYPE(*REFCST)  RMVPCST(*RESTRICT)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBにある従属ファイルPERSONNELから参照制約 EMPLOYEE_DEPARTMENTを除去します。親ファイルが確立されていない(ADDPFCSTコマンドに PRNFILEが指定されていない)ので、除去は制限されていません。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF32B1

ファイル&1から制約が除去されなかった。

上

物理ファイル・トリガーの除去 (RMVPFTRG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

物理ファイル・トリガー除去(RMVPFTRG)コマンドは、トリガー・プログラムを呼び出すトリガーを指定した物理ファイルから除去します。除去するトリガーは、トリガー事象、トリガー時点、またはトリガー名によって指定することができます。トリガー・プログラムは、物理ファイル・トリガー追加(ADDPFTRG)コマンド(システム・トリガー)またはSQL CREATE TRIGGER ステートメント(SQLトリガー)によって、指定された物理ファイルに追加されたプログラムです。

トリガー時点、トリガー・イベント、およびトリガー名が指定されて、トリガー時点およびイベントがトリガー定義名について時点およびイベントと一致しない場合には、トリガーは除去されません。

指定したトリガー時点、トリガー・イベント、またはトリガー名のトリガーが物理ファイルから除去されると、ファイル内でトリガー・イベントが起こってもトリガー・プログラムは呼び出されなくなります。トリガーがシステム・トリガーであった場合には、トリガー・プログラムはシステム上に存在し続けます。トリガーがSQLトリガーであった場合には、トリガー・プログラムは削除されます。

物理ファイルからトリガーを除去する時には、その物理ファイルで排他非読み取りロックが保持されます。その物理ファイルに関して作成されたすべての論理ファイルも排他非読み取りロック状態が保持されます。

制約事項:

- 物理ファイルに対するオブジェクト変更(*OBJALTER)またはオブジェクト管理(*OBJMGT)権限および物理ファイルが入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。
- このジョブまたは別のジョブで物理ファイルあるいは従属の論理ファイルまたは構造化照会言語(SQL)ビューがオープンされた場合には、トリガーを除去することはできません。
- このコマンドの実行中は、物理ファイルも従属論理ファイルもオープンできません。
- このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。マルチスレッド・ジョブではこのコマンドは分散ファイルに対してスレッド・セーフではなく、タイプ*SNAのリレーショナル・データベースを使用する分散ファイルに対して正常に実行されません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FILE	物理ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 物理ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TRGTIME	トリガー時間	*ALL, *BEFORE, *AFTER	オプション, 定位置 2
TRGEVENT	トリガー・イベント	*ALL, *INSERT, *DELETE, *UPDATE, *READ	オプション, 定位置 3
TRG	トリガー	文字値, *ALL	オプション
TRGLIB	トリガー・ライブラリー	名前, *FILE, *CURLIB	オプション

物理ファイル (FILE)

トリガーが除去される物理ファイルを指定します。指定するファイルは、システムに存在していなければなりません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 物理ファイル

名前 トリガーが除去されるファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トリガー時間 (TRGTIME)

トリガー・プログラムが呼び出される時点に基づいて除去されるトリガーを指定します。

***ALL** トリガー・イベントの前または後に呼び出されたプログラムのすべてのトリガーが除去されます。

***BEFORE**

トリガー・イベントの前に呼び出されたプログラムのトリガーが除去されます。

***AFTER**

トリガー・イベントの後に呼び出されたプログラムのトリガーが除去されます。

トリガー・イベント (TRGEVENT)

除去されるトリガーに関連したトリガー・イベントを指定します。

***ALL** 挿入、削除、および更新操作のすべてのトリガーが除去されます。

***INSERT**

挿入操作のトリガーが除去されます。

***DELETE**

削除操作のトリガーが除去されます。

***UPDATE**

更新操作のトリガーが除去されます。

*READ

読み取り操作のトリガーが除去されます。

上

トリガー (TRG)

除去しようとしているトリガーの名前を指定します。

***ALL** SQLトリガーを含め、すべてのトリガ一定義が除去されます。

文字値 トリガーの名前を指定してください。区切り文字のない場合には最大128文字、引用符(")の区切り文字がある場合には最大258文字を指定することができます。

TRGパラメーターの依存関係の例は、次の通りです。

- TRG(*ALL) TRGTIME(*ALL) TRGEVENT(*ALL) -すべてのトリガーが除去されます。
- TRG(*ALL) TRGTIME(*INSERT) TRGEVENT(*AFTER) -すべての*INSERT *AFTERトリガーが除去されます。
- TRG(ABC) TRGTIME(*ALL) TRGEVENT(*ALL) - ABCという名前のトリガーが除去されます。
- TRG(ABC) TRGTIME(*BEFORE) TRGEVENT(*INSERT) -トリガー時点が*BEFOREで、トリガー・イベントが*INSERTの場合に、ABCという名前のトリガーが除去されます。トリガー時点とトリガー・イベントが一致しない場合には、トリガーABCは除去されません。

上

トリガー・ライブラリー (TRGLIB)

トリガーが除去されるライブラリーを指定します。

注: 特殊値*LIBLおよび*CURLIBは、トリガーが除去される時に実行中のジョブの値です。

***FILE** 物理ファイル(FILE)パラメーターに指定されたファイルのライブラリーが使用されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 使用するライブラリーの名前を指定してください。

上

例

例1:挿入事象のすべてのトリガーの除去

```
RMVPFTRG FILE(EMP) TRGEVENT(*INSERT)
```

このコマンドは、挿入操作によって呼び出されたプログラムのすべてのトリガーをEMPという名前の物理ファイルから除去します。

例2:トリガー・イベントの前に呼び出されたプログラムのすべてのトリガーの除去

```
RMVPFTRG FILE(EMP) TRGTIME(*BEFORE)
```

このコマンドは、トリガー事象の前に呼び出されたプログラムのすべてのトリガーをEMPという名前の物理ファイルから除去します。

例3:挿入イベント後に呼び出されたプログラムのトリガーの除去

```
RMVPFTRG FILE(EMP) TRGTIME(*AFTER) TRGEVENT(*INSERT)
```

このコマンドは、挿入操作の後に呼び出されたプログラムのトリガーをEMPという名前の物理ファイルから除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF32C6

トリガー操作が正常に実行されなかった。

上

プログラム除去 (RMVPGM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム除去(RMVPGM)コマンドは、現デバッグ・セッションから1つまたは複数のプログラムを除去します。各プログラムの中で定義されているすべての停止点およびトレースが除去され、プログラムは通常の状態に戻ります。除去したプログラムのどれかを再び追加するためには、停止点およびトレースを指定し直さなければなりません。

制約事項:

1. このコマンドを使用できるのは、デバッグ・モードの時だけです。デバッグ・モードを開始するためには、デバッグ開始(STRDBG)コマンドを参照してください。
2. このコマンドを使用して、デバッグ中のセッションからバインド済みプログラムを除去することはできません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PGM	プログラム	単一値: *DFTPGM, *ALL その他の値 (最大 20 回の繰り返し): 名前	オプションル, 定位置 1

上

プログラム (PGM)

現デバッグ・セッションからどのプログラムを除去するかを指定します。

単一値

*DFTPGM

デバッグ・セッションにおいて、現在省略時のプログラムとして指定されているプログラムが除去されるプログラムです。後で省略時のプログラムを指定し直さない限り、このデバッグ・セッションには省略時のプログラムはなくなります。

*ALL 現在デバッグ・モードになっているすべてのプログラムが除去されます。

その他の値 (最大20個指定可能)

名前 現行デバッグ・セッションから除去されるプログラムの名前を指定してください。

上

例

RMVPGM PGM(PGMX PGMY PGMZ)

このコマンドは、3つのプログラムPGMX, PGMY,およびPGMZを現行のデバッグ・セッションから除去します。すべての停止点およびデータ・トレースがプログラムから除去されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1999

コマンドでエラーが起こった。

上

事前開始ジョブ項目の除去 (RMVPJE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

事前開始ジョブ項目の除去 (RMVPJE)指定されたサブシステム記述から事前開始ジョブ項目を除去します。

ライブラリー名に*LIBLが指定されている項目を除去する時には、指定された名前のプログラムを見つけるために、ライブラリー・リストが検索されます。ライブラリー・リストにプログラムが見つかったが、別のライブラリー名 (ライブラリー・リストの後の方にある) をもつ項目が存在している場合には、項目は除去されません。ライブラリー・リストにプログラムが見つからないが、項目が存在している場合は、項目は除去されません。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - 指定されたサブシステム記述に対するオブジェクト操作(*OBJOPR),オブジェクト管理(*OBJMGT),および読み取り(*READ)権限と、そのサブシステム記述が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。
- 事前開始ジョブが活動状態の場合には、このコマンドを実行する前に事前開始ジョブの終了 (ENDPJ)コマンドを実行しなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SBSD	サブシステム記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サブシステム記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

上

サブシステム記述 (SBSD)

除去する事前開始ジョブ項目が入っているサブシステム記述の名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: サブシステム記述

名前 事前開始ジョブ項目が除去されるサブシステム記述の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されま
す。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ラ
イブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されま
す。

名前 事前開始ジョブ項目が除去されるサブシステム記述のライブラリーを指定します。

上

プログラム (PGM)

除去する事前開始ジョブ項目用のプログラムの名前およびライブラリーを指定します。1つのサブシステム
記述の中に同じプログラム名の2つの項目が存在していても構いませんが、それらのライブラリー名は異な
ってなければなりません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: プログラム

名前 事前開始ジョブによって実行されるプログラムの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されま
す。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ラ
イブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されま
す。

名前 事前開始ジョブによって実行されるプログラムのライブラリーを指定します。

上

例

RMVPJE SBS(DQGPL/PJE) PGM(QGPL/PGM1)

このコマンドは、PGM1プログラム(QGPLライブラリー中)の事前開始ジョブ項目をQGPLライブラリーに
入っているPJEサブシステム記述から除去します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF1619

ライブラリー&2のサブシステム記述&1に損傷がある。

CPF1691

活動サブシステム記述は変更されることも変更されないこともある。

CPF1697

サブシステム記述&1は変更されなかった。

上

プログラム一時修正除去 (RMVPTF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム一時修正除去(RMVPTF)コマンドは、指定されたプロダクトから、指定されたプログラム一時修正(PTF)を除去します。PTFが一時的に適用されている場合には、これらのPTFと置き換えられた元のオブジェクトが戻されます。PTFは一時的に除去することができ、この場合には、除去されたPTFはプロダクトPTFライブラリーに保留され、後から適用することができます。PTFが適用されていない場合には、QRPLOBJライブラリーに永久的に除去および移動することができます。

RMVPTFコマンドは、コマンドの実行時に即時PTFを除去するために使用するか、あるいは次の不在時初期プログラム・ロード(IPL)時に除去するよう要求するために使用します。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、QSRVとしてサインオンするか、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持っていることが必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LICPGM	プロダクト	文字値	必須, 定位置 1
RLS	リリース	文字値, <u>*ONLY</u>	オプション
SELECT	選択するPTF番号	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション
OMIT	除外するPTF番号	値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション
RMV	エクステント変更	<u>*TEMP</u> , *PERM	オプション
DELAYED	遅延PTF	<u>*NO</u> , *YES	オプション
IPLRMV	不在時IPLの除去	<u>*YES</u> , *NO	オプション
RMVDEP	関連PTFの除去	<u>*NO</u> , *YES	オプション

上

プロダクト (LICPGM)

PTFが除去されるプロダクトの7桁のIDを指定します。

これは必須パラメーターです。

上

リリース (RLS)

ロードされるPTFのリリース・レベルを指定します。

*ONLY

この値が有効なのは、システムに導入されているプロダクトの基本オプションのリリースが1つの場合だけです。プロダクトのすべての導入済みオプションに対するPTFは、オプションのリリース・レベルとは無関係に除去されます。

文字値 リリース・レベルをVXRYMZの形式で指定してください。VXはバージョン番号、RYはリリース番号、MZはモディフィケーション・レベルです。変数XおよびYは0から9の数字、変数Zは0から9の数字またはAからZの文字とすることができます。

指定されたリリース・レベルがプロダクトの基本オプションのリリース・レベルである場合には、オプションのリリース・レベルとは無関係に、そのプロダクトのすべての導入済みオプションのPTFが除去されます。

指定されたリリース・レベルがプロダクトの基本オプションのリリース・レベルでない場合には、そのリリース・レベルで導入されるオプションのPTFだけが除去されます。

上

選択するPTF番号 (SELECT)

指定されたプロダクトからどのPTFを除去するかを指定します。単一PTF番号が指定されている場合には、除外するPTF番号 (OMIT)パラメーターを指定することはできません。

単一値

***ALL** プロダクトからすべてのPTFが除去されます。永久的に適用されたPTFについては、このコマンドは無視します。すべてのPTFを除去することができなかった場合には、除去されなかったPTFおよび除去されない理由を示すメッセージが操作員に送られます。

その他の値 (最大300個指定可能)

文字値 除去する各プログラム一時修正のPTF識別番号を指定してください。

上

除外するPTF番号 (OMIT)

このパラメーターに指定されたPTFを除いて、すべてのPTFが除去されることを指定します。残りのすべてを除去する時に、省く (システムに残しておく) プログラム一時修正のPTF番号を指定してください。最大300個のPTF番号を指定することができます。選択するPTF番号 (SELECT)パラメーターに単一のPTF番号を指定した場合には、OMITパラメーターを指定することはできません。

文字値 除去しない各プログラム一時修正のPTF識別番号を指定してください。

上

エクステンション変更 (RMV)

PTFを一時的に除去するかまたは永久的に除去するかを指定します。永久的に除去されたPTFオブジェクトは、QRPLOBJライブラリーに移されるか、削除されます。一時的に除去されたPTFオブジェクトは、後から適用できるように、プロダクトPTFライブラリーに保留されます。

*TEMP

PTFは除去され、後から再び適用できるように、プロダクトPTFライブラリーに保留されます。

*PERM

PTFは永久的に除去されて、QRPLOBJライブラリーに入れられます。

上

遅延PTF (DELAYED)

コマンドの処理時に即時PTFが除去されるかどうか、あるいは次の不在時IPL時に即時PTFおよび遅延PTFが除去されるかどうかを指定します。

*NO 識別された即時PTFは、コマンドの処理時にすべて除去されます。遅延PTFでは、PTFが適用されていない状況で、RMV(*PERM)が指定された場合にはコマンドの実行時にPTFは永続的に除去されます。この他のすべての遅延PTFはこのRMVPTF要求の間中は無視され、除去されません。一時的に除去されている即時PTFの場合には、活動状態の前提条件があると、PTFは除去されない結果となります。除去されない各PTFについてメッセージが送られます。

*YES 遅延と即時の両方のPTFが次の不在時IPLで除去されます。**不在時IPLの除去 (IPLRMV)**パラメータは、次の不在時IPLでPTFが除去されるかどうか、あるいは次の不在時IPLでPTFを除去するための前の要求が取り消されるかどうかを決定します。

上

不在時IPLの除去 (IPLRMV)

次の不在時IPL時に遅延または即時PTFに対して行われる処置を指定します。このパラメーターが有効なのは、**遅延PTF (DELAYED)**パラメーターに*YESが指定されている場合だけです。

*YES 指定されたPTFが次の不在時IPLで除去されます。**エクステンション変更 (RMV)**パラメーターによって、この除去が一時的なものか、永久的なものかが決定されます。

*NO 識別されたPTFの次の不在時IPLでの除去の前の要求は、取り消されます。

上

関連PTFの除去 (RMVDEP)

SELECTパラメーターに指定されたPTFと同じプロダクトおよびオプション内の従属PTFおよび相互従属PTFが、SELECTパラメーター・リストに指定されたPTFと一緒に処理されるかどうかを指定します。RMVDEPパラメーターが有効なのは、SELECTパラメーターに*ALLを指定していない場合だけです。

*NO 従属および相互従属PTFは、SELECTパラメーター・リストでは処理されません。リストに指定さ

れたPTFがリストにないかまたはすでに適用済みの従属PTFをもっている場合には、PTFは除去されません。メッセージが、欠落している従属PTFおよびそれが従属する指定されたPTFを識別します。

***YES** 従属および相互従属PTFは、SELECTパラメーター・リストで除去されます。

上

例

例1: PTFの一時的な除去

```
RMVPTF LICPGM(5761SS1) DELAYED(*YES)
```

このコマンドは、次のIPLで、オペレーティング・システム(5761SS1)から一時的に適用されたすべてのPTFを一時的に除去します。このPTFは、必要な場合にはAPYPTFコマンドを使用して再度適用することができます。

例2: PTFの永続的な除去

```
RMVPTF LICPGM(5761SS1) SELECT(SI10002 SI10005) RMV(*PERM)
```

このコマンドは、オペレーティング・システム(5761SS1)から2個のPTF（番号SI10002およびSI10005）を永続的に除去します。2個のPTFはQRPLOBJに移動され、適用する前にはLODPTFコマンドを使用して再度ロードしなければなりません。

例3: PTFとその相互従属の除去

```
RMVPTF LICPGM(5761SS1) SELECT(SI00003 SI00008 SI00012)  
DELAYED(*YES) RMVDEP(*YES)
```

このコマンドは、PTFのSI00003、SI00008とSI00012,および同じ製品とオプション内のその従属と相互従属PTFを、次のIPLでライブラリーQSYS中のオペレーティング・システムから一時的に除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF24B4

パラメーター・リストのアドレス指定中に重大エラー。

CPF35A0

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF35A1

ライセンス内部コードの間違ったコピーを使用している。

CPF35A4

ライセンス内部コード修正&2を除去することはできない。

CPF35A9

ライセンス内部コード修正を処理中にエラーが起こった。

CPF35C0

PTF &1-&2 &3のIPL処置は除去できない。

276 System i: プログラミング i5/OS コマンド RETURN (戻り) ~

CPF35D0

ライセンス内部コード修正&1-&2 &3が永久的除去にセットされていない。

CPF35D2

PTF &1-&2は除去されていない。

CPF35EB

プロダクト&1の複数のリリースが導入されている。

CPF35E4

PTF &1-&2 &3の情報が完了していない。

CPF35FB

PTF &1-&2は除去されていない。

CPF3558

&3のタイプ*&2の&1を割り振ることができない。

CPF3564

PTF &1-&2に損傷がある。

CPF358A

リリースは正しくない。

CPF3596

選択／除外リストのPTF番号が許されない。

CPF3598

PTF機能はすでに処理中である。

CPF3602

PTF &2は永久適用されているので除去されなかった。

CPF3604

エラーが起こったので、PTFは取り除かれなかった。

CPF3606

プロダクト&1 &2は導入されていない。

CPF361E

プロダクト&1のPTFを除去中にエラーが起こった。

CPF3612

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF3641

即時PTFは取り除かれなかった。

CPF3658

識別されたプログラム一時修正はない。

CPF3693

エラーが起こったので保守機能は終了した。

CPF3931

必要なプログラムが見つからない。PTFは完了していません。

CPF3945

ライセンス・プログラムのPTF活動のレコードが削除された。

CPF3956

PTF処理中にエラーが起こった。

上

RDBディレクトリー項目の除去 (RMVRDBDIRE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

リレーショナル・データベース・ディレクトリー項目除去(RMVRDBDIRE)コマンドは、リレーショナル・データベース(RDB)ディレクトリーから特定の項目、総称項目、すべての項目、またはすべてのリモート項目を除去します。

制約事項:

このコマンドを使用するには、*SECADMIN, *ALLOBJ,および*IOSYSCFG特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
RDB	項目	総称名, 名前, *ALL, *ALLRMT	必須, 定位置 1

上

項目 (RDB)

リレーショナル・データベース・ディレクトリー項目を指定します。項目に別名がない場合には、リレーショナル・データベース名が項目名として使用されます。項目に別名がある場合には、その別名が項目名として使用されます。

これは必須パラメーターです。

*ALLRMT

*LOCAL項目を除くRDBディレクトリーのすべての項目が除去されます。

***ALL** RDBディレクトリー中のすべての項目が除去されます。

総称名 除去するRDB項目の総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。

名前 除去するRDB項目の名前を指定してください。

上

例

RMVRDBDIRE RDB(YOURRDB)

このコマンドは、リレーショナル・データベース・ディレクトリーから項目YOURRDBを除去します。この項目は、以降はアクセスできなくなります。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF3EC2

リレーショナル・データベース・ディレクトリー項目の除去が失敗しました。

上

REXXバッファの除去 (RMVREXBUF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

REXXバッファ除去(RMVREXBUF)コマンドは、1つまたは複数のバッファをREXX 外部データ待ち行列から取り除きます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
BUFFER	バッファ	10 進数, *CURRENT , *ALL	オプション、定位置 1

上

バッファ (BUFFER)

取り除くバッファの番号を示します。この番号によって識別されるバッファおよびその番号の後に追加されているすべてのバッファが取り除かれます。

***CURRENT**

現行バッファだけが除去されます。

***ALL** すべてのバッファおよび項目がREXX外部データ待ち行列から取り除かれます。これは **BUFFER(0)**を指定することと同じです。

変数名 変数名を指定してください。制御言語(CL)プログラム内に、最小11桁で小数点以下の桁のない10進変数が指定されていなければなりません。

バッファ番号

除去するバッファの番号を指定します。

上

例

```
RMVREXBUF BUFFER(2)
```

このコマンドは、バッファ番号2および2より大きい番号のすべてのバッファをREXX外部データ待ち行列から除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF7CF7

REXX外部データ待ち行列に損傷がある。

上

リモート定義の除去 (RMVRMTDFN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

リモート定義除去(RMVRMTDFN)コマンドは、リモート・システムの属性の定義を除去するために使用されます。

制約事項: ユーザーは*ALLOBJ権限をもっていなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SYSTEM	システム名	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: システム名	文字値, *ANY, *ALL	
	要素 2: システム・グループ	文字値	

上

システム名 (SYSTEM)

除去されるリモート・システムのシステム名およびシステム・グループを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ANY** 他の項目によって処理されないリモート・システムの省略時の定義を除去します。

***ALL** すべてのリモート・システムの定義を除去します。

指定できる**システム名**の値は次の通りです。

システム名

除去するリモート・システムの名前を指定してください。

指定できる**システム・グループ**の値は次の通りです。

システム・グループ

除去するリモート・システムのグループ名を指定してください。この値を指定しないと、グループ名はブランクになります。

上

例

例1:特定リモート定義の除去

```
RMVRMTDFN  SYSTEM(RCHAS1)
```

このコマンドは、リモート・システムからの定義を除去します。現在、このシステムは*ANYリモート定義に対する値または省略時の値を使用します。

例2:リモート定義のすべての除去

```
RMVRMTDFN  SYSTEM(*ALL)
```

このコマンドはリモート・システム定義のすべてを除去します。現在、システムは省略時の値を使用します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF6DCA

SYSTEMパラメーターをローカル・システムにできない。

CPF6DCC

システム&1 &2のリモート定義が見つからない。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

上

リモート・ジャーナルの除去 (RMVRMTJRN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

リモート・ジャーナル除去(RMVRMTJRN)コマンドは、指定されたターゲット・システムのリモート・ジャーナルをソース・システムの指定されたジャーナルから関連解除します。ソース・システム上のジャーナルは、ローカル・ジャーナルまたは別のリモート・ジャーナルのいずれか一方とすることができます。

このコマンド処理によって、リモート・ジャーナルおよび関連したすべてのジャーナル・レシーバーはターゲット・システムから削除されません。ターゲット・システムでは、このコマンドの処理は実行されません。ターゲット・システムに残っているリモート・ジャーナルは、リモート・ジャーナル追加(ADDRMTJRN)コマンドまたはリモート・ジャーナル追加(QJOADDRMOTAJOURNAL) APIを使用して、後からジャーナルのリモート・ジャーナル定義に追加し直すことができます。

必要な場合に、リモート・ジャーナルおよび関連したすべてのジャーナル・レシーバーをターゲット・システムから削除するのは、ユーザーの責任です。

リモート・ジャーナルの関連がジャーナルから除去されてしまうと、ジャーナル項目がまだリモート・ジャーナルに複製されていなくても、ソース・システムで現在ジャーナルのレシーバー・ディレクトリー内にあるジャーナル・レシーバーのすべては、もはや削除から保護されなくなります。

制約事項:

- ローカル・ジャーナルまたはリモート・ジャーナルに対するコマンドは、ソース・システムから呼び出さなければなりません。
- 指定されたターゲット・システムのリモート・ジャーナルは、ジャーナル状態*ACTIVEになってはいけません。
- 指定されたリレーショナル・データベース(RDB)ディレクトリー項目は、次の規則を満たしていなければなりません。
 - 通信プロトコルは、リモート・ジャーナル機能がサポートされているプロトコルの1つとしなければなりません。
 - RDB内のリモート・ロケーション名は*LOCALデータベースを参照することができません。
 - RDBは、アプリケーション要求元ドライバー・プログラム(*ARDPGM)を使用してターゲット・システムを見つけることができません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
RDB	リレーショナル・データベース	名前	必須, 定位置 1
SRCJRN	ソース・ジャーナル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ジャーナル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	ノート
TGTJRN	ターゲット・ジャーナル	単一値: *SRCJRN その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ターゲット・ジャーナル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	

上

リレーショナル・データベース (RDB)

ターゲット・システムのリモート・ロケーション名が入っているリレーショナル・データベース・ディレクトリー項目の名前。

これは必須パラメーターです。

リレーショナル・データベース項目名

リレーショナル・データベース・ディレクトリー項目の名前には最大18桁を指定することができます。

上

ソース・ジャーナル (SRCJRN)

リモート・ジャーナルを除去するソース・システム上のジャーナルを指定します。ソース・システム上のジャーナルは、ローカル・ジャーナルまたはリモート・ジャーナルのいずれか一方とすることができます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ソース・ジャーナル

ソース・ジャーナル名

ターゲット・ジャーナルを除去するソース・ジャーナルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

ソース・ジャーナルの名前は、次のライブラリー値の1つで修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

ターゲット・ジャーナル (TGTJRN)

ターゲット・システム上のリモート・ジャーナルを指定します。

単一値

*SRCJRN

ターゲット・ジャーナル名はソース・ジャーナル名と正確に同じです。

修飾子1: ターゲット・ジャーナル

ターゲット・ジャーナル名

ソース・ジャーナルから除去するターゲット・ジャーナルを指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

例

例1: ソース・ジャーナルと同じ名前を持つリモート・ジャーナルの除去

```
RMVRMTJRN SRCJRN(RMTLIB/JOURNAL) RDB(CHICAGO)
           TGTJRN(*SRCJRN)
```

このコマンドは、リレーショナル・データベース・ディレクトリー項目CHICAGOによって識別されたライブラリーRMTLIBのリモート・ジャーナルJOURNALを、ライブラリーRMTLIBのソース・ジャーナルJOURNALから除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF6981

&2のリモート・ジャーナル&1は除去されていない。

CPF6982

リレーショナル・データベース・ディレクトリー項目&1が正しくない。

CPF6992

&2のリモート・ジャーナル&1は除去されていない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

上

システム応答リスト項目除去 (RMVRPYLE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム応答リスト項目除去(RMVRPYLE)コマンドでは、システム応答リストから項目を除去します。応答リストは、事前定義照会メッセージに対する自動応答の源泉として使用されます。

応答リストは、システム応答リストの照会メッセージ応答属性が指定された、言い換えると INQMSGRPY(*SYSRPLY)が指定された、ジョブによって照会メッセージが送られる時にだけ、使用されません。INQMSGRPY(*SYSRPLY)は、ジョブ変更(CHGJOB)コマンドを使用して変更することができます。

応答リスト項目追加(ADDRPYLE)コマンドを使用して、新規項目を応答リストに追加することができます。既存の項目は、応答リスト項目変更(CHGRPYLE)コマンドを使用して変更することができます。システム応答リスト項目の処理(WRKRPLYE)画面を使って、項目のリスト全体を表示することができます。WRKRPLYEによって表示された画面から、個々の項目を追加、変更、および除去することができます。

制約事項:

1. このコマンドは共通*EXCLUDE権限で提供され、QPGMRユーザー・プロファイルがこのコマンドを使用する専用権限を持っています。
2. このコマンドを使用するには、QPGMRとしてサインオンするか、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持っている必要があります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SEQNBR	順序番号	1-9999, *ALL	必須、定位置 1

上

順序番号 (SEQNBR)

システム応答リストから除去される応答リスト項目の順序番号を指定します。

これは必須パラメーターです。

***ALL** すべての応答リスト項目がシステム応答リストから除去されることを指定します。

順序番号

システム応答リストから除去される項目を指定する4桁の順序番号を指定してください。有効な値の範囲は1から9999です。

上

例

例1:すべての項目の除去

```
RMVRPYLE SEQNBR(*ALL)
```

このコマンドは、システム応答リストからすべての項目を除去します。

例2: 1つの項目の除去

```
RMVRPYLE SEQNBR(0001)
```

このコマンドは、システム応答リストから、順序番号0001の項目を除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2435

システム応答リストが見つからなかった。

CPF2556

順序番号&1はシステム応答リストに定義されていない。

CPF2557

システム応答リストに損傷がある。

CPF2558

システム応答リストは現在使用中である。

上

経路指定項目除去 (RMVRTGE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

経路指定項目除去 (RMVRTGE)指定されたサブシステム記述からルーティング項目を除去します。サブシステムは、このコマンドの実行時に活動状態としておくことができます。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - 指定されたサブシステム記述に対するオブジェクト操作(*OBJOPR),オブジェクト管理(*OBJMGT),および読み取り(*READ)権限と、そのサブシステム記述が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SBSD	サブシステム記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サブシステム記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SEQNBR	経路指定項目の順序番号	1-9999	必須, 定位置 2

上

サブシステム記述 (SBSD)

除去したいルーティング項目の入っているサブシステム記述の名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: サブシステム記述

名前 ルーティング項目が除去されるサブシステム記述の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 ルーティング項目が除去されるサブシステム記述のライブラリーの名前を指定します。

上

経路指定項目の順序番号 (SEQNBR)

除去されるルーティング項目の順序番号を指定します。ルーティング項目の順序番号は、値が比較される時にルーティング項目が処理される順序を示します。ジョブがシステムに入力されると、ジョブの比較値がサブシステム中のルーティング項目の比較値と比較されます。最初の一致が見つかった時には、その項目のルーティング情報が新しいジョブに使用されます。したがって、順序番号は比較の順序を示します。

これは必須パラメーターです。

1から9999

1から9999の順序番号を指定してください。

上

例

```
RMVRTGE  SBSD(OR/PERT)  SEQNBR(9912)
```

このコマンドは、経路指定項目9912をライブラリーORのサブシステム記述PERTから除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1619

ライブラリー&2のサブシステム記述&1に損傷がある。

CPF1691

活動サブシステム記述は変更されることも変更されないこともある。

CPF1697

サブシステム記述&1は変更されなかった。

上

検索見出し項目の除去 (RMV SCHIDX)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

検索見出し項目除去(RMV SCHIDX)コマンドは、検索見出しからパネル・グループ見出し項目を除去します。

制約事項:

- 検索見出しに対する変更(*CHANGE)権限、および検索見出しが入っているライブラリーに対する使用(*USE)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
SCHIDX	検索見出し	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 検索見出し	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
PNLGRP	パネル・グループ	名前	必須, 定位置 2

上

検索見出し (SCHIDX)

項目を除去する検索見出しを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 検索見出し

名前 検索見出しの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

検索見出しを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 検索見出しが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

パネル・グループ (PNLGRP)

項目が除去されるパネル・グループを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 パネル・グループの名前を指定してください。

上

例

RMV SCHIDX SCHIDX (ACCOUNTING) PNLGRP (PAYROLL)

このコマンドは、パネル・グループPAYROLLを検索見出しACCOUNTINGから除去します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

制御の範囲項目の除去 (RMVSOCE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

制御の範囲項目の除去(RMVSOCE)コマンドによって、CLユーザーまたはプログラムは、警報制御の範囲から拡張対等サブシステム(APPN)ネットワーク・ノード制御点を除去することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
ENTRY	項目	値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワーク識別コード	通信名, *NETATR	
	要素 2: 制御点	通信名	

上

項目 (ENTRY)

制御の範囲から除去するシステムを指定します。

このパラメーターには50個の値を指定することができます。

要素1: ネットワーク識別コード

*NETATR

ネットワークIDの値としてNETIDネットワーク属性を使用してください。NETIDネットワーク属性は、記憶されている値です。*NETATRは、記憶されていません。

通信名 制御の範囲から除去したいシステムのネットワークIDを指定してください。

要素2: 制御点

通信名 制御の範囲から除去したいシステムの制御点名を指定してください。

上

例

```
RMVSOCE ENTRY((*NETATR RCHSTR1) (*NETATR RCHSTR2))
```

このコマンドは、2つのシステム(RCHSTR1およびRCHSTR2)を警報制御範囲から除去します。

上

エラー・メッセージ

不明

上

サービス・テーブル項目の除去 (RMVSRVTBLE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス・テーブル項目の除去 (RMVSRVTBLE)コマンドは、サービス・テーブルからサービス項目を除去するために使用されます。 サービス・テーブルを使用してポートに対するネットワーク・サービスのマッピングを管理します。 サービス項目名、ポート、およびプロトコルを調べた上で項目を除去しなければなりません。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SERVICE	サービス	文字値	必須, 定位置 1
PORT	ポート	1-65535	必須, 定位置 2
PROTOCOL	プロトコル	文字値	必須, 定位置 3

上

サービス (SERVICE)

除去するサービス項目の名前を指定します。

上

ポート (PORT)

除去するサービスの割り当て先のポート番号を指定します。

上

プロトコル (PROTOCOL)

除去するサービスによって使用されるプロトコルの名前を指定します。

上

例

RMVSRVTBLE SERVICE(FTP) PORT(21) PROTOCOL(TCP)

このコマンドは、FTPサービス項目をネットワーク・サービス・テーブルから除去します。除去しようとするサービスはポート21に割り当てられ、TCPプロトコルが実行されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP2901

テーブルにサービス項目が見つからない。

TCP8050

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

上

サーバー認証項目の除去 (RMVSVRAUTE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サーバー認証項目除去(RMVSVRAUTE)コマンドは、指定したユーザー・プロファイルからサーバー認証項目を除去するために使用されます。この確認情報は、アプリケーション・サーバーに接続するためにアプリケーション・リクエスターが使用します。項目が除去されると、そのサーバーに新規に接続する際に他のサーバー認証項目を使用するか、あるいは一致が見つからない場合にアプリケーションにエラーを戻すかのいずれかの結果になります。

制約事項: サーバー認証項目の除去元のユーザー・プロファイルに対する機密保護管理者(*SECADM)特殊権限、オブジェクト管理(*OBJMGT)権限、および使用(*USE)権限が必要です。そうでなければ、このコマンドを実行するためにそのユーザー・プロファイルのもとでサインオンしなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
USRPRF	ユーザー・プロファイル	単純名, *CURRENT	必須, 定位置 1
SERVER	サーバー	文字値, *ALL	必須, 定位置 2

上

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

サーバー認証項目を除去するユーザー・プロファイルを指定します。

*CURRENT

現行ユーザーのサーバー認証項目が除去されます。

名前 サーバー認証項目の除去元のユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

上

サーバー (SERVER)

アプリケーション・サーバーの名前を指定します。

***ALL** このユーザー・プロファイルのすべてのサーバー認証項目を除去します。

'文字値'

項目を除去するアプリケーション・サーバーの名前を指定してください。 200 文字を超えないように指定してください。

例

```
RMVSVRAUTE  USRPRF(*CURRENT)  SERVER('MPLS_RDB')
```

このコマンドは、MPLS_RDBのサーバー認証項目を現行ユーザー・プロファイルから除去します。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2213

ユーザー・プロファイル&1を割り振ることができない。

CPF225E

サーバー認証項目が存在していない。

CPF226C

機能の実行が認可されていない。

テープ・カートリッジの除去 (RMVTAPCTG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

テープ・カートリッジ除去(RMVTAPCTG)コマンドは、指定されたカートリッジIDをその現行カテゴリーまたは指定されたカテゴリーから除去して、それらを*EJECTカテゴリーに入れます。*EJECTカテゴリーは入出力操作に有効なカテゴリーではありません。*EJECTカテゴリーのカートリッジをテープ装置で使用することはできません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DEV	ライブラリー装置	名前	必須, 定位置 1
CTG	カートリッジID	単一値: *ALL その他の値 (最大 40 回の繰り返し): 文字値	オプション
CGY	カテゴリー	単一値: *SHARE400, *INSERT その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カテゴリー名	文字値, *NOSHARE, *IPL, *NL, *CNV	
	要素 2: カテゴリー・システム	文字値, *CURRENT	
STATION	端末	*DEV, *CNV, *HIGHCAP	オプション

上

ライブラリー装置 (DEV)

使用するライブラリー装置を指定します。装置名は、装置媒体ライブラリー作成(CRTDEVMLB)コマンドを使用して前もってシステム上に作成しておかなければなりません。

これは必須パラメーターです。

名前 ライブラリー装置の名前を指定してください。

上

カートリッジID (CTG)

除去されるカートリッジIDを指定します。

注:

- カートリッジIDは、ライブラリー装置に外部IDを読み取るバーコード・スキャナーがある場合には、外部IDを表すものでなければなりません。

- このパラメーターが指定されている場合には、CGYパラメーターを指定することはできません。

単一値

***ALL** すべてのカートリッジが除去されます。

その他の値（最大40個指定可能）

総称ID

カートリッジIDの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング（例えば、ABC*）です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、総称接頭部で始まる名前を持つすべてのカートリッジIDを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なカートリッジIDと見なします。

ID 除去するカートリッジIDを指定してください。

上

カテゴリー (CGY)

テープ・カートリッジが除去されるカテゴリーを指定します。

注: CGYパラメーターが指定されている場合には、CTGパラメーターを指定することはできません。

単一値

*SHARE400

*SHARE400カテゴリーに割り当てられているカートリッジIDが除去されます。このカテゴリーのカートリッジは、同じ装置に接続された他のシステムと共用することができます。

*INSERT

*INSERTカテゴリーに割り当てられているすべてのカートリッジIDが除去されます。このカテゴリーのカートリッジはライブラリー装置に入っていますが、そのIDはまだシステムに追加されていません。

要素1: カテゴリー名

*NOSHARE

*NOSHAREカテゴリーに割り当てられているすべてのカートリッジIDが除去されます。このIDのカートリッジは他のシステムと共用することができません。

***IPL** *IPLカテゴリーに割り当てられているカートリッジIDが除去されます。このIDのカートリッジは代替IPLに使用することができます。

***NL** *NLカテゴリーに割り当てられているすべてのカートリッジIDが除去されます。このIDのカートリッジはラベルなしテープとして使用されます。

***CNV** *CNVカテゴリーに割り当てられたすべてのカートリッジIDが除去されます。このカテゴリーのカートリッジがシステムによって自動的に除去されるのは、カートリッジがロードされていて、ユーザーがアンロードを要求した場合です。

文字値 ユーザー定義のカテゴリーの名前を指定してください。指定したユーザー定義カテゴリーに割り当てられているカートリッジIDが除去されます。

要素2: カテゴリー・システム

この要素は、カテゴリが属するシステムを識別します。システム名は、ネットワーク属性表示 (DSPNETA) コマンドの保留中システム名フィールドから取られます。保留中のシステム名がない場合には、現行システム名属性が使用されます。

*****注意*****
システム名を変更した場合には、ライブラリー装置中のすべてのテープ・カートリッジと関連したライブラリー装置内のカートリッジが無効になります。

***CURRENT**

現在コマンドを実行中のシステムに属するカテゴリ。

文字値 このカテゴリが属するシステムの名前を指定してください。

上

端末 (STATION)

イジェクトされるカートリッジを受け取る端末を指定します。

***DEV** テープ・ライブラリーに通常の入出力端末がある場合には、カートリッジはそれに入れられます。テープ・ライブラリーに通常の入出力端末がない場合には、カートリッジは高容量の出力端末に入れられます。テープ・ライブラリーに高容量の出力端末がない場合には、カートリッジはライブラリー内の保管スロットに入れられます。ライブラリーのドアを開けて、高容量の出力端末またはライブラリー内の保管スロットからテープ・カートリッジを物理的に除去しなければなりません。

***CNV** テープ・カートリッジは、通常の入出力端末にイジェクトされます。通常の入力端末によってライブラリーのドアを開けずにライブラリーからテープ・カートリッジの挿入および除去を行うことができます。テープ・ライブラリーに通常の入出力端末がない場合には、カートリッジは高容量の出力端末に入れられます。テープ・ライブラリーに高容量の出力端末がない場合には、カートリッジはライブラリー内の保管スロットに入れられます。ライブラリーのドアを開けて、高容量の出力端末またはライブラリー内の保管スロットからテープ・カートリッジを物理的に除去しなければなりません。

***HIGHCAP**

テープ・カートリッジは、ライブラリー装置内の高容量の出力端末にイジェクトされます。テープ・ライブラリーに高容量の出力端末がない場合には、カートリッジは通常の入出力端末に入れられます。テープ・ライブラリーに通常の入出力端末がない場合には、カートリッジはライブラリー内の保管スロットに入れられます。ライブラリーのドアを開けて、高容量の出力端末またはライブラリー内の保管スロットからテープ・カートリッジを物理的に除去しなければなりません。

上

例

例1: *HIGHCAP端末への単一のカートリッジの除去

```
RMVTAPCTG  DEV(LIB01)  CTG(VOL4)  STATION(*HIGHCAP)
```

このコマンドは、カートリッジID VOL4をその現在のカテゴリから除去して、それを*EJECTカテゴリに入れます。カートリッジは、高容量の出力端末に入れられます。高容量の出力端末が定義されていない場合には、カートリッジは通常の入出力端末に入れられます。通常の入出力端末がサポートされていない場合には、カートリッジは保管スロットに残されます。

例2: *IPLカテゴリーからのすべてのカートリッジの除去

```
RMVTAPCTG  DEV(LIB01)  CGY(*IPL)  STATION(*CNV)
```

このコマンドは、*IPLカテゴリーのすべてのカートリッジIDを除去して、それらを*EJECTカテゴリーに入れます。カートリッジは、通常の入出力端末に入れます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF67AF

&6個のカートリッジが除去されなかった。

CPF6745

装置&1は媒体ライブラリー装置でない。

上

TCP/IP ホスト・テーブル項目の除去 (RMVTCPHTE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IP ホスト・テーブル項目の除去 (RMVTCPHTE)コマンドは、IPアドレス、その関連ホスト名のすべて、および関連テキスト記述フィールドをローカル・ホスト・テーブルから除去するために使用されます。ローカル・ホスト・テーブルは、項目当たり1つのIPアドレス、65のホスト名、および1つのテキスト記述フィールドを使用できるように定義されています。

次のホスト・テーブル・コマンドも参照してください。

- TCP/IP ホスト・テーブル項目の追加 (ADDTCPHTE)コマンドは、ローカル・ホスト・テーブルに新しい項目を追加します。
- TCP/IP ホスト・テーブル項目の変更 (CHGTCPHTE)コマンドは、1つまたは複数のホスト名、あるいはテキスト記述フィールドを変更します。
- TCP/IPホスト・テーブルのコピー (CPYTCPHTE)コマンドは、ローカル・ホスト・テーブルの内容を物理ファイル・メンバーにコピーします。
- TCP/IP ホスト・テーブルの組み合わせ (MRGTCPHTE)コマンドは、ホスト名、インターネット・アドレス、およびテキスト注記項目を物理ファイル・メンバーからローカル・ホスト・テーブルに合併します。ローカル・ホスト・テーブル全体をユーザー指定の物理ファイル・メンバー中のホスト・テーブルで置き換えることのできる置き換えオプションも提供されています。
- TCP/IP ホスト・テーブル項目名の変更 (RNMTCPHTE)コマンドは、ホスト・テーブル項目のインターネット・アドレスを別のインターネット・アドレスに名前変更します。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
INTNETADR	IPアドレス	文字値	必須, 定位置 1

上

IPアドレス (INTNETADR)

ローカル・ホスト・テーブルから除去されるIPアドレスを指定します。IPv4 IPアドレスは、NNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定され、NNNは0から255までの範囲の10進数です。IPv4インターネット・アドレスは、そのアドレスのネットワークID部分またはホストID部分の値がすべて2進数の1またはすべて2進数の0の場合には、正しくありません。

IPv6 IPアドレスは、`x:x:x:x:x:x:x`の形式で指定することができます。ここで`x`は0からX'FFFF'の範囲の16進数です。IPv6アドレス中で「`::`」を1回使用して、すべてゼロの16個のビットからなる1つ以上のグループを示すことができます。「`::`」は、アドレスの先行ゼロ、組み込みゼロ、または後続ゼロを切り詰めるために使用できます。

IPv4マップされたIPv6アドレスを指定することができます。IPv4マップされたIPv6アドレスは`::FFFF:nnn.nnn.nnn.nnn`の形式で指定します。`nnn`は0から255までの範囲の10進数です。

コマンド入力行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

これは必須パラメーターです。

文字値 IPアドレスを指定してください。

上

例

例1: IPv4ホスト・テーブル項目の除去

```
RMVTCPHTE INTNETADR('132.28.71.5')
```

このコマンドは、IPアドレスの132.28.71.5をもつホスト・テーブル項目を除去します。これには、IPアドレス、すべての関連ホスト名、および項目と関連付けられたテキスト記述フィールドが含まれます。

例2: IPv6ホスト・テーブル項目の除去

```
RMVTCPHTE INTNETADR('1234::5678')
```

このコマンドは、IPアドレス1234::5678のホスト・テーブル項目を除去します。これには、IPアドレス、すべての関連ホスト名、および項目と関連付けられたテキスト記述フィールドが含まれます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP1901

IPアドレス&2が正しくない。

TCP1902

IPアドレス&1が正しくない。

TCP1907

IPアドレス項目&1が存在しない。

TCP1908

IPアドレス&1が正しくない。

TCP1929

ホスト・テーブルが使用できない。

TCP8050

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

306 System i: プログラミング i5/OS コマンド RETURN (戻り) ~

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

上

TCP/IPインターフェースの除去 (RMVTCPIFC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IPインターフェースの除去 (RMVTCPIFC)コマンドは、伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル(TCP/IP)インターフェースを除去します。インターフェースが活動状態の場合は、このコマンドを投入できません。TCP/IPインターフェースの終了 (ENDTCPIFC)またはTCP/IPの終了 (ENDTCP)コマンドを使用して終了する必要があります。

既存の経路またはリモート・システム情報(RSI)項目にとって必要なインターフェースを除去することはできません。

このコマンドは、TCP/IPインターフェースの追加 (ADDTCPIFC)コマンドによって追加されたインターフェースを除去する場合に使用できます。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
INTNETADR	IPアドレス	文字値, *IP6SAC	オプション, 定位置 1
ALIASNAME	別名	単純名	オプション
LIND	回線記述	名前, *ADRALIAS	オプション

上

IPアドレス (INTNETADR)

前にTCP/IPインターフェースの追加 (ADDTCPIFC)コマンドによってTCP/IP構成に追加されたインターフェースのIPアドレスを指定します。

注: コマンドには、INTNETADRかALIASNAMEのいずれかのパラメーターを指定する必要がありますが、両方は指定できません。

*IP4DHCP

関連の回線記述で動的ホスト構成プロトコルが除去されることを指定します。 LINDパラメーターに回線記述名を指定する必要があります。

*IP6SAC

関連の回線記述でIPv6ステートレス・アドレス自動構成が除去されることを指定します。 LINDパラメーターに回線記述名を指定する必要があります。

文字値 除去するインターフェースと関連したIPアドレスを指定してください。

IPv4 IPアドレスは、*NNN.NNN.NNN.NNN*の形式で指定され、*NNN*は0から255までの範囲の10進数です。IPアドレスは、そのアドレスのネットワークID (ID)部分またはホストID部分の値がすべて2進数の1またはすべて2進数の0 の場合には、正しくありません。

IPv6 IPアドレスは、*x:x:x:x:x:x:x*の形式で指定することができます。ここで*x*は0からX'FFFF'の範囲の16進数です。IPv6アドレス中で「::」を1回使用して、すべてゼロの16個のビットからなる1つ以上のグループを示すことができます。「::」は、アドレスの先行ゼロ、組み込みゼロ、または後続ゼロを切り詰めるために使用できます。

IPv6 IPアドレスはユニキャスト・アドレスでなければならず、IPv4アドレスを組み込むことはできません (互換性およびマップのため)。IPv6アドレスがリンク・ローカル・ユニキャスト・アドレスの場合は、LINDパラメーターに回線記述名を指定する必要があります。

コマンド入力行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければならない。

上

別名 (ALIASNAME)

除去されるインターフェースの名前を指定します。IPv4またはIPv6インターフェースの場合、別名を指定できます。

注: コマンドには、INTNETADRかALIASNAMEのいずれかのパラメーターを指定する必要がありますが、両方は指定できません。

単純名 除去されるインターフェースの名前を指定してください。

上

回線記述 (LIND)

除去されるインターフェースと関連した回線記述の名前を指定します。

*ADRALIAS

回線記述は、INTNETADR値かALIASNAME値のいずれかから決定されます。

名前 除去されるインターフェースと関連した回線記述の名前を指定してください。INTNETADR値が*IP4DHCP, *IP6SAC,またはIPv6リンク・ローカル・ユニキャスト・アドレスの場合、回線記述を指定する必要があります。

上

例

例1: トークンリング・インターフェースの除去

```
RMVTCPIFC INTNETADR('9.5.11.125')
```

このコマンドは、IPアドレス9.5.11.125と関連付けられたインターフェースを除去します。

例2: 別名を使用したトークンリング・インターフェースの除去

310 System i: プログラミング i5/OS コマンド RETURN (戻り) ~

```
RMVTCPIFC ALIASNAME(TEST_NETWORK)
```

このコマンドは、別名TEST_NETWORKに関連したインターフェースを除去します。

例3:イーサネットIPv6インターフェースの除去

```
RMVTCPIFC INTNETADR('1234:5678:9ABC:DEF0:1111:2222:3333:4444')
```

このコマンドは、アドレス1234:5678:9ABC:DEF0:1111:2222:3333:4444と関連付けられたIPv6インターフェースを除去します。

例4:イーサネットIPv6リンク・ローカル・インターフェースの除去

```
RMVTCPIFC INTNETADR('FE80::1234') LIND(ETHLINE)
```

このコマンドは、アドレスFE80::1234および回線記述ETHLINEと関連付けられたIPv6リンク・ローカル・インターフェースを除去します。

例5:イーサネット回線でのIPv6ステートレス・アドレス自動構成の除去

```
RMVTCPIFC INTNETADR(*IP6SAC) LIND(ETHLINE2)
```

このコマンドは、回線ETHLINE2のIPv6ステートレス・アドレス自動構成を除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP1D03

&1メンバーのレコード長が正しくない。

TCP1D04

&2/&3のメンバー&1の処理でエラーが起こった。

TCP1901

IPアドレス&2が正しくない。

TCP8050

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

上

TCP/IPポート制約事項の除去 (RMVTCPPORT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IPポート制約事項の除去 (RMVTCPPORT)コマンドは、ポートまたはポートの範囲を使用することのできるユーザー・プロファイルのリストから特定のユーザー・プロファイルを除去します。ユーザー・プロファイルの除去は、除去されるそのユーザー・プロファイルがポートまたはポートの範囲内の任意のポートを使用しなくなると同時に有効となります。

ポートには2つの独立したセットがあります。1つのセットはTCP処理用で、もう1つはUDP処理用です。これらは完全に独立したポートのセットであり、相互に関係はありません。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
PORT	ポートの値の範囲	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: 下限値	1-65535, *ALL	
	要素 2: 上限値	1-65535, *ONLY	
PROTOCOL	プロトコル	*UDP, *TCP	必須, 定位置 2
USRPRF	ユーザー・プロファイル	文字値	必須, 定位置 3

上

ポートの値の範囲 (PORT)

ポートまたはポートの範囲を使用することのできるユーザー・プロファイルのリストからユーザー・プロファイルを除去させるポート番号またはポート番号の範囲を指定します。有効な値の範囲は1から65535です。ただし、ポート1から1023はシステム提供のTCP/IPアプリケーションによって使用されるために予約されています。ユーザーがポート1から1023を指定した場合には、これらのアプリケーションの操作に影響する可能性があります。

これは必須パラメーターです。

要素1: 下限値

1から65535

ユーザー・プロファイルを除去したいポート値または下限ポート値を範囲で指定してください。

要素2: 上限値

***ONLY**

下限ポートの値に指定されたポート値は、ユーザー・プロファイルを除去するただ1つのポートの値です。

***ALL** 除去されるポートの範囲の値は1から65535です。

1から65535

ユーザー・プロファイルを除去したい上限ポート値を範囲で指定してください。

上

プロトコル (PROTOCOL)

ポートまたはポートの範囲を排他使用するユーザー・プロファイルのリストから除去されるユーザー・プロファイルをもっているポートまたはポートの範囲と関連したトランスポート・プロトコルを指定します。

これは必須パラメーターです。

***UDP** ポートはユーザー・データグラム・プロトコル(UDP)トランスポート・プロトコル・ポートです。

***TCP** ポートは伝送制御プロトコル(TCP)トランスポート・プロトコル・ポートです。

上

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

ポートまたはポートの範囲を同時に使用できないユーザー・プロファイルのリストからプロファイルを除去するユーザー・プロファイルの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 除去するユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

上

例

例1:単一ユーザー・プロファイルに対する除去の除去

```
RMVTCPPORT PORT(1590) PROTOCOL(*UDP) USRPRF(USER1)
```

このコマンドは、UDPポート1590に対するUSER1という名前のユーザー・プロファイルについての制限を除去します。このユーザー・プロファイルは、ポート番号1590を使用できるユーザー・プロファイルのリストから除去されます。

例2:ポート範囲に対する制限の除去

```
RMVTCPPORT PORT(1590 2000) PROTOCOL(*TCP) USRPRF(USER2)
```

このコマンドは、TCPポート1590からポート2000までに対するUSER2という名前のユーザー・プロファイルについての制限を除去します。このユーザー・プロファイルは、ポート1590からポート2000までを使用できるユーザー・プロファイルのリストから除去されます。

例3:全ポートの除去

RMVTCPPORT PORT(*ALL) PROTOCOL(*TCP) USRPRF(USER3)

このコマンドは、TCPポート1からポート65535までに対するUSER3という名前のユーザー・プロファイルについての制限を除去します。ユーザーがこの制限範囲内のポートをもっていなくても、このコマンドは正常に完了します。このユーザー・プロファイルは、TCPポートのいずれも使用できるユーザー・プロファイルのリストから除去されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP1D03

&1メンバーのレコード長が正しくない。

TCP1D04

&2/&3のメンバー&1の処理でエラーが起こった。

TCP26E2

ユーザー・プロファイル&1が破損している。

TCP26E4

ポート制限アクションは成功しましたが、TCP/IPエラーが起こりました。

TCP26E7

'*ALL'と'*ONLY'を持つことはできない。

TCP26FA

ポートの制約事項&1 - &2は除去されなかった。

TCP26FB

ユーザー・プロファイル&1が存在していない。

TCP26FC

上位ポートの値は*ONLYでなければならない。

TCP26FD

ポート&1が見つからない。

TCP26F1

ポートの範囲が正しくない。

TCP26F2

ポートの制約事項&1 - &2の除去は正しくない。

TCP8050

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

TCP9503

ライブラリー&2のファイル&3が使用できない。

TCP9526

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

POINT-TO-POINT プロファイルの除去 (RMVTCPPPTP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

POINT-TO-POINT プロファイルの除去 (RMVTCPPPTP)コマンドは、POINT-TO-POINT接続プロファイルを除去するために使用されます。プロファイル(QUSRSYS/プロファイル名) に関連した出力待ち行列 (*OUTQ)オブジェクトのある場合があります、この*OUTQも除去されることになります。

オプションで、このプロファイルと関連したすべての関連通信オブジェクトも削除することができます。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CFGPRF	プロファイルの構成	文字値	必須, 定位置 1
DLTCMNCFG	通信構成の削除	*NO, *YES	オプション

上

プロファイルの構成 (CFGPRF)

除去するPOINT-TO-POINT構成プロファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

文字値 除去する、有効で非活動状態のPOINT-TO-POINT構成プロファイルの名前を指定してください。

上

通信構成の削除 (DLTCMNCFG)

このPOINT-TO-POINTプロファイルに関連したすべての通信構成オブジェクトを削除したいかどうかを指定します。これには、このプロファイルで使用するために定義された回線、制御装置、および装置記述が含まれます。オプションで、一部のプロファイル・タイプの場合には、削除中の回線記述に関連したすべてのネットワーク・インターフェース記述および接続リストも含めることができます。

***NO** 現在このPOINT-TO-POINTプロファイルに関連しているどの通信構成も削除しません。

***YES** このPOINT-TO-POINTプロファイルに関連した通信構成を削除します。

注: 削除する通信構成オブジェクトに、他のPOINT-TO-POINTプロファイルまたはそれを使用する回線記述が含まれているか、あるいは「オフに変更」状態であることが分かった場合には、それは削除されません。通信オブジェクトが削除されない場合には、その理由を示すメッセージが送られます。

上

例

例1:POINT-TO-POINTプロファイルの削除

```
RMVTCPPTP  CFGPRF(SLIPPROF)
```

このコマンドは、SLIPPROFという名前のPOINT-TO-POINTプロファイルを除去します。このプロファイルと関連付けられた通信構成オブジェクトはすべて削除されません。

例2:プロファイルおよび関連通信構成オブジェクトの削除

```
RMVTCPPTP  CFGPRF(ANSPROF) DLTCMNCFG(*YES)
```

このコマンドは、ANSPROFという名前のPOINT-TO-POINTプロファイルおよびそのプロファイルと関連付けられた通信構成オブジェクトのすべてを除去します。さらに、構成オブジェクトのいずれか（回線記述など）が他のPOINT-TO-POINTプロファイルと共用されていることが分かると、そのオブジェクトは削除されません。オブジェクトが削除されない場合は、削除されなかったオブジェクトおよびその理由が示されている診断メッセージが送信されることとなります。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP83E0

POINT-TO-POINTプロファイル&1は除去されていません。

上

TCP/IP リモート・システムの除去 (RMVTCPRSI)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IP リモート・システムの除去 (RMVTCPRSI)コマンドは、IPアドレスをTCP/IP構成の中のX.25ネットワーク・アドレスと関連づけるリモート・システム情報項目を除去します。

X.25ネットワークのSVCまたはPVCで活動中のIPアドレスと関連したリモート・システム情報項目を除去しようとする場合には、除去操作は正常に実行されません。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
INTNETADR	IPアドレス	文字値	必須, 定位置 1

上

IPアドレス (INTNETADR)

リモート・システムのIPアドレスを指定します。IPアドレスはNNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定されます。ここでNNNは0から255の範囲の10進数です。IPアドレスは、そのアドレスのネットワークID (ID)部分またはホストID部分の値がすべて2進数の1またはすべて2進数の0 の場合には、正しくありません。コマンド入力行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

上

例

```
RMVTCPRSI INTNETADR('128.1.1.10')
```

このコマンドは、IPアドレス128.1.1.10を、対応しているX.25ネットワーク・アドレスおよびその他のデータと一緒に、TCP/IP構成リモート・システム情報データから除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP1D03

&1メンバーのレコード長が正しくない。

TCP1D04

&2/&3のメンバー&1の処理でエラーが起こった。

TCP1901

IPアドレス&2が正しくない。

TCP1902

IPアドレス&1が正しくない。

TCP1908

IPアドレス&1が正しくない。

TCP26D4

リモート・システム情報は除去されなかった。

TCP26D5

ファイルの処理中にエラーが起こった。

TCP8050

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

上

TCP/IP経路の除去 (RMVTCPRTE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IP経路の除去 (RMVTCPRTE)コマンドは、前に識別された経路を伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル(TCP/IP)構成から除去します。

5つのパラメーターでIPv4経路を固有に定義します。これらの値は経路の宛先(RTEDEST)、サブネット・マスク(SUBNETMASK)、サービスのタイプ(TOS)、経路上のネクスト・システムのIPv4アドレス(NEXTHOP)、および優先バインド・インターフェース(BINDIFC)です。省略時の経路および省略時のマルチキャスト経路(*DFTRROUTEおよび*DFTMCAST)の場合には、SUBNETMASKが常に*NONEであるので、NEXTHOP、TOS、およびBINDIFCの値が固有に経路を定義します。

4つのパラメーターでIPv6経路を固有に定義します。これらの値は、経路の宛先(RTEDEST)、アドレスの接頭部の長さ(ADRPFXLEN)、経路上のネクスト・システムのIPv6アドレス(NEXTHOP)、およびバインド回線記述(BINDLIND)です。

注: TCP/IP経路の処理画面のオプション4を使用してRMVTCPRTEコマンドを入力した場合には、確認画面が表示されます。この画面は、経路の除去によって活動状態のTCP接続が影響を受ける場合があり、予測できない結果が起こる可能性があることを警告します。RMVTCPRTE CLコマンドを直接出した場合には、確認画面は表示されません。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。
- 既存のRSI項目に到達するために必要な経路を除去しようとしても、正常に除去されません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
RTEDEST	経路宛先	文字値, *DFTRROUTE, *DFTMCAST, *DFT6ROUTE, *DFT6MCAST	必須, 定位置 1
SUBNETMASK	サブネット・マスク	文字値, *NONE, *HOST	オプション, 定位置 2
TOS	TYPE OF SERVICE	*MINDELAY, *MAXTHRPUT, *MAXRLB, *MINCOST, *NORMAL	オプション, 定位置 3
NEXTHOP	ネクスト・ホップ	文字値	オプション
ADRPFXLEN	アドレス接頭部の長さ	1-128, 64, *HOST, *NONE	オプション
BINDIFC	優先バインド・インターフェース	文字値, *NONE	オプション
BINDLIND	回線記述のバインド	名前	オプション

経路宛先 (RTEDEST)

除去する経路宛先を指定します。

IPv4経路の場合、IPアドレスを構成する4バイトすべてを指定しなければなりません（バイトのいくつかは0でも可）。例えば、9.5.11サブネットワーク上のすべてのホストへの経路は、経路宛先に9.5.11.0を入力することによって識別されます。サブネット・マスク、Type of Service値、およびネクスト・ホップと組み合わせて使用すると、経路の宛先はネットワークまたはシステムへの経路を固有に識別します。

IPv6経路の場合、16バイトのIPv6アドレス全体を指定し、RTEDESTフィールドの接尾部部分をゼロにする必要があります。例えば、RTEDEST値が:5678::で、アドレスの接頭部の長さ(ADRPFXLEN)が32というのは有効な組み合わせですが、RTEDEST値 1234:5678:8000::で、ADRPFXLENが32というのは有効な組み合わせではありません。

これは必須パラメーターです。

*DFTRROUTE

省略時のIPv4経路が除去されることを指定します。省略時の経路は、特定の経路が定義されていないリモート宛先にデータを送信するために、システムによって使用されます。省略時の経路指定は、次のホップ・ゲートウェイが使用可能であるかどうかおよびサービスのタイプ(TOS)に基づいて使用されます。アプリケーションが特定のTOSを要求する場合には、使用される省略時の経路のTOSが要求されたTOSと一致しなければなりません。要求されたTOSと一致する省略時の経路が見つからない場合には、TOSが*NORMALである最初に使用可能な省略時の経路が使用されます。

*DFTMCAST

除去しようとしている静的IPv4経路が省略時のマルチキャスト経路であることを示すには、*DFTMCAST特殊値を使用してください。省略時のマルチキャスト経路は、データをマルチキャスト宛先アドレスに送信するが、特定の発信インターフェースが指定されていない場合に、アプリケーションによって使用されます。

注: RTEDEST(*DFTMCAST)を指定した時には、SUBNETMASK(*NONE)も指定しなければならず、NEXTHOPパラメーターはローカルTCP/IPインターフェース（このシステム上）でなければなりません。

*DFT6ROUTE

省略時のIPv6経路が除去されることを指定します。省略時のIPv6経路は、特定の経路が定義されていないリモートIPv6宛先にデータを送信するために、システムによって使用されます。

*DFT6ROUTEを指定する場合、ADRPFXLENに*NONEを指定する必要があります。

*DFT6MCAST

省略時のIPv6マルチキャスト経路が除去されることを指定します。省略時のIPv6マルチキャスト経路は、データをIPv6マルチキャスト宛先アドレスに送信するが、特定の発信物理インターフェースが指定されていない場合に、アプリケーションによって使用されます。*DFT6MCASTを指定する場合、ADRPFXLENに*NONEを指定する必要があります。

文字値 除去される経路宛先を指定してください。IPv4経路の場合、経路宛先は、クラスAでは`nnn.0.0.0`、クラスBでは`nnn.nnn.0.0`、クラスCでは`nnn.nnn.nnn.0`、任意の組み合わせでは`nnn.nnn.nnn.nnn`の形式で指定することができます。ここで`nnn`は0から255の範囲の10進数です。

これらの任意の組み合わせとは、すべての9.5.X.XアドレスがクラスAネットワーク・アドレスであっても、9.5サブネット上のホストに9.5.0.0などのリモート経路宛先を指定できることを意味しています。

例外：

- 最初のバイト（オクテット）は0より大きく、255より小さくなければなりません。
- 最後のバイト（オクテット）を255と等しくすることはできません。
- SUBNETMASKの値として*HOSTが指定されている場合には、最後のバイト（オクテット）を0と等しくすることはできません。
- ブロードキャスト・アドレスへの経路指定は許されません。

IPv6経路の場合、経路宛先は、 $x::x::x::x::x::x$ の形式で指定することができます。ここで x は0からX'FFFF'の範囲の16進数です。「::」は、1つまたは複数のゼロの16ビット・グループを示すために経路宛先で1回使用できます。「::」は、経路宛先で先行ゼロ、組み込みゼロ、または後続ゼロを切り詰めるために使用できます。経路宛先の接尾部部分にはゼロが必要です。

上

サブネット・マスク (SUBNETMASK)

経路宛先(RTEDEST)に指定された値のどのビットがIPアドレスのネットワークおよびサブネット部分を構成するかをTCP/IPに対して識別するビット・マスクを指定します。RTEDESTアドレスのネットワーク部分およびサブネットワーク部分を定義することによって、サブネット・マスクもRTEDESTアドレスのどのビットがホスト部分を構成するかを定義します。

マスクは、特定のサブネットワークを判別するためにIPアドレスと論理AND結合した32ビットの組み合わせです。値1に設定されたマスクのビットは、アドレスのネットワークおよびサブネットワーク部分を決定します。値ゼロ(0)に設定されたビットは、アドレスのホスト部分を決定します。

RTEDESTがIPv6アドレスである場合は、SUBNETMASKは無視されます。

***NONE**

サブネット・マスクは使用されません。省略時の経路を指定すると、サブネット・マスクは使用されません。例えば、RTEDEST(*DFTMCAST)またはRTEDEST(*DFTRROUTE)を指定する場合には、SUBNETMASK(*NONE)も指定しなければなりません。

***HOST**

経路宛先フィールドに指定されたIPアドレス値はホスト・アドレスです。サブネット・マスクの値は、255.255.255.255となるように計算されます。

文字値 サブネット・フィールドのマスクを指定してください。IPアドレスは $NNN.NNN.NNN.NNN$ の形式です。ここで NNN は0から255の範囲の10進数です。例えば、宛先経路のIPアドレス値129.35.192.0はクラスBのサブネットワークを識別します。そのアドレスのネットワークID部分は129.35です。アドレスの特定のクラスのネットワーク部分に関連したサブネット・マスクの部分は255でなければなりません。したがって、サブネット・マスクの上位2バイトは255.255と等しくなければなりません。この例のサブネット・マスクは、3番目のオクテットがIPアドレスのサブネットワークID部分として使用されている場合には、255.255.192.0とすることができます。

上

TYPE OF SERVICE (TOS)

使用するTYPE OF SERVICEを指定します。TYPE OF SERVICEは、インターネット・ホストおよびルーターがスループット、遅延、信頼性、およびコストの間で行うトレードオフを定義します。

RTEDESTがIPv6アドレスである場合は、TOSは無視されます。

*NORMAL

データの転送に通常のサービスが使用されます。

*MINDELAY

遅延の最小化は、この接続ではデータのプロンプト配信が重要であることを意味します。

*MAXTHRPUT

スループット最大化は、この接続でデータに対する高いデータ速度が重要であることを意味します。

*MAXRLB

信頼性最大化は、この接続でデータに対する配布を確実にするための高水準の取り組みが重要であることを意味します。

*MINCOST

金銭上のコストの最小化は、この接続ではデータのコストの低下が重要であることを意味します。

上

ネクスト・ホップ (NEXTHOP)

経路上のネクスト・システム（ゲートウェイ）のIPアドレスを指定します。

注: RTEDESTでIPv4アドレスを指定する場合は、NEXTHOPにIPv4アドレスを指定する必要があります。

RTEDESTでIPv6アドレスを指定する場合は、NEXTHOPにIPv6アドレスを指定する必要があります。

文字値 IPアドレスを指定してください。

IPv4 IPアドレスは、*NNN.NNN.NNN.NNN*の形式で指定され、*NNN*は0から255までの範囲の10進数です。IPv4インターネット・アドレスは、そのアドレスのネットワークID部分またはホストID部分の値がすべて2進数の1またはすべて2進数の0の場合には、正しくありません。

IPv6 IPアドレスは、*x::x::x::x::x::x*の形式で指定することができます。ここで*x*は0からX'FFFF'の範囲の16進数です。IPv6アドレス中で「::」を1回使用して、すべてゼロの16個のビットからなる1つ以上のグループを示すことができます。「::」は、アドレスの先行ゼロ、組み込みゼロ、または後続ゼロを切り詰めるために使用できます。

:: (ヌルのIPv6アドレス), ::1 (IPv6ループバック), およびFF (IPv6マルチキャスト・アドレス) で始まるアドレスは使用できません。

コマンド入力行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければならない。

上

アドレス接頭部の長さ (ADRPFXLEN)

RTEDESTパラメーターのIPv6アドレスの接頭部の長さ (ビット単位) を指定します。アドレスの接頭部の長さは、IPv6アドレスの左側でサブネット接頭部となっている部分の量を指定します。このパラメーターが適用されるのは、RTEDESTがIPv6アドレスである場合だけです。

64 大半のIPv6ネットワークは64ビットのインターフェースID (アドレス接尾部) をもっているため、省略時の値は64です。

*HOST

RTEDESTフィールドは、特定のホスト・システムのIPv6アドレスを指定します。*HOSTは、値128に相当します。

*NONE

アドレスの接頭部の長さは指定されません。

I-128 RTEDEST IPv6アドレスの左側でサブネット接頭部となっている部分の量を指定します。

上

優先バインド・インターフェース (BINDIFC)

この経路がバインドされているIPインターフェースを指定します。

RTEDESTがIPv6アドレスである場合は、BINDIFCは無視されます。

*NONE

この経路に対して特定のIPインターフェースがバインドされていません。NEXTHOPおよびSUBNETMASKパラメーターによって定義されたネットワーク上の最初の活動状態のIPインターフェースが使用されます。これが省略時の値です。

文字値 この経路がバインドされているインターフェースのIPアドレスを入力してください。

上

回線記述のバインド (BINDLIND)

この経路がバインドされている回線記述(LIND)オブジェクトを指定します。この値は、IPv6経路の場合に指定する必要がありますが、IPv4経路の場合は無視されます。

名前 回線記述の名前を指定してください。

上

例

例1:経路の除去

```
RMVTCPRTE RTEDEST('132.65.0.0') SUBNETMASK('255.65.0.0')
           TOS(*MINDELAY) NEXTHOP('9.5.15.1')
```

このコマンドは、サブネット・マスクの255.65.0.0、TYPE OF SERVICE (TOS)の*MINDELAY、およびネクスト・ホップの9.5.15.1で132.65.0.0として識別された経路を除去します。

例2:省略時経路の除去

```
RMVTCPRTE RTEDEST(*DFTRROUTE) SUBNETMASK(*NONE)
           NEXTHOP('186.34.76.92')
```

このコマンドは、省略時経路(*DFTRROUTE)として識別されたホスト経路を除去します。サブネット・マスクは*NONEとして指定され、TYPE OF SERVICE (TOS)のサブネット・マスクとして*NORMALが使用されます。サブネット・マスク、TYPE OF SERVICE (TOS),およびネクスト・ホップ値により、この*DFTRROUTEはその他の考えられる8個の*DFTRROUTE項目と区別されます。

例3:IPv6経路の除去

```
RMVTCPRTE RTEDEST('1234:5678::') ADRPFLEN(32)
           NEXTHOP('AAAA::BBBB') BINDLIND(ETHLINE)
```

このコマンドは、経路宛先1234:5678::,アドレスの接頭部の長さ32,ネクスト・ホップaaaa::bbbb,およびバインド回線記述ETHLINEで識別されたIPv6経路を除去します。

例4:省略時のIPv6経路の除去

```
RMVTCPRTE RTEDEST(*DFT6ROUTE) ADRPFLEN(*NONE)
           NEXTHOP('AAAA::CCCC') BINDLIND(ETHLINE2)
```

このコマンドは、ネクスト・ホップaaaa::ccccおよびバインド回線記述ETHLINE2で識別された省略時のIPv6経路を除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP1D03

&1メンバーのレコード長が正しくない。

TCP1D04

&2/&3のメンバー&1の処理でエラーが起こった。

TCP1901

IPアドレス&2が正しくない。

TCP261C

処理は正常に完了した。

TCP264A

&2 &1は除去されなかった。

TCP8050

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

上

TCP/IPサーバーの除去 (RMVTCPSVR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IPサーバーの除去 (RMVTCPSVR)コマンドは、前にTCP/IPサーバーの追加 (ADDTCPSVR)コマンドで追加されたサーバーを除去するために使用されます。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)および全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SVRSPCVL	サーバー特殊値	文字値	必須, 定位置 1

上

サーバー特殊値 (SVRSPCVL)

除去されるサーバーの特殊値を指定します。

文字値 除去されるサーバーの特殊値を指定してください。

上

例

```
RMVTCPSVR SVRSPCVL(*XYZ)
```

このコマンドは、STRTCPSVR (TCP/IPサーバー開始) およびENDTCPSVR (TCP/IPサーバー終了) CLコマンドによってサポートされるサーバーのリストからサーバー特殊値*XYZを除去します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

TCP1641

TCP/IPサーバー&1は除去されません。

TCP/IPテーブルの除去 (RMVTCPTBL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IPテーブル除去(RMVTCPTBL)コマンドは、IPフィルター・テーブルまたはIPネットワーク・アドレス変換テーブルを使用できないように除去（アンロード）するために使用されます。RMVTCPTBLは、侵入検知システム(IDS)を非活動化するためにも使用できます。

制約事項:

このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
TBL	テーブル	<u>*ALLRULE</u> , *ALL, *IPFTR, *IPNAT, *IDS	オプション、定位置 1

上

テーブル (TBL)

使用から除去するテーブルを指定します。選択されたテーブル・タイプごとに、コマンドがすべての物理インターフェースからテーブルを除去することに注意してください。*IDSタイプの選択の場合、コマンドは侵入検知システム(IDS)を非活動化します。

*ALLRULE

IPフィルター規則とIPネットワーク・アドレス変換規則の両方が除去されます。侵入検知システム(IDS)は非活動化されません。

***ALL** IPフィルター規則およびIPネットワーク・アドレス変換規則が除去され、侵入検知システム(IDS)が非活動化されます。

***IPFTR**

IPフィルター規則だけが除去されます。

***IPNAT**

IPネットワーク・アドレス変換規則だけが除去されます。

***IDS** 侵入検知システム(IDS)が非活動化されるだけです。

上

例

RMVTCPTBL

このコマンドは、すべてのルール・ファイルを使用状態から除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP8050

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

上

トレース除去 (RMVTRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

トレース除去(RMVTRC)コマンドは、1つまたは複数のトレース追加(ADDTRC)コマンドでプログラムのデバッグに使用するために指定されているトレースの全部または一部を除去します。除去しようとしているトレースによってすでに作成されているトレース・データは、このコマンドによって影響を受けることはありません。このデータは、トレース・データ消去(CLRTRCDTA)コマンドによって除去することができます。デバッグ変更(CHGDBG)コマンドまたはデバッグ開始(STRDBG)コマンドで指定したトレースの限界は変更されません。

トレース除去(RMVTRC)コマンドでは、ユーザーは、トレースを必要としなくなったHLLステートメントIDまたは機械語命令番号の範囲を指定します。1つのトレースを除去するためには、トレース追加(ADDTRC)コマンドで指定したのと正確に同じ範囲を指定しなければなりません。1つのコマンドで、最高5組のトレース範囲を指定することができます。

制約事項:

- このコマンドを使用できるのは、デバッグ・モードの時だけです。デバッグ・モードを開始するためには、デバッグ開始(STRDBG)コマンドを参照してください。
- 別のジョブをサービス中で、そのジョブがジョブ待ち行列上にあるか、あるいは保留、延期、または終了中の場合には、このコマンドを使用することはできません。
- このコマンドを使用して、バインド済みプログラムからトレースを除去することはできません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
STMT	除去するトレース・ステートメント	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション、定位置 1
	要素 1: 開始ステートメント識別コード	文字値	
	要素 2: 終了ステートメント識別コード	文字値	
PGM	プログラム	名前, <u>*DFTPGM</u> , *ALL	オプション、定位置 2

上

除去するトレース・ステートメント (STMT)

トレースを必要としなくなったトレース・ステートメントのステートメントIDまたは機械語命令番号を指定します。プログラムからトレースを除去するためには、*ALLを指定する場合を除いて、トレース追加(ADDTRC)コマンドに指定されているものと同じステートメントIDを、ここに指定しなければなりません。

それらを除去するためには、ADDTRCコマンドにトレース・ステートメントを指定するために使用される方式(すなわち、HLLステートメントID対機械語命令番号)をここでも使用しなければなりません。

***ALL** トレース追加(ADDTRC)コマンドでトレースがどのように定義されているかに関係なく、指定したプログラムの中のすべての高水準言語(HLL)ステートメントまたは機械語命令(あるいはその両方)が、以後はトレースされなくなります。

開始ステートメントID 終了ステートメントID

今後のトレースから除去したい最初のトレース・ステートメントのHLLステートメントID(または機械語命令番号)を指定してください。必要であれば、除去される最後のステートメントのIDを指定することができます。ただし、トレース追加(ADDTRC)コマンドで終了ステートメントを指定した場合には、ここでも終了ステートメントを指定しなければなりません。このコマンドの1回の使用で、プログラム内のトレース範囲を5つまで指定することができます。

ステートメントを除去するためには、トレース追加(ADDTRC)コマンドでトレース・ステートメントの追加のために使用した方式(つまり、HLLステートメントIDかそれとも機械語命令番号か)を、ここでも使用しなければなりません。

上

プログラム (PGM)

今後のトレース操作から除去したいトレース・ステートメントの入っているプログラム(または全プログラム)を指定します。

***DFTPGM**

トレースから除去するステートメントは、前に省略時のプログラムとして指定されているプログラムに入っています。

ALL** 現在トレース範囲を含んでいるすべてのプログラムのすべてのトレース範囲が除去されます。ADDTRCコマンドによってさらにトレースを追加しない限り、デバッグ・モードにあるどのプログラムでも、トレースを行うことはできなくなります。ALL**は、**除去するトレース・ステートメント (STMT)**パラメーターに値を指定しなかった場合に限り有効です。

名前 指定したトレース・ステートメント(またはすべてのトレース・ステートメント)を除去したいプログラムの名前を指定してください。

上

例

RMVTRC

このコマンドは、現在省略時のプログラムとして指定されているプログラム内でトレースに使用されているすべてのトレース・ステートメントを除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1999

コマンドでエラーが起こった。

上

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-8711
東京都港区六本木3-2-12
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Software Interoperability Coordinator, Department YBWA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、IBM 機械コードのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. _年を入れる_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

プログラミング・インターフェース情報

本書 (i5/OS コマンド) には、プログラムを作成するユーザーが IBM i5/OS のサービスを使用するためのプログラミング・インターフェースが記述されています。

商標

以下は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Advanced Function Printing
AFP
AS/400
CICS
COBOL/400
C/400
DataPropagator
DB2
Distributed Relational Database Architecture
Lotus Domino
DRDA
IBM
Infoprint
InfoWindow
i5/OS
iSeries
Integrated Language Environment
Lotus
LPDA
OfficeVision
Print Services Facility
RPG/400
System i
System x
SystemView
System/36
TCS
Tivoli
WebSphere
z/OS

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、および PostScript ロゴは、米国およびその他の国における Adobe Systems Incorporated の商標または登録商標です。

Intel、Intel (ロゴ)、Intel Inside、Intel Inside (ロゴ)、Intel Centrino、Intel Centrino (ロゴ)、Celeron、Intel Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

コードに関するライセンス情報および特記事項

IBM は、お客様に、すべてのプログラム・コードのサンプルを使用することができる非独占的な著作使用権を許諾します。お客様は、このサンプル・コードから、お客様独自の特別のニーズに合わせた類似のプログラムを作成することができます。

強行法規で除外を禁止されている場合を除き、IBM、そのプログラム開発者、および供給者は「プログラム」および「プログラム」に対する技術的サポートがある場合にはその技術的サポートについて、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、IBM および IBM のサプライヤーならびに IBM ビジネス・パートナーは、その予見の有無を問わず発生した以下のものについて賠償責任を負いません。

1. データの喪失、または損傷。
2. 直接損害、特別損害、付随的損害、間接損害、または経済上の結果的損害
3. 逸失した利益、ビジネス上の収益、あるいは節約すべかりし費用

国または地域によっては、法律の強行規定により、上記の責任の制限が適用されない場合があります。



Printed in Japan